

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1010	授業科目名	古代文学特論I	期間
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	古代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、古代文学の研究手法・問題点等について議論する。 さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、古代文学の諸問題について理解を深める。			
到達目標	到達目標 1 学術論文の読み方について修得できる。 到達目標 2 修士論文執筆に応用できる。			
成績評価基準	授業内での学術論文演習 70% 論文執筆 30%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。			
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 修士論文構成案の検討（1）各章の検討</li> <li>3. 修士論文構成案の検討（2）各節の検討</li> <li>4. 論文読解・討議（1）第1論文</li> <li>5. 論文読解・討議（2）第2論文</li> <li>6. 論文読解・討議（3）第3論文</li> <li>7. 論文読解・討議（4）第4論文</li> <li>8. 論文読解・討議（5）第5論文</li> <li>9. 論文読解・討議（6）第6論文</li> <li>10. 論文読解・討議（7）第7論文</li> <li>11. 論文読解・討議（8）第8論文</li> <li>12. 論文読解・討議（9）第9論文</li> <li>13. 論文読解・討議（10）第10論文</li> <li>14. 参考文献目録の作成</li> <li>15. 議論の総括</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1015	授業科目名	古代文学特論II	期間
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	古代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、古代文学の研究手法・問題点等について議論する。 さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、古代文学の諸問題について理解を深める。			
到達目標	到達目標 1 学術論文の読み方について修得できる。 到達目標 2 修士論文執筆に応用できる。			
成績評価基準	授業内での学術論文演習 70% 論文執筆 30%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。			
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 修士論文目次案の検討（1）目次案の作成</li> <li>3. 修士論文目次案の検討（2）目次案の討議</li> <li>4. 論文読解・討議（1）第1論文</li> <li>5. 論文読解・討議（2）第2論文</li> <li>6. 論文読解・討議（3）第3論文</li> <li>7. 論文読解・討議（4）第4論文</li> <li>8. 論文読解・討議（5）第5論文</li> <li>9. 論文読解・討議（6）第6論文</li> <li>10. 論文読解・討議（7）第7論文</li> <li>11. 論文読解・討議（8）第8論文</li> <li>12. 論文読解・討議（9）第9論文</li> <li>13. 論文読解・討議（10）第10論文</li> <li>14. 参考文献目録の作成</li> <li>15. 議論の総括</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1020	授業科目名	古代文学特論III	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	本授業では、〈在／不在〉、〈系図〉、〈予言・夢〉、〈タイムラグ〉、〈移動・離合集散〉等をキーワードに、物語展開の仕組みについて検証しつつ、修士論文執筆にかかる基礎的技法の習得を図る。桂宮本『うつほ物語』を主に取り上げ、『源氏物語』等、後続の物語への影響とともに考察を進める予定であるが、受講者の状況によってはこの限りでない。			
到達目標	平安期物語の特徴と問題点について理解を深める。作品解釈の具体的方法を習得する。受講者各自のテーマに沿った論文執筆の技法を身につける。			
成績評価基準	平安期物語の特徴と問題点について理解しているか。本授業で扱う方法論について理解しているか。論文執筆の技法を理解しているか。口頭発表と質疑応答の方法は適切か。以上の観点から評価を行う。 レポート 40%、発表内容と質疑応答状況 40%、復習シート10%、口頭試問 10%。			
留意事項	写本及び古注釈を適宜用いる。変体仮名・くずし字・漢文が読めること。また、関係する先行研究について、積極的に調べておくこと。授業は演習を含む形式となるため、その際は、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。なお、規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。 「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することが望ましい。			
教材	『桂宮本 宇津保物語 俊蔭巻 宮内庁書陵部蔵』（神作光一編）笠間書院			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 日本古代文学全般の特徴と問題点</li> <li>3. 〈在／不在〉と先行研究①</li> <li>4. 〈在／不在〉と先行研究②</li> <li>5. 〈系図〉と先行研究①</li> <li>6. 〈系図〉と先行研究②</li> <li>7. 〈タイムラグ〉と先行研究</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 〈予言・夢〉と先行研究①</li> <li>10. 〈予言・夢〉と先行研究②</li> <li>11. 〈移動・離合集散〉と先行研究①</li> <li>12. 〈移動・離合集散〉と先行研究②</li> <li>13. 〈人物造型〉と先行研究①</li> <li>14. 〈人物造型〉と先行研究②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1025	授業科目名	古代文学特論IV	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	本授業では、〈在／不在〉、〈系図〉、〈予言・夢〉、〈タイムラグ〉、〈移動・離合集散〉、〈政治〉、〈享受〉等をキーワードに、物語展開の仕組みについて検証しつつ、修士論文執筆にかかる基礎的技法の習得を図る。桂宮本『うつほ物語』を主に取り上げ『源氏物語』等、後続の物語への影響とともに考察を進める予定であるが、受講者の状況によってはこの限りでない。			
到達目標	平安期物語の特徴と問題点について理解を深める。作品解釈の具体的方法を習得する。受講者各自のテーマに沿った論文執筆の技法を身につける。			
成績評価基準	平安期物語の特徴と問題点について理解しているか。本授業で扱う方法論について理解しているか。論文執筆の技法を理解しているか。口頭発表と質疑応答の方法は適切か。以上の観点から評価を行う。 レポート 40%、発表内容と質疑応答状況 40%、復習シート10%、口頭試問 10%。			
留意事項	写本及び古注釈を適宜用いる。変体仮名・くずし字・漢文が読めること。また、関係する先行研究について、積極的に調べておくこと。授業は演習を含む形式となるため、その際は、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。なお、規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。 「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することが望ましい。			
教材	『桂宮本 宇津保物語 俊蔭巻 宮内庁書陵部蔵』（神作光一編）笠間書院			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 平安期物語の特徴と問題点</li> <li>3. 〈政治〉と先行研究①</li> <li>4. 〈政治〉と先行研究②</li> <li>5. 〈政治〉と先行研究③</li> <li>6. 〈政治〉と先行研究④</li> <li>7. 〈サブカルチャー〉と先行研究</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 〈享受〉と先行研究①</li> <li>10. 〈享受〉と先行研究②</li> <li>11. 〈享受〉と先行研究③</li> <li>12. 〈享受〉と先行研究④</li> <li>13. その他観点と先行研究①</li> <li>14. その他観点と先行研究②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1030	授業科目名	中世文学特論I	期間
担当者	田仲 洋己	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義では、主に平安中期から院政期に成立した幾つかの歌論歌学書を取り上げて、その内容や特質、成立の背景等について検討する。資料に即しつつ歌論書・歌学書の記事を精読した上で、その背景にある中世人の和歌観について考える。			
到達目標	歌論書、歌学書の記事を読み解く作業を通じて、平安末期から新古今時代にかけての歌人たちのものの考え方や和歌観等を知る。併せて、和歌の表現を巡る様々な言説について理解を深める。			
成績評価基準	授業中の活動と学期末のレポート等によって、総合的に評価する。			
留意事項	必要に応じて、演習的な内容を盛り込む場合がある。			
教材	授業中に配付する資料を用いる。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 『古今集仮名序』の歌論（1）</li> <li>3. 『古今集仮名序』の歌論（2）</li> <li>4. 『古今集仮名序』の歌論（3）</li> <li>5. 藤原公任の歌論（1）</li> <li>6. 藤原公任の歌論（2）</li> <li>7. 『俊頼髓脳』を巡って（1）</li> <li>8. 『俊頼髓脳』を巡って（2）</li> <li>9. 『俊頼髓脳』を巡って（3）</li> <li>10. 『俊頼髓脳』を巡って（4）</li> <li>11. 六条藤家の歌学（1）</li> <li>12. 六条藤家の歌学（2）</li> <li>13. 六条藤家の歌学（3）</li> <li>14. 六条藤家の歌学（4）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1035	授業科目名	中世文学特論II	期間
担当者	田仲 洋己	授業形態	講義	単位数
授業概要	本講義では、主に院政期から鎌倉時代前期に成立した幾つかの歌論歌学書を取り上げて、その内容や特質、成立の背景等について検討する。資料に即しつつ歌論書・歌学書の記事を精読した上で、その背景にある中世人の和歌観について考える。			
到達目標	歌論書、歌学書の記事を読み解く作業を通じて、平安末期から新古今時代にかけての歌人たちのものの考え方や和歌観等を知る。併せて、和歌の表現を巡る様々な言説について理解を深める。			
成績評価基準	授業中の活動と学期末のレポート等によって、総合的に評価する。			
留意事項	必要に応じて、演習的な内容を盛り込む場合がある。			
教材	授業中に配付する資料を用いる。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌人説話の世界（1）</li> <li>2. 歌人説話の世界（2）</li> <li>3. 『無名抄』の歌論（1）</li> <li>4. 『無名抄』の歌論（2）</li> <li>5. 『無名抄』の歌論（3）</li> <li>6. 藤原俊成の和歌観（1）</li> <li>7. 藤原俊成の和歌観（2）</li> <li>8. 藤原俊成の和歌観（3）</li> <li>9. 藤原俊成の和歌観（4）</li> <li>10. 藤原定家の歌論（1）</li> <li>11. 藤原定家の歌論（2）</li> <li>12. 藤原定家の歌論（3）</li> <li>13. 『後鳥羽院御口伝』を巡って（1）</li> <li>14. 『後鳥羽院御口伝』を巡って（2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1040	授業科目名	中世文学特論III	期間
担当者	江草 弥由起	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	各学生に研究対象とする和歌ないし歌語を一つ選択してもらい、選択した和歌・歌語について中古中世和歌の用例や古註釈を用いて解釈・分析を行うことを通して、自身の研究テーマに対するアプローチ方法を模索し研究を深めていくことを目的とする。			
到達目標	到達目標1：和歌・歌語について、中古中世和歌の用例を元に考察を進めることができる。 到達目標2：和歌・歌語について、目的に応じて古註釈を適切に引用して説明することができる。			
成績評価基準	授業内での発言：20% 発表：30% 学期末レポート：50%			
留意事項	自らの研究テーマに引き付けて考え、積極的に発言してもらいたい。			
教材	授業内で適宜配布、指定する。			
授業予定	第1回：授業ガイダンス 第2回：和歌の用例、古註釈について 第3回：発表（1） 第4回：発表（2） 第5回：発表（1）（2）を受けての研究方法の整理 第6回：発表（3） 第7回：発表（4） 第8回：発表（3）（4）を受けての研究方法の整理 第9回：発表（5） 第10回：発表（6） 第11回：発表（5）（6）を受けての研究方法の整理 第12回：発表（1）～（6）を受けての期末レポート作成に向けての課題の整理 第13回：発表（7） 第14回：発表（8） 第15回：期末レポート要旨を元にしたディスカッション			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1045	授業科目名	中世文学特論IV	期間
担当者	江草 弥由起	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	各学生に研究対象とする和歌ないし歌語を一つ選択し取り組んでもらう。選択した和歌・歌語について中古中世和歌の用例や古註釈を用いて解釈・分析を行った上で、日記・物語などに見える引歌表現や歌学書にも視野を広げ検討し、自身の研究テーマに対するアプローチ方法を更に深めていくことを目的とする。			
到達目標	到達目標1：和歌・歌語について、中古中世和歌の用例・古註釈を元に考察を進めることができる。 到達目標2：和歌・歌語について、目的に応じて歌学書を適切に引用して説明することができる。 到達目標3：日記・物語における引歌表現にも目を配り、和歌表現の摂取について考察することができる。			
成績評価基準	授業内での発言：20% 発表：30% 学期末レポート：50%			
留意事項	自らの研究テーマに引き付けて考え、積極的に発言してもらいたい。			
教材	授業内で適宜配布、指定する。			
授業予定	第1回：授業ガイダンス 第2回：引歌表現、歌学書について 第3回：発表（1） 第4回：発表（2） 第5回：発表（1）（2）を受けての研究手法の整理 第6回：発表（3） 第7回：発表（4） 第8回：発表（3）（4）を受けての研究手法の整理 第9回：発表（5） 第10回：発表（6） 第11回：発表（5）（6）を受けての研究手法の整理 第12回：発表（1）～（6）を受けての期末レポート作成に向けての課題の整理 第13回：発表（7） 第14回：発表（8） 第15回：期末レポート要旨を元にしたディスカッション			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1050	授業科目名	古代中世文学演習I	期間
担当者	東城 敏毅	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の選んだテーマを中心にして、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。			
到達目標	到達目標 1 研究の基礎的方法について修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50% 論文執筆 50%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなし、論文執筆を積極的に進めること。			
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文内容の検討</li> <li>2. 修士論文の方法論の検討</li> <li>3. 修士論文の構成の検討</li> <li>4. 修士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 発表・討議（1）レジュメ1の作成</li> <li>6. 発表・討議（2）レジュメ1の修正</li> <li>7. 論文執筆・討議（1）論文構成案の検討</li> <li>8. 論文執筆・討議（2）論文表現の検討</li> <li>9. 発表・討議（3）レジュメ2の作成</li> <li>10. 発表・討議（4）レジュメ2の修正</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）各章の検討</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）結論の妥当性の検討</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）序論の作成</li> <li>14. 議論の総括（1）研究の妥当性</li> <li>15. 議論の総括（2）研究のまとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1055	授業科目名	古代中世文学演習II	期間
担当者	東城 敏毅	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の選んだテーマを中心にして、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。			
到達目標	到達目標 1 研究の基礎的方法について修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50% 論文執筆 50%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学会発表も視野に入れつつ、論文執筆を積極的に進めること。			
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文内容の検討（1）構成案</li> <li>2. 修士論文内容の検討（2）論文の文体</li> <li>3. 発表・討議（1）レジュメ1の検討</li> <li>4. 発表・討議（2）レジュメ2の検討</li> <li>5. 発表・討議（3）レジュメ3の検討</li> <li>6. 発表・討議（4）レジュメ4の検討</li> <li>7. 発表・討議（5）レジュメ5の検討</li> <li>8. 論文執筆・討議（1）第1章の検討</li> <li>9. 論文執筆・討議（2）第2章の検討</li> <li>10. 論文執筆・討議（3）第3章の検討</li> <li>11. 論文執筆・討議（4）第4章の検討</li> <li>12. 論文執筆・討議（5）終章の検討</li> <li>13. 論文執筆・討議（6）序章の検討</li> <li>14. 修士論文検討（1）発表会実施</li> <li>15. 修士論文検討（2）・総括</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1060	授業科目名	古代中世文学演習I	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の選んだテーマを中心に、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。			
到達目標	到達目標 1 研究の基礎的方法について修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50% 論文執筆 50%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなし、論文執筆を積極的に進めること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文内容の検討</li> <li>2. 修士論文の方法論の検討</li> <li>3. 修士論文の構成の検討</li> <li>4. 修士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 発表・討議（1）レジュメ1の作成</li> <li>6. 発表・討議（2）レジュメ1の修正</li> <li>7. 論文執筆・討議（1）論文構成案の検討</li> <li>8. 論文執筆・討議（2）論文表現の検討</li> <li>9. 発表・討議（3）レジュメ2の作成</li> <li>10. 発表・討議（4）レジュメ2の修正</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）各章の検討</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）結論の妥当性の検討</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）序論の作成</li> <li>14. 議論の総括（1）研究の妥当性</li> <li>15. 議論の総括（2）研究のまとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	M1065	授業科目名	古代中世文学演習II	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の選んだテーマを中心にして、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。			
到達目標	到達目標 1 研究の基礎的方法について修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50% 論文執筆 50%			
留意事項	自らの研究テーマにおける学会発表も視野に入れつつ、論文執筆を積極的に進めること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文内容の検討（1）構成案</li> <li>2. 修士論文内容の検討（2）論文の文体</li> <li>3. 発表・討議（1）レジュメ1の検討</li> <li>4. 発表・討議（2）レジュメ2の検討</li> <li>5. 発表・討議（3）レジュメ3の検討</li> <li>6. 発表・討議（4）レジュメ4の検討</li> <li>7. 発表・討議（5）レジュメ5の検討</li> <li>8. 論文執筆・討議（1）第1章の検討</li> <li>9. 論文執筆・討議（2）第2章の検討</li> <li>10. 論文執筆・討議（3）第3章の検討</li> <li>11. 論文執筆・討議（4）第4章の検討</li> <li>12. 論文執筆・討議（5）終章の検討</li> <li>13. 論文執筆・討議（6）序章の検討</li> <li>14. 修士論文検討（1）発表会実施</li> <li>15. 修士論文検討（2）・総括</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1110	授業科目名	近世文学特論I	期間
担当者	野澤 真樹	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	過去5年間に発表された日本近世文学に関する研究論文を取り上げ、研究対象として選定されている作品・資料について学ぶとともに、研究論文を批判的に読むことを試みる。			
到達目標	研究論文を熟読し、併せてその研究対象について学ぶことで、考察の過程を理解することができる。また、そのうえで研究論文を批判的に読むことができる。			
成績評価基準	授業への取り組み 30% 口頭発表および討議 70%			
留意事項	受講者に応じて授業スケジュールを変更することがある			
教材	授業内で配付、指示する。			
授業予定	1 ガイダンス 2 論文の選定 3 論文①（教員選定）の提示 4 論文①研究対象についての概説 5 論文①討議 6 論文①考察方法についての検討、総括 7 論文②（学生選定）の提示 8 論文②研究対象についての概説 9 論文②討議 10 論文②考察方法についての検討、総括 11 論文③（学生選定）の提示 12 論文③研究対象についての概説 13 論文③討議 14 論文③考察方法についての検討、総括 15 総括と課題			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1115	授業科目名	近世文学特論II	期間
担当者	野澤 真樹	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	過去5年間に発表された日本近世文学に関する研究論文を取り上げ、研究対象として選定されている作品・資料について学ぶとともに、研究論文を批判的に読むことを試みる。			
到達目標	研究論文を熟読し、併せてその研究対象について学ぶことで、考察の過程を理解することができる。また、そのうえで研究論文を批判的に読むことができる。			
成績評価基準	授業への取り組み 30% 口頭発表および討議 70%			
留意事項	受講者に応じて授業スケジュールを変更することがある			
教材	授業内で配付、指示する。			
授業予定	1 ガイダンス 2 論文の選定 3 論文①（教員選定）の提示 4 論文①研究対象についての概説 5 論文①討議 6 論文①考察方法についての検討、総括 7 論文②（学生選定）の提示 8 論文②研究対象についての概説 9 論文②討議 10 論文②考察方法についての検討、総括 11 論文③（学生選定）の提示 12 論文③研究対象についての概説 13 論文③討議 14 論文③考察方法についての検討、総括 15 総括と課題			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1120	授業科目名	近世文学特論III	期間
担当者	山本 秀樹	授業形態	講義	単位数
授業概要	『雨月物語』読解法-「仏法僧」等を例として- 『雨月物語』を例に取って、古典テキストを読み理解する方法について講義する。特に「仏法僧」を中心に例示する。			
到達目標	古文単語の意味の決定法について知る。 研究論文のテキスト読解への活用法について知る。			
成績評価基準	各回の質疑応答（50%） 講義内容に関する考察（50%）			
留意事項	特にない。			
教材	manaba folioによる資料配布。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（この講義の概要、進め方）</li> <li>2 受講生の研究内容について</li> <li>3 古典作品の評価について</li> <li>4 『雨月物語』研究とその意味 1</li> <li>5 佐藤春夫「あさましや漫筆」読解</li> <li>6 『雨月物語』研究とその意味 2</li> <li>7 前半のふりかえり・総括と質疑応答</li> <li>8 あるテキストを読むということ：単語編 1</li> <li>9 あるテキストを読むということ：単語編 2</li> <li>10 あるテキストを読むということ：単語編 3</li> <li>11 あるテキストを読むということ：単語編 4</li> <li>12 テキスト読解に研究論文を活用する 1</li> <li>13 テキスト読解に研究論文を活用する 2</li> <li>14 テキスト読解に研究論文を活用する 3</li> <li>15 テキスト読解に研究論文を活用する 4</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1125	授業科目名	近世文学特論Ⅳ	期間
担当者	山本 秀樹	授業形態	講義	単位数
授業概要	近世文学特論Ⅳ 『雨月物語』 「菊花の約」 解釈法-解釈の真を目指して- 『雨月物語』の「菊花の約」を例に、日本文学研究の歴史についてふりかえり、テキスト解釈の方法について講義する。			
到達目標	日本文学研究における諸立場・諸方法について知る。 テキスト解釈の諸立場・諸方法について知る。			
成績評価基準	各回の質疑応答（50%） 講義の内容に関する考察（50%）			
留意事項	特にない。			
教材	manaba folioによる資料配布。			
授業予定	1 日本文学研究法 1 ; これまでの研究法 1 2 日本文学研究法 2 ; これまでの研究法 2 3 日本文学研究法 3 ; これまでの研究法 3 4 鈴木貞美と西田谷洋（近年の目立った研究法） 5 立場・方法のさまざま：『雨月物語』を例に 6 解釈のさまざま：「菊花の約」を例に 1 7 解釈のさまざま：「菊花の約」を例に 2 8 解釈のさまざま：「菊花の約」を例に 3 9 解釈のさまざま：「菊花の約」を例に 4 10 解釈のさまざま：「菊花の約」を例に 5 11 「菊花の約」解釈を詰める 1 12 「菊花の約」解釈を詰める 2 13 「菊花の約」解釈を詰める 3 14 「菊花の約」解釈を詰める 4 15 「菊花の約」解釈を詰める 5			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1130	授業科目名	近代文学特論I	2022年度第1期
担当者	山根 知子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品研究・作家研究に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題に応じて具体的な研究方法や表現手法の幅を広げる。			
到達目標	作品研究・作家研究ともに、設定したねらいに応じた効果的な方法論を工夫して確立するすべを身につけ、具体的に説得力のある論考を実践できること。			
成績評価基準	授業内での課題の取り組みと論文により総合的に評価する。			
留意事項	自分の研究方法の可能性を広げることに努め、研究内容に応じた効果的かつ客観性の高い研究方法を臨機応変に実行できるようにし、実際に自分の修士論文についての方法論を確立すること。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	第 1 回：近代文学研究方法論について 第 2 回：作品研究の実例について 第 3 回：作品研究から作家研究への実例について 第 4 回：作品成立研究について 第 5 回：作品年譜について 第 6 回：作家年譜について 第 7 回：作家関連資料について 第 8 回：同時代資料と作品・作家研究について 第 9 回：明治文学研究 第 10 回：大正文学研究 第 11 回：昭和文学研究 第 12 回：短詩形文学研究 第 13 回：児童文学研究 第 14 回：論文の構成について 第 15 回：論文の方法論について 定期試験			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1135	授業科目名	近代文学特論II	期間
担当者	山根 知子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品研究・作家研究に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題に応じて具体的な研究方法や表現手法の幅を広げる。			
到達目標	作品研究・作家研究ともに、設定したねらいに応じた効果的な方法論を工夫して確立するすべを身につけ、具体的に説得力のある論考を実践できること。			
成績評価基準	授業内での課題の取り組みと論文により総合的に評価する。			
留意事項	自分の研究方法の可能性を広げることに努め、研究内容に応じた効果的かつ客観性の高い研究方法を臨機応変に実行できるようにし、実際に自分の修士論文についての方法論を確立すること。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	第 1 回：論文の論理的展開について 第 2 回：論文の文章について 第 3 回：中間論文に対する評価 第 4 回：論文の構成についての検討 第 5 回：論文の方法論についての検討 第 6 回：論文の論理的展開についての検討 第 7 回：論文の文章についての検討 第 8 回：研究史について 第 9 回：先行研究一覧について 第 10 回：研究史の作成について 第 11 回：先行研究に対する評価について 第 12 回：先行研究についての検討 第 13 回：研究史についての検討 第 14 回：研究の新しさについて 第 15 回：期末論文提出と評価 定期試験			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1140	授業科目名	近代文学特論III	期間
担当者	長原 しのぶ	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	昭和期から現代を対象にした日本近現代文学（サブカルチャーを含む小説）における作品研究・作家研究に取り組むためのさまざまな分析方法と研究方法を検討し、具体的な作品を使って考察と読解を行う。取り上げる作品については受講生と相談した上で授業を進める。			
到達目標	日本近現代文学の作品研究・作家研究の研究方法を理解し、課題に適した方法論によって客観的で説得力のある考察ができる。			
成績評価基準	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%、発表 20%、最終レポート（論文）40%とする。			
留意事項	できるだけ多くの作品研究・作家研究の学術論文を読み、各自の研究方法の幅を広げること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：授業についてのガイダンスと進め方について（扱う作品の相談を含む） 第 2 回：近代と現代の作品研究について 第 3 回：近代作品研究の論文読解 第 4 回：現代作品研究の論文読解 第 5 回：近代と現代の作家研究について 第 6 回：近代作家研究の論文読解 第 7 回：現代作家研究の論文読解 第 8 回：作品分析と考察（昭和-戦前の文学） 第 9 回：作品分析と考察（昭和-戦中の文学） 第 10 回：作品分析と考察（昭和-戦後の文学） 第 11 回：作品分析と考察（平成前半の文学） 第 12 回：作品分析と考察（平成後半の文学） 第 13 回：作品分析と考察（令和の文学） 第 14 回：論文の構成について 第 15 回：最終レポート（論文）指導			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1145	授業科目名	近代文学特論IV	期間
担当者	長原 しのぶ	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	文学を文化現象の1つと捉え、背景となる社会状況とメディアとの関わりの中で昭和期から現代を対象にした日本近現代文学（サブカルチャーを含む小説）の作品研究・作家研究に取り組むための方法論と考察するための手法を議論する。考察するために取り上げる作品については受講生と相談した上で授業を進める。			
到達目標	作品と作家の背景にある社会と時代状況、メディアとの関わりを的確に捉えることができる。 客観的資料を用いて作品研究・作家研究を行うことができる。			
成績評価基準	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%、発表 20%、最終レポート（論文）40%とする。			
留意事項	昭和から現代の文化的事象を理解するための文献を読むこと。 できるだけ多くの作品研究・作家研究の学術論文を読み、各自の研究方法の幅を広げること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：授業についてのガイダンスと進め方について（扱う作品の相談を含む） 第 2 回：戦争と文学 第 3 回：論文読解 第 4 回：メディアと文学（昭和） 第 5 回：メディアと文学（平成） 第 6 回：メディアと文学（令和） 第 7 回：論文読解 第 8 回：作品分析と考察（昭和-戦前の文学） 第 9 回：作品分析と考察（昭和-戦中の文学） 第 10 回：作品分析と考察（昭和-戦後の文学） 第 11 回：作品分析と考察（平成前半の文学） 第 12 回：作品分析と考察（平成後半の文学） 第 13 回：作品分析と考察（令和の文学） 第 14 回：論文作成方法について 第 15 回：最終レポート（論文）指導			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	M1150	授業科目名	近代文学特論V	2022年度第1期
担当者	山根 道公	授業形態	講義	2単位
授業概要	日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品（明治～戦前）を取り上げ、作品に即してキリスト教的主題や聖書的表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。			
到達目標	キリスト教や聖書との関係のある作品を、キリスト教的主題や聖書的表現等に着眼して分析、読解する技術を習得する。			
成績評価基準	授業内活動と研究レポートにより評価する。			
留意事項	講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	第 1 回：導入 第 2 回：日本文学とキリスト教概説（明治～戦前） 第 3 回：北村透谷 第 4 回：国木田独步 第 5 回：島崎藤村 第 6 回：内村鑑三 第 7 回：正宗白鳥 第 8 回：有島武郎 第 9 回：志賀直哉 第 10 回：武者小路実篤 第 11 回：宮沢賢治 第 12 回：八木重吉 第 13 回：芥川龍之介 第 14 回：堀辰雄 第 15 回：太宰治 定期試験（レポート）			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	M1155	授業科目名	近代文学特論Ⅵ	期間
担当者	山根 道公	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品（戦後～）を取り上げ、作品に即してキリスト教的主題や聖書の表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。			
到達目標	キリスト教や聖書との関係のある作品を、キリスト教的主題や聖書の表現等に着目して分析、読解する技術を習得する。			
成績評価基準	授業内活動と研究レポートにより評価する。			
留意事項	講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	第 1 回：導入 第 2 回：日本文学とキリスト教概論（戦後～） 第 3 回：吉満義彦・井上洋治 第 4 回：椎名麟三 第 5 回：遠藤周作 第 6 回：三浦綾子 第 7 回：曾野綾子 第 8 回：小川国夫 第 9 回：島尾敏雄 第 10 回：井上ひさし 第 11 回：加賀乙彦 第 12 回：木崎さと子 第 13 回：高橋たか子 第 14 回：安岡章太郎 第 15 回：まとめ 定期試験（レポート）			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1160	授業科目名	近世近代文学演習I	期間
担当者	長原 しのぶ	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1165	授業科目名	近世近代文学演習II	期間
担当者	長原 しのぶ	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：第二章第一節の作成と検討 第 2 回：第二章第二節の作成と検討 第 3 回：第二章第三節の作成と検討 第 4 回：第三章第一節の作成と検討 第 5 回：第三章第二節の作成と検討 第 6 回：第三章第三節の作成と検討 第 7 回：第四章第一節の作成と検討 第 8 回：第四章第二節の作成と検討 第 9 回：第四章第三節の作成と検討 第 10 回：第五章第一節の作成と検討 第 11 回：第五章第二節の作成と検討 第 12 回：第五章第三節の作成と検討 第 13 回：結論の作成と検討 第 14 回：注の作成と検討 第 15 回：巻末資料の作成と検討			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1170	授業科目名	近世近代文学演習I	期間
担当者	山根 知子	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1175	授業科目名	近世近代文学演習II	期間
担当者	山根 知子	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：第二章第一節の作成と検討 第 2 回：第二章第二節の作成と検討 第 3 回：第二章第三節の作成と検討 第 4 回：第三章第一節の作成と検討 第 5 回：第三章第二節の作成と検討 第 6 回：第三章第三節の作成と検討 第 7 回：第四章第一節の作成と検討 第 8 回：第四章第二節の作成と検討 第 9 回：第四章第三節の作成と検討 第 10 回：第五章第一節の作成と検討 第 11 回：第五章第二節の作成と検討 第 12 回：第五章第三節の作成と検討 第 13 回：結論の作成と検討 第 14 回：注の作成と検討 第 15 回：巻末資料の作成と検討			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1180	授業科目名	近世近代文学演習I	期間
担当者	山根 道公	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	M1185	授業科目名	近世近代文学演習II	期間
担当者	山根 道公	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。			
到達目標	研究論文の作成の方法を習得することができる。			
成績評価基準	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：第二章第一節の作成と検討 第 2 回：第二章第二節の作成と検討 第 3 回：第二章第三節の作成と検討 第 4 回：第三章第一節の作成と検討 第 5 回：第三章第二節の作成と検討 第 6 回：第三章第三節の作成と検討 第 7 回：第四章第一節の作成と検討 第 8 回：第四章第二節の作成と検討 第 9 回：第四章第三節の作成と検討 第 10 回：第五章第一節の作成と検討 第 11 回：第五章第二節の作成と検討 第 12 回：第五章第三節の作成と検討 第 13 回：結論の作成と検討 第 14 回：注の作成と検討 第 15 回：巻末資料の作成と検討			

博士前期		専攻名(コース名)	日本語	研究分野	日本語学や日本語史と関連する
授業コード	M1210	授業科目名	古代語特論I	期間	2022年度第1期
担当者	江口 泰生	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>1) 古辞書、外国資料の成立、読み方、概説をおこなう。  2) 具体的に資料を読むということもやってみる。  3) その資料の用例を提示するので、そこからどういうことが分かるか、個々に考えてもらうというような思考訓練を行うこともある。  4) 日本語史の形態論や文法について考える練習を行う。</p>				
到達目標	<p>次のようなステップで到達目標を定める。  日本の古辞書や外国資料に慣れる。  日本の古辞書や外国資料の基礎的知識を習得する。  日本語史のトピックのいくつかについて、基礎的な知識を習得する。  具体的な例から内的再建法、帰納法などの言語的方法を習得する。</p>				
成績評価基準	レポート(60%)、授業への取り組み方(20%)、質疑応答(20%)によって総合的に判断する。				
留意事項	特になし。				
教材	<p>プリントを配布するか、pdfファイルにしてアップする。  以下はネットでみれるので、ダウンロードして、冒頭部分だけでもざっと眺めておくと、参考になるかもしれない。  『和名類聚抄』の「俗」音注『国語学』141  「背負う」・「担ぐ」の表現『国語学』171  連濁と語構成『岡大國文論稿』  ペトロワの『レキシコン』研究について(前)(後)  A. タタリノフ『レクシコン』注釈1~10  18世紀下北方言の母音無声化『文化共生学研究』15</p>				
授業予定	<p>おおよそ次のように進めるが、受講生によって前後するときがある。  1、外国資料と洋学資料、古辞書とは  2、キリシタン資料の読み方と概説1  3、キリシタン資料の読み方と概説2  4、キリシタン資料でなにがわかるのか1?  5、キリシタン資料でなにがわかるのか2?  6、朝鮮資料の読み方と概説1  7、朝鮮資料の読み方と概説2  8、朝鮮資料でなにがわかるのか?  9、ロシア資料の読み方と概説  10、ロシア資料でなにがわかるのか1?  11、ロシア資料でなにがわかるのか2?  12、古辞書の歴史1  13、古辞書の歴史2  14、古辞書でなにがわかるのか?  15、まとめ</p>				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	M1220	授業科目名	現代語特論I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>学校に校歌があるように、多くの会社には社歌がある。社員がともに歌うことで会社の理念を再確認したり一体感を高める効果があると考えられる。社歌の歌詞は、たとえばJ-POPの歌詞などと比較すると異なる点がいろいろとある。その違いは、大きく分けると、歌われる&lt;内容&gt;と&lt;表現&gt;に二分できる。では、具体的にどのような特徴を持っているのであろうか。本授業では、社歌の歌詞を多数収集して電子的に蓄積し、それに必要な情報を付加して分析することで、社歌の歌詞の特徴を明らかにするとともに、言語研究法的一端を体験的に学ぶことを目的とする。また、新学習指導要領における「高校国語」の「現代の国語」の力（日本語を探究する力）を養うことも目的とする。</p> <p>「現代語特論I」では、教材として参照する先行研究を精読し、社歌の背景や特色を把握するとともに、データの収集・蓄積に関する検討を経て収集に着手し、仮分析を行なう。</p>				
到達目標	<p>到達目標1：先行研究を理解し説明できる。          到達目標2：研究が計画できる。          到達目標3：研究が実行できる。          到達目標4：分析に着手できる。</p>				
成績評価基準	<p>授業活動内容：50%          研究レポート：50%</p>				
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>				
教材	<p>寺岡寛著（2017）『社歌の研究』（同文館出版）〔ISBN：978-4-495-39013-6〕</p>				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス          第2回：先行研究の分析①（校歌の分析に関する先行研究①）          第3回：先行研究の分析②（校歌の分析に関する先行研究②）          第4回：教材の精読と検討①「序論 社歌の歴史」          第5回：教材の精読と検討②「第一章 軍歌と社歌」          第6回：教材の精読と検討③「第二章 社歌と規格」          第7回：教材の精読と検討④「第三章 社歌と産業」          第8回：教材の精読と検討⑤「第四章 社歌と企業」          第9回：教材の精読と検討⑥「第五章 社歌と組織」          第10回：教材の精読と検討⑦「終章 社歌の終焉」          第11回：データ収集法とデータベース化の検討          第12回：データの仮分析の発表①          第13回：データの仮分析の発表②          第14回：データの仮分析の発表③          第15回：データの仮分析の発表④</p>				

文学研究科	専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	M1225	授業科目名	現代語特論II	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	<p>学校に校歌があるように、多くの会社には社歌がある。社員がともに歌うことで会社の理念を再確認したり一体感を高める効果があると考えられる。社歌の歌詞は、たとえばJ-POPの歌詞などと比較すると異なる点がいろいろとある。その違いは、大きく分けると、歌われる&lt;内容&gt;と&lt;表現&gt;に二分できる。では、具体的にどのような特徴を持っているのであろうか。本授業では、社歌の歌詞を多数収集して電子的に蓄積し、それに必要な情報を付加して分析することで、社歌の歌詞の特徴を明らかにするとともに、言語研究法的一端を体験的に学ぶことを目的とする。また、新学習指導要領における「高校国語」の「現代の国語」の力（日本語を探究する力）を養うことも目的とする。</p> <p>「現代語特論II」では、データの収集・蓄積に関する再検討を経てさらにデータ収集し、最終的な分析を行なう。</p>			
到達目標	<p>到達目標1：データの収集方法等について検討できる。          到達目標2：研究が再計画できる。          到達目標3：研究が実行できる。          到達目標4：分析できる。</p>			
成績評価基準	<p>授業活動内容：50%          研究レポート：50%</p>			
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>			
教材	<p>なし。</p>			
授業予定	<p>第1回：データの蓄積方法に関する再検討①          第2回：データの蓄積方法に関する再検討②          第3回：データ分析の発表①          第4回：データ分析の発表②          第5回：データ分析の発表③          第6回：データ分析の発表④          第7回：データ分析の改定版の発表①          第8回：データ分析の改定版の発表②          第8回：データ分析の改定版の発表③          第10回：データ分析の改定版の発表④          第11回：データの最終分析の発表①          第12回：データの最終分析の発表②          第13回：データの最終分析の発表③          第14回：データの最終分析の発表④          第15回：総括</p>			

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	M1250	授業科目名	日本語学演習I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	各自の研究課題について社会言語学的観点から検討する。自身が行なおうとする研究の位置づけを確認するとともに研究の方向性を検討するために、概説的な文献・専門性の高い先行研究・資料を読んで学ぶ。				
到達目標	到達目標1：研究計画を立て研究に着手できる。 到達目標2：先行研究を精読することで自身の研究の位置づけを把握できる。 到達目標3：先行研究を整理し研究レポートで適切に言及できる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	オリジナルデータを収集し分析するにあたってはPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成では授業時間以外の時間も使う必要がある。				
教材	中山緑朗他編著（2009）『みんなの日本語事典』（明治書院）〔ISBN：978-4-625-38402-8〕				
授業予定	第1回：ガイダンス 第2回：研究計画についての発表と検討(1) 第3回：研究計画についての発表と検討(2) 第4回：研究計画についての発表と検討(3) 第5回：先行研究の探し方(1) 第6回：先行研究の探し方(2) 第7回：研究発表と議論(1) -1巡目- 第8回：研究発表と議論(2) -1巡目- 第9回：研究発表と議論(3) -1巡目- 第10回：研究計画についての再検討(1) 第11回：研究計画についての再検討(2) 第12回：研究発表と議論(4) -2巡目- 第13回：研究発表と議論(5) -2巡目- 第14回：研究発表と議論(6) -2巡目- 第15回：夏季休暇期間の研究の進め方についての検討				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	M1255	授業科目名	日本語学演習II	期間	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	自身が行なおうとする研究の位置づけを確認するとともに研究の方向性を検討するために概説的な文献・専門性の高い先行研究・資料を読んで学んだことをふまえ、各自の研究課題について社会言語学的観点からさらに検討し、研究を実際に進める。				
到達目標	到達目標1：研究計画を立て研究に着手できる。 到達目標2：先行研究を整理し研究レポートで適切に言及できる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	オリジナルデータを収集し分析するにあたってはPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成では授業時間以外の時間も使う必要がある。				
教材	なし。				
授業予定	第1回：進捗状況の確認と第2期の研究計画についての検討 第2回：研究発表と議論(7) -3巡目- 第3回：研究発表と議論(8) -3巡目- 第4回：研究発表と議論(9) -3巡目- 第5回：論文執筆指導(1) -1巡目- 第6回：論文執筆指導(2) -1巡目- 第7回：論文執筆指導(3) -1巡目- 第8回：論文執筆指導(4) -2巡目- 第9回：論文執筆指導(5) -2巡目- 第10回：論文執筆指導(6) -2巡目- 第11回：論文執筆指導(7) -3巡目- 第12回：論文執筆指導(8) -3巡目- 第13回：論文執筆指導(9) -3巡目- 第14回：論文執筆指導(10) -4巡目- 第15回：論文執筆指導(11) -4巡目-				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻 博士前期課程	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1310	授業科目名	日本思想史特論I	期間	2022年度第1期
担当者	本村 昌文	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	「死生観」(死とは何か、死後人はどうなるのか、死を迎えるまでにいかに生きるか)の視点から日本の思想の歴史を概観する。				
到達目標	1, 日本の思想の歴史的展開を説明することができる。 2, 日本における「死」についての考え方の変遷を説明することができる。 3, 現代の諸問題と自分の研究との接点を説明することができる。				
成績評価基準	授業での取り組み40%, 最終レポート60%				
留意事項	自分の研究テーマと関連させる意識をもつ。				
教材	適宜, プリントなどを配布する。				
授業予定	第1回 ガイダンスー日本思想史とは何か？ー 第2回 『古事記』と『日本書紀』 第3回 往生伝の世界 第4回 怨霊の思想史 第5回 朱子学・陽明学の死生観① 第6回 朱子学・陽明学の死生観② 第7回 「死」をめぐる儒教と仏教の論争① 第8回 「死」をめぐる儒教と仏教の論争② 第9回 神道家の死生観① 第10回 神道家の死生観② 第11回 国学者の死生観① 第12回 国学者の死生観② 第13回 「死生観」言説の誕生 第14回 現代日本の死生観 第15回 まとめ				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻 博士前期課程	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1315	授業科目名	日本思想史特論II	期間	2022年度第2期
担当者	本村 昌文	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	日本思想史に関連する1次史料を講読し、史料の読解力、思想分析の方法を解説する。今年度は、小林一茶の『父の終焉日記』を講読する。				
到達目標	1, 日本思想史に関連する1次史料を読むために必要な事項を説明することができる。 2, 適切な現代語訳をすることができる。 3, 参考となる資料をもとに、内容理解を深めることができる。				
成績評価基準	授業での取り組み40%, 最終レポート60%				
留意事項	自分の研究テーマと関連させる意識をもつ。				
教材	適宜、プリントなどを配布する。				
授業予定	第1回 ガイダンス 第2回 小林一茶『父の終焉日記』の講読① 第3回 小林一茶『父の終焉日記』の講読② 第4回 小林一茶『父の終焉日記』の講読③ 第5回 小林一茶『父の終焉日記』の講読④ 第6回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑤ 第7回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑥ 第8回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑦ 第9回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑧ 第10回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑨ 第11回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑩ 第12回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑪ 第13回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑫ 第14回 小林一茶『父の終焉日記』の講読⑬ 第15回 まとめ				

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1320	授業科目名	日本民俗学特論I	2022年度第1期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。			
到達目標	民俗学の立脚点が理解できる。 とくに民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化が理解できる。 あわせて、民俗学の論文が読解できる。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民俗学的認識の誕生</li> <li>2. 柳田國男の仕事</li> <li>3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉</li> <li>4. フォークロリズムをめぐる議論</li> <li>5. 民俗宗教とは</li> <li>6. ムラと村落祭祀</li> <li>7. 村組と地縁集団の祭祀</li> <li>8. 宮座と当屋制</li> <li>9. 同族と同族祭祀</li> <li>10. 先祖祭祀</li> <li>11. 年中行事の構造</li> <li>12. 人の一生と靈魂観</li> <li>13. 祭儀と祝祭</li> <li>14. 神がかりとシャーマニズム</li> <li>15. 〈俗信〉という概念</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1325	授業科目名	日本民俗学特論II	2022年度第2期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。			
到達目標	日本の社会における種々の遍歴の実態が説明できる。 民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることが理解できる。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 漂泊・遍歴の諸相</li> <li>2. 巡礼という回路</li> <li>3. 巡礼類型論</li> <li>4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼</li> <li>5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗</li> <li>6. 社会的弱者の巡礼</li> <li>7. ハンセン病と巡礼</li> <li>8. 乞食巡礼の民俗</li> <li>9. もの乞いの思想</li> <li>10. 六十六部日本廻国</li> <li>11. 持経者の遍歴と如法経信仰</li> <li>12. 六十六部縁起</li> <li>13. 王権の神話・儀礼と遍歴</li> <li>14. 職業的廻国者集団の活動</li> <li>15. 遍歴と定住の交渉</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1330	授業科目名	中国思想史特論I	2022年度第1期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	単位数
授業概要	前近代中国における儒学・科挙・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。			
到達目標	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科挙・宗族の概念を用いて説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：儒教とは何か 第 3 回：五経と四書 第 4 回：中国史における官僚 第 5 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晋） 第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 8 回：科挙の導入と理念 第 9 回：科挙がもたらした政治的影響 第 10 回：科挙がもたらした思想的影響 第 11 回：科挙がもたらした社会的影響 第 12 回：科挙の隆盛と宗族の形成 第 13 回：宗族と中国社会 第 14 回：科挙の終焉 第 15 回：まとめ			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1335	授業科目名	中国思想史特論II	2022年度第2期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	単位数
授業概要	清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。			
到達目標	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：大清帝国の誕生 第 3 回：旗人と民人 第 4 回：辮髪と科挙 第 5 回：江南社会と「南巡」 第 6 回：大清における思想統制 第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間） 第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間） 第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 10 回：旗人と翻訳科挙 第 11 回：満洲旗人と文学 第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』 第 13 回：科挙と『儒林外史』 第 14 回：官僚と『官場現形記』 第 15 回：まとめ			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1340	授業科目名	国語科教育特論I	2022年度第1期
担当者	伊木 洋	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	本授業では、国語科教育学研究の内容を理解し、国語科教育の基礎理論について考察、発表、議論、論述することを通して、高度な専門的資質を身に付ける。			
到達目標	到達目標 1 国語科教育学研究の内容を理解することができる。 到達目標 2 国語科教育の基礎理論について考察し、発表することができる。 到達目標 3 国語科教育の基礎理論について議論し、その成果を論述することができる。			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に取り組む態度・学習記録 30%（到達目標1, 2, 3）</li> <li>・発表 30%（到達目標2）</li> <li>・提出課題 40%（到達目標3）</li> </ul>			
留意事項	本授業を履修する学生は、主体的に学習に取り組む姿勢を継続し、学びの全てを学習記録に整理して提出すること。			
教材	全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望』明治図書 全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書 西尾実『西尾実国語教育全集第4巻』教育出版 文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館 文部科学省『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説国語編』東洋館 全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語教育の問題史的展望</li> <li>2. 言語生活の実態と機能</li> <li>3. 言語生活の領域と形態</li> <li>4. 言語生活の方法に関する基本問題</li> <li>5. 言語生活指導の一般問題</li> <li>6. 談話生活の問題と指導</li> <li>7. 読書生活の問題と指導</li> <li>8. 作文学習とその指導</li> <li>9. 文芸活動とその指導</li> <li>10. 国語科教育基礎論（1）概観と課題</li> <li>11. 国語科教育基礎論（2）国語科目標論</li> <li>12. 国語科教育基礎論（3）国語教育課程論</li> <li>13. 国語科教育基礎論（4）国語学力論</li> <li>14. 国語科教育基礎論（5）国語科評価論</li> <li>15. 国語科教育基礎論（6）国語教育思想論</li> </ol>			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M1345	授業科目名	国語科教育特論II	2022年度第2期
担当者	伊木 洋	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	国語科教育学研究の内容と方法について理解を深めるとともに、国語教室創造のための実践理論を探究する。実践理論及び学習指導要領をふまえて単元を構想し、議論、論述することを通して高度な専門的資質と実践的指導力を身に付ける。			
到達目標	<p>到達目標 1 国語科教育学研究の内容と方法を理解し、国語科教育の実践理論について考察し発表することができる。</p> <p>到達目標 2 国語科教育実践理論、学習指導要領をふまえて単元を構想することができる。</p> <p>到達目標 3 国語科教育実践理論及び単元について議論し、その成果を論述できる。</p>			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に取り組む態度・学習記録 30%（到達目標 1, 2, 3）</li> <li>・発表 30%（到達目標 1, 2）</li> <li>・提出課題 40%（到達目標 2, 3）</li> </ul>			
留意事項	本授業を履修する学生は、主体的に学習に取り組む姿勢を継続し、学びの全てを学習記録に整理して提出すること。			
教材	<p>全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望』明治図書</p> <p>全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書</p> <p>大村はま『大村はま国語教室全 15 巻別巻 1』筑摩書房</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説国語編』東洋館</p> <p>全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』東洋館</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語科学習指導研究（1）国語科教育学研究方法論</li> <li>2. 国語科学習指導研究（2）話すこと・聞くことの学習指導研究</li> <li>3. 国語科学習指導研究（3）書くことの学習指導研究</li> <li>4. 国語科学習指導研究（4）読むことの学習指導研究</li> <li>5. 国語科学習指導研究（5）言語事項・日本語基礎事項の学習指導研究</li> <li>6. 国語科学習指導研究（6）メディア・リテラシーの学習指導研究</li> <li>7. 国語科学習指導の実践研究（1）話すこと・聞くことの学習指導</li> <li>8. 国語科学習指導の実践研究（2）書くことの学習指導</li> <li>9. 国語科学習指導の実践研究（3）読むことの学習指導</li> <li>10. 国語科学習指導の実践研究（4）古典に親しませる指導</li> <li>11. 国語科学習指導の実践研究（5）読書生活指導</li> <li>12. 国語科学習指導の実践研究（6）語句・語彙指導</li> <li>13. 国語科学習指導の実践研究（7）国語学習記録の指導</li> <li>14. 国語科学習指導の単元構想</li> <li>15. 国語科学習指導の単元構想に関する検討</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）		専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1010	授業科目名	古代中世文学特殊講義I	期間	2022年度第1期
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	上代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、上代文学の研究手法・問題点等について議論する。 さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、上代文学の諸問題について理解を深める。				
到達目標	到達目標 1 学術論文の読み方について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆に応用できる。				
成績評価基準	授業内での学術論文演習 50% 論文執筆 50%				
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。				
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 博士論文構成案の検討（1）</li> <li>3. 博士論文構成案の検討（2）</li> <li>4. 論文読解・討議（1）</li> <li>5. 論文読解・討議（2）</li> <li>6. 論文読解・討議（3）</li> <li>7. 論文読解・討議（4）</li> <li>8. 論文読解・討議（5）</li> <li>9. 論文読解・討議（6）</li> <li>10. 論文読解・討議（7）</li> <li>11. 論文読解・討議（8）</li> <li>12. 論文読解・討議（9）</li> <li>13. 論文読解・討議（10）</li> <li>14. 参考文献目録の作成</li> <li>15. 議論の総括</li> </ol>				

文学研究科（博士後期課程）		専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1015	授業科目名	古代中世文学特殊講義II	期間	2022年度第2期
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	上代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、上代文学の研究手法・問題点等について議論する。 さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、上代文学の諸問題について理解を深める。				
到達目標	到達目標 1 学術論文の読み方について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆に応用できる。				
成績評価基準	授業内での学術論文演習 50% 論文執筆 50%				
留意事項	自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。				
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 博士論文目次案の検討（1）</li> <li>3. 博士論文目次案の検討（2）</li> <li>4. 論文読解・討議（1）</li> <li>5. 論文読解・討議（2）</li> <li>6. 論文読解・討議（3）</li> <li>7. 論文読解・討議（4）</li> <li>8. 論文読解・討議（5）</li> <li>9. 論文読解・討議（6）</li> <li>10. 論文読解・討議（7）</li> <li>11. 論文読解・討議（8）</li> <li>12. 論文読解・討議（9）</li> <li>13. 論文読解・討議（10）</li> <li>14. 参考文献目録の作成</li> <li>15. 議論の総括</li> </ol>				

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1020	授業科目名	古代中世文学特殊講義III	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	平安文学における諸問題について、昨今の研究動向を踏まえた精緻な検証を基に、博士論文としてまとめる力を養う。主として、受講者の問題設定に即した演習を行うものとする。			
到達目標	平安文学における諸問題について、その解決に向けた精緻、且つ清新な論文を執筆する力を身に付けることができる。			
成績評価基準	平安文学の諸問題について理解しているか。検証の方法は精緻、且つ清新か。論文執筆の発展的技法を理解しているか。口頭発表と質疑応答の方法は適切か。以上の観点から評価を行う。 レポート 40%、発表内容と質疑応答状況 40%、復習シート10%、口頭試問 10%。			
留意事項	状況に応じ、写本や古注釈、漢文資料を用いる。関係する古注釈・先行研究について、積極的に調べておくこと。授業の多くは演習形式となるため、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。 なお、「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することを原則とする。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 平安文学全般の諸問題</li> <li>3～5. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解</li> <li>6～14. 受講者による演習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1025	授業科目名	古代中世文学特殊講義IV	2022年度第2期
担当者	中井 賢一	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	平安文学における諸問題について、昨今の研究動向を踏まえた精緻な検証を基に、博士論文としてまとめる力を養う。主として、受講者の問題設定に即した演習を行うものとする。			
到達目標	平安文学における諸問題について、その解決に向けた精緻、且つ清新な論文を執筆する力を身に付けることができる。			
成績評価基準	平安文学の諸問題について理解しているか。検証の方法は精緻、且つ清新か。論文執筆の発展的技法を理解しているか。口頭発表と質疑応答の方法は適切か。以上の観点から評価を行う。 レポート 40%、発表内容と質疑応答状況 40%、復習シート10%、口頭試問 10%。			
留意事項	状況に応じ、写本や古注釈、漢文資料を用いる。関係する古注釈・先行研究について、積極的に調べておくこと。授業の多くは演習形式となるため、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。 なお、「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することを原則とする。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 平安期物語の諸問題（一部、鎌倉・室町期物語を含む）</li> <li>3～5. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解（中古以外の学会の動向も含む）</li> <li>6～14. 受講者による演習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）		専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1030	授業科目名	古代中世文学特殊講義V	期間	2022年度第1期
担当者	阿部 泰郎	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	<p>仏教を受容した日本では、その象徴である仏像の聖性をめぐって、人間の苦悩や受難を、造られたモノとしての仏像が身代りとなって傷付くという霊験譚が、古代から中世にかけて広く流布していた。また仏像そのものが生ける如来や菩薩として造られ祀られる「生身」信仰が、普遍的な&lt;聖なるもの&gt;として出現する。その一方、仏法を滅し障りしようとする“反仏法”の存在が、たとえば「天狗」という説話上の存在として中世に登場する。それはまた、「第六天魔王」の伝承のような、中世につくりだされたあらたな神話として展開する。そうした、中世日本の&lt;聖なるもの&gt;と反&lt;聖なるもの&gt;=&lt;魔&gt;の両義的な世界像とその系譜を、中世説話や文学作品、芸能など領域を越えて探究する。</p>				
到達目標	<p>中世日本に生きた人々の宗教的心性とは如何なるもので、どのように形成されたのか、文学における精神的課題を理解することを通じて、中世人の世界像を認識することができる。</p>				
成績評価基準	<p>上記の問題に関する理解や認識が、受講者自身の主体的な研究対象において如何に意識され反映しているか、研究レポートや討議を通して評価する。</p>				
留意事項	<p>多数の参考文献（原典資料・研究書・論文等）を授業において提示するので、これらを読んだ上で自らの研究を検討すること。</p>				
教材	<p>阿部泰郎『中世日本の世界像』名古屋大学出版会（2018）</p>				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、生身と流血-傷つき血を流す仏像の伝承</li> <li>2、始まりのテキスト-中世世界の始原を語る書かれた伝承</li> <li>3、音声と音楽-未然を告げる声わざと楽器の霊異譚</li> <li>4、日本紀と未来記-中世日本の未来を示す野馬台詩と神話</li> <li>5、鬼と童子-退治される鬼と追放される童子</li> <li>6、変換する性-トランスジェンダーと取り替えの物語</li> <li>7、今は昔-説話という物語テキストの枠組みと媒介</li> <li>8、古えを鏡に懸ける物語-対話様式テキストの系譜</li> <li>9、経蔵と宝蔵-中世宮廷と寺院における知のテキストの集積</li> <li>10、六道の現前-仏教世界像の中世日本における再現化</li> <li>11、修行と参詣-行者の霊地斗撒から衆庶の巡礼へ</li> <li>12、縁起と霊験-古代寺院から霊験所への参詣感得へ</li> <li>13、浄土憧憬と往生-往生伝の生成と浄土の聖地</li> <li>14、天狗と魔界の誘惑-天狗説話の系譜と芸能化</li> <li>15、絵巻が象る世界像-社寺縁起絵巻の生み出す中世</li> </ol>				

文学研究科（博士後期課程）		専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1040	授業科目名	古代中世文学課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	東城 敏毅	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。				
到達目標	到達目標 1 博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆の方法について修得できる。				
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）20% 学会発表（プレ発表含）30% 論文執筆 50%				
留意事項	学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。				
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文内容の検討</li> <li>2. 博士論文の方法論の検討</li> <li>3. 博士論文の構成の検討</li> <li>4. 博士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 発表・討議（1）</li> <li>6. 発表・討議（2）</li> <li>7. 論文執筆・討議（1）</li> <li>8. 論文執筆・討議（2）</li> <li>9. 学会プレ発表・討議（3）</li> <li>10. 学会プレ発表・討議（4）</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）</li> <li>14. 議論の総括（1）</li> <li>15. 議論の総括（2）</li> </ol>				

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	D1045	授業科目名	古代中世文学課題研究II	期間
担当者	東城 敏毅	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
到達目標	到達目標 1 博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）20% 学会発表（プレ発表含）30% 論文執筆 50%			
留意事項	学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。			
教材	石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文内容の検討</li> <li>2. 博士論文の方法論の検討</li> <li>3. 博士論文の構成の検討</li> <li>4. 博士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 学会プレ発表・討議（1）</li> <li>6. 学会プレ発表・討議（2）</li> <li>7. 学会プレ発表・討議（3）</li> <li>8. 学会プレ発表・討議（4）</li> <li>9. 論文執筆・討議（1）</li> <li>10. 論文執筆・討議（2）</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）</li> <li>14. 論文の総括（1）</li> <li>15. 論文の総括（2）</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	古代中世文学
授業コード	D1050	授業科目名	古代中世文学課題研究I	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
到達目標	到達目標 1 博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）20% 学会発表（プレ発表含）30% 論文執筆 50%			
留意事項	学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文内容の検討</li> <li>2. 博士論文の方法論の検討</li> <li>3. 博士論文の構成の検討</li> <li>4. 博士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 発表・討議（1）</li> <li>6. 発表・討議（2）</li> <li>7. 論文執筆・討議（1）</li> <li>8. 論文執筆・討議（2）</li> <li>9. 学会プレ発表・討議（3）</li> <li>10. 学会プレ発表・討議（4）</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）</li> <li>14. 議論の総括（1）</li> <li>15. 議論の総括（2）</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学 I
授業コード	D1055	授業科目名	古代中世文学課題研究II	期間
担当者	中井 賢一	授業形態	演習	単位数
授業概要	履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
到達目標	到達目標 1 博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。 到達方法 2 学会発表の方法について修得できる。 到達目標 2 博士論文執筆の方法について修得できる。			
成績評価基準	授業内演習（発表演習・論文作成演習）20% 学会発表（プレ発表含）30% 論文執筆 50%			
留意事項	学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文内容の検討</li> <li>2. 博士論文の方法論の検討</li> <li>3. 博士論文の構成の検討</li> <li>4. 博士論文目次案の作成と検討</li> <li>5. 学会プレ発表・討議（1）</li> <li>6. 学会プレ発表・討議（2）</li> <li>7. 学会プレ発表・討議（3）</li> <li>8. 学会プレ発表・討議（4）</li> <li>9. 論文執筆・討議（1）</li> <li>10. 論文執筆・討議（2）</li> <li>11. 論文執筆・討議（3）</li> <li>12. 論文執筆・討議（4）</li> <li>13. 論文執筆・討議（5）</li> <li>14. 論文の総括（1）</li> <li>15. 論文の総括（2）</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1110	授業科目名	近世近代文学特殊講義Ⅰ	期間
担当者	山根 道公	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本近代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から明治から戦前までの小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行う作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。			
到達目標	キリスト教的、聖書的テーマをもつ日本近代文学の作品を分析する方法を修得できる。			
成績評価基準	授業内活動と研究レポートにより評価する。			
留意事項	講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 日本近代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。 （明治～戦前）</li> <li>3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1</li> <li>4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2</li> <li>5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3</li> <li>6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4</li> <li>7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5</li> <li>8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6</li> <li>9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7</li> <li>10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8</li> <li>11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1</li> <li>12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2</li> <li>13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3</li> <li>14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	近世近代文学
授業コード	D1115	授業科目名	近世近代文学特殊講義II	期間
担当者	山根 道公	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本近代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行う作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。			
到達目標	キリスト教的、聖書的テーマをもつ日本近代文学の作品を分析する方法を修得できる。			
成績評価基準	授業内活動と研究レポートにより評価する。			
留意事項	講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 日本近代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。（戦後～）</li> <li>3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1</li> <li>4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2</li> <li>5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3</li> <li>6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4</li> <li>7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5</li> <li>8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6</li> <li>9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7</li> <li>10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8</li> <li>11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1</li> <li>12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2</li> <li>13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3</li> <li>14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1130	授業科目名	近世近代文学特殊講義Ⅴ	期間
担当者	山根 知子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	日本近代文学において児童文学作品を生み出した作家について、その作品の研究方法を学び、作家論としての作品の創作上の位置づけおよび作品研究について、実践的に取り組む。			
到達目標	日本児童文学の歴史と作家の特質をつかみ、小説・詩等の他のジャンルとの関係を認識しながら、日本児童文学の作品研究を実践できる。			
成績評価基準	授業内活動と研究論文により総合的に評価する。			
留意事項	日本児童文学における各自の研究課題を設定し、研究論文を執筆すること。			
教材	授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、イントロダクション</li> <li>2、明治期の児童文学史</li> <li>3、明治末期から大正期前半までの児童文学史</li> <li>4、大正期後半の児童文学史</li> <li>5、昭和期戦前の児童文学史</li> <li>6、戦後の児童文学史</li> <li>7、小説家の児童文学作品における作品論・作家論および研究方法</li> <li>8、児童文学作家の児童文学作品における作品論・作家論および研究方法</li> <li>9、履修者の選んだ児童文学作品の研究について方法論と研究内容について検討</li> <li>10、履修者の研究発表と質疑応答（1）</li> <li>11、（1）の発表の改善・発展についての報告</li> <li>12、履修者の研究発表と質疑応答（2）</li> <li>13、（2）の発表の改善・発展についての報告</li> <li>14、履修者による研究発表の論文作成報告と検討（1）</li> <li>15、履修者による研究発表の論文作成報告と検討（2）</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1140	授業科目名	近世近代文学特殊講義Ⅵ	2022年度第1期
担当者	長原 しのぶ	授業形態	講義（演習を含む）	2単位
授業概要	日本近現代文学（サブカルチャー含む小説）の作品研究・作家研究を行う。文学を形成する背景である社会事情とメディア、執筆材料などを客観的な資料として用いた実践的な方法で考察と分析を行う。			
到達目標	必要な資料の収集とその資料を用いた作品研究もしくは作家研究ができる。			
成績評価基準	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%、発表 20%、最終レポート（論文）40%とする。			
留意事項	近代以降の社会事情とメディア史を理解し、作品研究の幅を広げること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：授業についてのガイダンスと導入（翻案小説を例とする実践的方法について） 第 2 回：昭和史の中の文学について 第 3 回：現代史の中の文学について 第 4 回：メディア史の中の文学について 第 5 回：作品研究の実例検証① 第 6 回：作品研究の実例検証② 第 7 回：作家研究の実例検証① 第 8 回：作家研究の実例検証② 第 9 回：客観的資料の収集と分析方法について 第 10 回：作品分析と考察① 第 11 回：作品分析と考察② 第 12 回：作品分析と考察③ 第 13 回：作品分析と考察④ 第 14 回：研究方法の総括 第 15 回：最終レポートの指導			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1145	授業科目名	近世近代文学特殊講義Ⅶ	2022年度第2期
担当者	長原 しのぶ	授業形態	講義（演習を含む）	2単位
授業概要	日本近現代文学（サブカルチャー含む小説）の作品研究・作家研究を具体的な作品を用いて行う。受講生の論文作成に資する文献を読んでいく。			
到達目標	取り上げた文献について理解した上で、作品研究もしくは作家研究ができる。 学術論文の展開方法と立証方法が理解できる。			
成績評価基準	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%、発表 20%、最終レポート（論文）40%とする。			
留意事項	数多くの文献を読み、作品研究と作家研究の幅を広げること。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	第 1 回：授業についてのガイダンスと導入（文学研究の方法論） 第 2 回：昭和の研究史 第 3 回：現代の研究史 第 4 回：文献研究① 第 5 回：文献研究② 第 6 回：文献研究③ 第 7 回：文献研究④ 第 8 回：作品研究の実例検証 第 9 回：作家研究の実例検証 第 10 回：作品分析と考察① 第 11 回：作品分析と考察② 第 12 回：作品分析と考察③ 第 13 回：作品分析と考察④ 第 14 回：研究方法の総括 第 15 回：最終レポートの指導			







文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1165	授業科目名	近世近代文学課題研究Ⅱ	期間
担当者	山根 知子	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
到達目標	博士論文作成			
成績評価基準	作成した論文等の達成度によって判断する。			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	1. 博士論文作成計画の再検討 その 1 2. その 2 3. テキスト分析の再検討 その 1 4. その 2 5. その 3 6. 文献の再調査 その 1 7. その 2 8. その 3 9. 論文作成 その 1 10. その 2 11. その 3 12. その 4 13. その 5 14. 論文への評価・再検討 その 1 15. 論文への評価・再検討 その 2 論文提出			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本文学Ⅱ
授業コード	D1170	授業科目名	近世近代文学課題研究Ⅰ	期間
担当者	山根 道公	授業形態	演習	単位数
授業概要	学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
到達目標	博士論文作成			
成績評価基準	作成した論文等の達成度によって判断する。			
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	1. 博士論文作成計画 その1 2. その2 3. テキスト分析 その1 4. その2 5. その3 6. 文献調査 その1 7. その2 8. その3 9. 論文作成 その1 10. その2 11. その3 12. その4 13. その5 14. 論文への評価・検討 その1 15. 論文への評価・検討 その2 論文提出			



文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	D1210	授業科目名	日本語学特殊講義I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	言語は絶えず変化する。日本語も例外ではない。言葉の変化は過去に生じただけでなく現在も進行中である。話し言葉を中心とする現在進行中の日本語の変化について、「日本語学特殊講義II」で実際に調査するための準備として、関連する先行研究の精読を行なうことで多角的視点と研究方法を修得する。				
到達目標	到達目標1：先行研究の精読をとおして話し言葉を中心とする日本語の動態研究の一端を説明できる。 到達目標2：先行研究の主張について議論できる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	なし。				
教材	なし。				
授業予定	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の精読①（岡山県における連母音の融合現象） 第3回：先行研究の精読②（岡山市における連母音の融合現象） 第4回：先行研究の精読③（依頼表現としての「～てもらっていい？」） 第5回：先行研究の精読④（「大丈夫です」の用法の拡大） 第6回：先行研究の精読⑤（文末における女性的表現・男性的表現の使用） 第7回：先行研究の精読⑥（親族呼称の変化） 第8回：先行研究の精読⑦（新古で対立する外来語等） 第9回：先行研究の精読⑧（岡山県における動詞の打消し、打消し過去、アスペクト） 第10回：先行研究の精読⑨（鼻濁音） 第11回：先行研究の精読⑩（外来語音） 第12回：先行研究の精読⑪（直音の拗音化と拗音の直音化） 第13回：先行研究の精読⑫（動詞「言う」の語幹の発音） 第14回：先行研究の精読⑬（非語頭の[w]の脱落現象） 第15回：先行研究の精読⑭（食事に関する新表現）				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	D1215	授業科目名	日本語学特殊講義II	期間	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	言語は絶えず変化する。日本語も例外ではない。言葉の変化は過去に生じただけでなく現在も進行中である。話し言葉を中心とする現在進行中の日本語の変化について、「日本語学特殊講義I」で行った関連する先行研究の精読をふまえて実際に調査を企画・実施することとおし、自身の研究を展開するための実践力を養う。				
到達目標	到達目標1：言語調査を企画できる。 到達目標2：データを収集・蓄積・整理して分析できる。 到達目標3：分析結果について議論できる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	PCを用いてのデータベースを作成する。データベースの作成では、授業時間以外の時間を使う必要がある。				
教材	なし。				
授業予定	第1回：着目する言語現象についての検討① 第2回：着目する言語現象についての検討② 第3回：研究対象とデータ収集法についての検討① 第4回：研究対象とデータ収集法についての検討② 第5回：データベースの構築に関する検討 第6回：集積したデータの仮分析と結果の検討 第7回：データ収集法とデータベース構築に関する再検討 第8回：データの分析結果の報告と検討① 第9回：データの分析結果の報告と検討② 第10回：データの分析結果の報告と検討③ 第11回：データの分析結果の報告と検討⑥ 第12回：データの分析結果の報告と検討⑦ 第13回：データの分析結果の報告と検討⑧ 第14回：データの分析結果の報告と検討（最終回） 第15回：総括				

文学研究科（博士後期課程）		専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	D1230	授業科目名	日本語学特殊講義V	期間	2022年度第1期
担当者	瀬間 正之	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	<p>本授業では、音節構造もシンタクスも異なる古代中国語を表記するために発明された漢字を用いて、どのようにノル・カタル・ウタフという言語表現を表記していったかを考察する。  資料としては、百済・新羅・倭の金石文・木簡、及び文献資料としては、祝詞・万葉集・古事記・日本書紀・風土記を用いるが、これらに影響を与えた漢籍・仏典も随時利用する。</p>				
到達目標	<p>次の2点が向上できること。  1. 漢字資料の読解能力の向上  2. 上代資料読解能力の向上</p>				
成績評価基準	出席状況、及び授業中の質疑応答。				
留意事項	受講予定者は、事前に修士論文のテーマ、現在の専攻領域について報告すること。				
教材	瀬間正之編『「上代のことばと文字」入門』花鳥社、二〇二〇年、その他プリント配布				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口誦の世界 -モノ・コトの起源をカタル</li> <li>2. 祝詞の言葉 -創られたことば</li> <li>3. 漢字漢文の伝来 -論語と千字文</li> <li>4. 金石文・木簡 -国語表記の開発 1</li> <li>5. 金石文・木簡 -国語表記の開発 2</li> <li>6. 〈百済=倭〉漢字文化圏</li> <li>7. 歌と文字 -木簡に記された歌</li> <li>8. 文字による歌 -記紀歌謡</li> <li>9. 文字による歌 -懐風藻と万葉集</li> <li>10. 漢字で散文を書くということ</li> <li>11. 日本書紀の文字表現</li> <li>12. 古事記の文字表現 1</li> <li>13. 古事記の文字表現 2</li> <li>14. 風土記の文字表現 1</li> <li>15. 風土記の文字表現 2</li> </ol>				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	D1240	授業科目名	日本語学課題研究I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	本授業では、博士論文作成に向け、各自の問題意識や研究課題について集中的・焦点的に発表と検討を行う。また、分析データを 得るための本調査をめざした予備調査を行い、その結果について討議する。				
到達目標	到達目標1：予定する博士論文作成のために必要な予備調査（データ収集）ができる。 到達目標2：関連文献を精読し適切な評価と自身の研究への位置づけができる。 到達目標3：上記の作業を通じて博士論文作成に着手できる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	授業の一部でPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成にあたっては、授業時間以外の時間も使う必要がある。				
教材	なし。				
授業予定	第1回：ガイダンス 第2回：研究の方向性に関する討議 第3回：研究の方向性（修正案）に関する討議 第4回：関連文献の発表と討議（1） 第5回：関連文献の発表と討議（2） 第6回：研究方法に関する討議（1） 第7回：研究方法に関する討議（2） 第8回：関連文献の発表と討議（3） 第9回：関連文献の発表と討議（4） 第10回：予備調査の結果に関する討議（1） 第11回：予備調査の結果に関する討議（2） 第12回：関連文献の発表と討議（5） 第13回：関連文献の発表と討議（6） 第14回：本調査に向けての討議（1） 第15回：本調査に向けての討議（2）				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻	研究分野	日本語学
授業コード	D1245	授業科目名	日本語学課題研究II	期間	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	本授業では、博士論文作成に向け、各自の問題意識や研究課題について集中的・焦点的に発表と検討を行う。また、本調査に着手し、中間結果について討議する。				
到達目標	到達目標1：予定する博士論文作成のために必要な本調査（データ収集）に着手できる。 到達目標2：その作業を通じて博士論文の作成を進めることができる。 到達目標3：学会発表に向けての準備ができる。				
成績評価基準	授業活動内容：50% 研究レポート：50%				
留意事項	授業の一部でPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成にあたっては、授業時間以外の時間も使う必要がある。				
教材	なし。				
授業予定	第1回：ガイダンス 第2回：本調査に向けての調整（夏季休暇の間の検討をふまえて） 第3回：本調査の中間結果についての発表と討議（1） 第4回：本調査の中間結果についての発表と討議（2） 第5回：本調査の中間結果についての発表と討議（3） 第6回：本調査の中間結果についての発表と討議（4） 第7回：本調査のデータの示し方についての発表と討議（1） 第8回：本調査のデータの示し方についての発表と討議（2） 第9回：関連文献の追加発表と討議（1） 第10回：関連文献の追加発表と討議（2） 第11回：本調査の結果の発表と討議（1） 第12回：本調査の結果の発表と討議（2） 第13回：学会発表に向けての討議（1） 第14回：学会発表に向けての討議（2） 第15回：2年次以降の博士論文作成に向けての検討				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻 博士後期課程	研究分野	関連
授業コード	D1310	授業科目名	日本思想史特殊講義I	期間	2022年度第1期
担当者	本村 昌文	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	日本思想史上における重要なテーマをいくつか取り上げ、そのテーマに関する講義を行った後、関連する研究文献を受講者が選択し、内容をまとめて発表・質疑応答を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 日本思想史研究において重要なテーマを把握し、説明することができる。</li> <li>2, 重要な研究文献(論文, 研究書)の内容を的確にまとめ、問題点を指摘することができる。</li> <li>3, 他者の発表を理解し、的確な質問をすることができる。また、質問に対して適切な応答をすることができる。</li> </ol>				
成績評価基準	授業での取り組み40%, 最終レポート60%				
留意事項	自分の研究テーマと関連させながら考える意識をもつようにする。				
教材	適宜、プリントなどを配布する。 参考文献: 『日本思想史講座』1巻~5巻(ペリかん社), 『岩波講座日本の思想』1巻~8巻(岩波書店)。				
授業予定	第1回 ガイダンス 第2回 日本思想史の研究方法①(講義) 第3回 日本思想史の研究方法②(演習) 第4回 日本思想史の研究方法③(演習) 第5回 神と仏の関係①(講義) 第6回 神と仏の関係②(演習) 第7回 神と仏の関係③(演習) 第8回 儒教と仏教の論争①(講義) 第9回 儒教と仏教の論争②(演習) 第10回 儒教と仏教の論争③(演習) 第11回 日本思想史における「死」①(講義) 第12回 日本思想史における「死」②(講義) 第13回 日本思想史における「死」③(講義) 第14回 日本思想史とは何か?(演習) 第15回 まとめ				

文学研究科		専攻名(コース名)	日本語日本文学専攻 博士後期課程	研究分野	関連
授業コード	D1315	授業科目名	日本思想史特殊講義II	期間	2022年度第2期
担当者	本村 昌文	授業形態	演習	単位数	2単位
授業概要	日本思想史上における「死」に関連する史料講読を行う。今年度は、三宅尚斎（1662年～1741年）の「祭祀来格説講義」を講読する。				
到達目標	1, 江戸時代における儒教関連の1次史料を読むために必要な知識を会得する。 2, 的確な現代日本語訳をすることができる。 3, 関連する史料にあたり、内容理解を深めることができる。				
成績評価基準	授業での取り組み40%, 最終レポート60%				
留意事項	自分の研究テーマと関連させながら考える意識をもつようにする。				
教材	適宜、プリントなどを配布する。				
授業予定	第1回 ガイダンス 第2回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読① 第3回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読② 第4回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読③ 第5回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読④ 第6回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑤ 第7回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑥ 第8回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑦ 第9回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑧ 第10回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑨ 第11回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑩ 第12回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑪ 第13回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑫ 第14回 三宅尚斎「祭祀来格説講義」の講読⑬ 第15回 まとめ				

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	関連
授業コード	D1320	授業科目名	日本民俗学特殊講義I	2022年度第1期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	民俗宗教について、とくに民俗社会における信仰・知識のあり方、仏教・神社神道という成立宗教との関係に焦点を当てて考察する。			
到達目標	日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の立脚点・方法論・成果を理解し、文学研究に援用できる。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 〈宗教〉と〈信仰〉</li> <li>2. 〈信仰〉と〈知識〉</li> <li>3. 〈民間信仰〉と〈民俗宗教〉</li> <li>4. 〈固有信仰〉という概念</li> <li>5. 神社神道と民俗宗教</li> <li>6. 自然神と祖霊信仰・先祖祭祀</li> <li>7. 穢れ観念の発生と展開</li> <li>8. 神社合祀政策と民俗</li> <li>9. 仏教と民俗宗教</li> <li>10. 仏教の〈民俗〉化</li> <li>11. 〈民俗〉の仏教化</li> <li>12. 神仏分離・廃仏毀釈と民俗</li> <li>13. 縁起文学</li> <li>14. 神仏を奉じる遍歴者</li> <li>15. 〈俗信〉と〈迷信〉</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	関連
授業コード	D1325	授業科目名	日本民俗学特殊講義II	2022年度第2期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の民俗宗教における神がかり・憑霊について、シャーマニズム理論を検討するとともに、中国地方の神楽を主たる題材の一つとして考察する。			
到達目標	民俗宗教研究の成果に立ってシャーマニスティックな宗教文化を理解し、文学研究に援用できる。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シャーマニズムの理論</li> <li>2. 北アジアのシャーマンと古典的なシャーマニズム理解</li> <li>3. 佐々木宏幹のシャーマニズム論</li> <li>4. 佐々木説批判の論説</li> <li>5. 日本の神がかり</li> <li>6. 中古・中世の憑霊信仰</li> <li>7. 民俗社会の憑霊信仰</li> <li>8. 託宣祭りの諸相</li> <li>9. 修験道と神がかり・憑霊</li> <li>10. 備中・備後の荒神神楽</li> <li>11. 荒神信仰</li> <li>12. 神楽と五行思想</li> <li>13. 近世における神楽改編</li> <li>14. 石見・芸北の神楽</li> <li>15. 神楽とシャーマニズム理論</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	関連
授業コード	D1340	授業科目名	キリスト教思想史特殊講義I	2022年度第1期
担当者	出村 和彦	授業形態	講義	単位数
授業概要	西洋古代キリスト教思想を代表するアウグスティヌスの思想を古代ギリシアローマ文化（ヘレニズム）の文学・歴史・哲学と聖書文学・宗教思想（ヘブライズム）の受容との関係で解釈史的・思想的に考察する。第1期は古典文学を中心に、必要に応じて西洋近現代文学や日本文学（特に夏目漱石）に言及する。			
到達目標	<p>到達目標1 西洋古典と聖書の言語文学文化についての幅広い教養と研究に関連する多様な視点を身につけることができる。</p> <p>到達目標2 キリスト教思想史の研究方法论との対比のもとに自身の研究課題探究の問題発見力を養うことができる。</p> <p>到達目標3 西洋古典と聖書文学までも視野に入れて自身の研究を推進し多様な社会や他者に貢献する意欲が持てる。</p>			
成績評価基準	毎回の講義に対するレスポンスペーパー 30%、中間発表 30%、期末レポート40%			
留意事項	本授業を履修する学生は、自分の研究とキリスト教思想史との関連に留意して、人間の生き方あり方について深く思いを馳せるように心がけてください。			
教材	読解するテキスト原典翻訳等は教室で指示する。基本的な参考書として、出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』（岩波新書）。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方、イントロダクション</li> <li>2. 古代キリスト教にとってのギリシアローマ（ヘレニズム）文学・哲学</li> <li>3. アウグスティヌスの文化的背景 生い立ちと教育</li> <li>4. ヴェルギリウス『アエネイス』とアウグスティヌス1</li> <li>5. ヴェルギリウス『アエネイス』とアウグスティヌス2</li> <li>6. キケロ『ホルテンシウス（哲学のすすめ）』とアウグスティヌス1</li> <li>7. キケロ『ホルテンシウス（哲学のすすめ）』とアウグスティヌス2</li> <li>8. プロティノス『エンネアデス』とアウグスティヌス1</li> <li>9. プロティノス『エンネアデス』とアウグスティヌス2</li> <li>10. 中間発表と討議</li> <li>11. プラトン哲学とアウグスティヌス1</li> <li>12. プラトン哲学とアウグスティヌス2</li> <li>13. キケロ『トゥスクルム荘対談集』とアウグスティヌス1</li> <li>14. キケロ『トゥスクルム荘対談集』とアウグスティヌス2</li> <li>15. まとめ、授業評価アンケート</li> </ol>			

文学研究科（博士後期課程）	専攻名（コース名）	日本語日本文学専攻	研究分野	関連
授業コード	D1345	授業科目名	キリスト教思想史特殊講義II	2022年度第2期
担当者	出村 和彦	授業形態	講義	単位数
授業概要	西洋古代キリスト教思想を代表するアウグスティヌスの思想を古代ギリシアローマ文化（ヘレニズム）の文学・歴史・哲学と聖書文学・宗教思想（ヘブライズム）の受容との関係で解釈史的・思想史的に考察する。第2期は聖書解釈を中心に。必要に応じて西洋近現代文学や日本文学（特に夏目漱石）に言及する。			
到達目標	<p>到達目標1 西洋古典と聖書の言語文学文化についての幅広い教養と研究に関連する多様な視点を身につけることができる。</p> <p>到達目標2 キリスト教思想史の研究方法论との対比のもとに自身の研究課題探究の問題発見力を養うことができる。</p> <p>到達目標3 西洋古典と聖書文学までも視野に入れて自身の研究を推進し多様な社会や他者に貢献する意欲が持てる。</p>			
成績評価基準	毎回の講義に対するレスポンスペーパー 30%、中間発表 30%、期末レポート40%			
留意事項	本授業を履修する学生は、自分の研究とキリスト教思想史との関連に留意して、人間の生き方あり方について深く思いを馳せるように心がけてください。			
教材	読解するテキスト原典翻訳等は教室で指示する。基本的な参考書として、出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』（岩波新書）。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方、イントロダクション</li> <li>2. 西方ラテン文化圏にとっての聖書</li> <li>3. アウグスティヌスと聖書との出会い</li> <li>4. アウグスティヌスのパウロ読解1</li> <li>5. アウグスティヌスのパウロ読解2</li> <li>6. アウグスティヌスのパウロ読解3</li> <li>7. アウグスティヌスのパウロ読解4</li> <li>8. アウグスティヌスと『創世記』1</li> <li>9. アウグスティヌスと『創世記』2</li> <li>10. アウグスティヌスと『創世記』3</li> <li>11. 中間発表と討議</li> <li>12. アウグスティヌスの『詩編注解』1</li> <li>13. アウグスティヌスの『詩編注解』2</li> <li>14. アウグスティヌスの『詩編注解』3</li> <li>15. まとめ、授業評価アンケート</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2110	授業科目名	イギリス文学特論IA	2022年度第1期
担当者	赤松 佳子	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、17世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。			
到達目標	到達目標1：英語で書かれた韻文の読解力を培う。 到達目標2：英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。			
成績評価基準	学期末レポート（60%）、担当発表・意見交換（20%）、小レポート（20%）			
留意事項	本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。			
教材	John Donne, The Complete English Poems 他（資料配付）			
授業予定	<p>愛をテーマにしたダンの詩を取り上げ、永遠性を表す比喩表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。</p> <p>回</p> <p>1 導入—詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介</p> <p>2 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 1 「唄」(“Song”) 2 種</p> <p>3 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 2 「おはよう」(“The Good-Morrow”)</p> <p>4 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 3 「日の出」(“The Sun Rising”)</p> <p>5 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 4 「聖列加入」(“The Canonization”)</p> <p>6 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 5 「記念日」(“The Anniversary”)</p> <p>7 『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 6 「別れ(嘆くのを禁じて)」 (“A Valediction: Forbidding Mourning”)</p> <p>8 宗教詩の作品講読 1 『冠』(La Corona)</p> <p>9 宗教詩の作品講読 2 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』前期</p> <p>10 宗教詩の作品講読 3 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』中期</p> <p>11 宗教詩の作品講読 4 『聖なるソネット(神に捧げる瞑想)』後期</p> <p>12 宗教詩の作品講読 5 「キリストに捧げる賛歌」(“A Hymn to Christ, at the Author’s Last Going into Germany”)</p> <p>13 宗教詩の作品講読 6 「病床にあって神、わが神に捧げる賛歌」(“A Hymn to God, My God, in My Sickness”)</p> <p>14 評論を読む</p> <p>15 まとめ</p>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2115	授業科目名	イギリス文学特論IB	期間
担当者	赤松 佳子	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、19世紀アメリカの女性詩人エミリー・ディキンソンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。			
到達目標	本授業では、19世紀アメリカの女性詩人エミリー・ディキンソンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。			
成績評価基準	到達目標1：英語で書かれた韻文の読解力を培う。 到達目標2：英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。			
留意事項	学期末レポート（60%）、担当発表・意見交換（20%）、小レポート（20%）			
教材	The Poems of Emily Dickinson, edited by R. W. Franklin 他（資料配付）			
授業予定	<p>南北戦争時における、永遠性を希求するイメージアリーを駆使したディキンソンの詩を取り上げ、現代詩に通じる技法を読み解く。</p> <p>回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入一詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介</li> <li>2 自然詩講読1（1861年創作の作品）</li> <li>3 自然詩講読2（1662-63年創作の作品）</li> <li>4 自然詩講読3（1864-65年創作の作品）</li> <li>5 愛の詩講読1（1861年創作の作品）</li> <li>6 愛の詩講読2（1662-63年創作の作品）</li> <li>7 愛の詩講読3（1864-65年創作の作品）</li> <li>8 死を歌う詩1（1861年創作の作品）</li> <li>9 死を歌う詩2（1662年創作の作品）</li> <li>10 死を歌う詩3（1663年創作の作品）</li> <li>11 死を歌う詩4（1864-65年創作の作品）</li> <li>12 書簡に見る詩の要素1（T・W・ヒギンソン宛ての前期の手紙）</li> <li>13 書簡に見る詩の要素2（T・W・ヒギンソン宛ての後期の手紙）</li> <li>14 評論を読む</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2120	授業科目名	イギリス文学特論IIA	期間
担当者	新野 緑	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>ヴィクトリア朝を代表する作家Charles Dickensの晩年の代表作Great Expectationsを精読する。幼い主人公ピップの脱獄囚との邂逅から始まるこの物語は、花嫁衣装を身につけた不気味な老女が住まう屋敷サティス・ハウスでの冷酷な美少女エステラとの出会いと彼女への報われぬ恋、そして謎の恩人からの遺産相続の見込みを経て、紳士への成り上がりの夢と幻滅へと発展していく。イギリス人の理想とされた紳士像の光と影とを抉り出した物語の精読を通して、ヴィクトリア朝の社会構造を深く理解するとともに、先行研究の押さえ方や作品解釈の方法といった文学研究の基本を学ぶ。1期はピップがロンドンに出発するまでの小説の第1部を読む。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯る程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。</li> <li>2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。</li> <li>3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。</li> </ol>			
成績評価基準	授業への積極的参加 20% 発表 20% 最終レポート60%			
留意事項	<p>原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。</p>			
教材	<p>Charles Dickens, Great Expectations. Penguin Classics, 2002. Revised ed. ISBN-13 : 978-0141439563（各自で授業開始までに購入のこと） これ以外の参考書については適宜教室で配布、あるいは指示する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作家紹介とDickens 研究の歴史</li> <li>2. Chapter1: 名づけとアイデンティティ</li> <li>3. Chapter2: 歪んだ家庭</li> <li>4. Chapter3: 不可解な罪意識</li> <li>5. Chapter 5: 囚人との絆</li> <li>6. Chapter 8: Satis House</li> <li>7. Chapter 9: Pipの嘘</li> <li>8. Chapter10: 囚人からの使い</li> <li>9. Chapter12: 卑しい親戚たち</li> <li>10. Chapter14: 徒弟奉公</li> <li>11. Chapter15: 兄弟子Orlick</li> <li>12. Chapter17: 紳士になる夢</li> <li>13. Chapter18: 遺産相続の見込み</li> <li>14. Chapter19: ロンドンへ</li> <li>15. まとめとディスカッション</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2125	授業科目名	イギリス文学特論IIB	期間
担当者	新野 緑	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>ヴィクトリア朝を代表する作家Charles Dickensの晩年の代表作Great Expectationsを精読する。幼い主人公ピップの脱獄囚との邂逅から始まるこの物語は、花嫁衣装を身につけた不気味な老女が住まう屋敷サティス・ハウスでの冷酷な美少女エステラとの出会いと彼女への報われぬ恋、そして謎の恩人からの遺産相続の見込みを経て、紳士への成り上がりの夢と幻滅へと発展していく。イギリス人の理想とされた紳士像の光と影とを抉り出した物語の精読を通して、ヴィクトリア朝の社会構造を深く理解するとともに、先行研究の押さえ方や作品解釈の方法といった文学研究の基本を学ぶ。ピップがロンドンに上京してからの運命の変転を描く第2部第3部を読む。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。</li> <li>2. 先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。</li> <li>3. 自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。</li> </ol>			
成績評価基準	授業への積極的参加 20% 発表 20% 最終レポート60%			
留意事項	<p>原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。</p> <p>1期の「イギリス文学特論IIa」で取り上げた部分については、第1回授業で説明するが、可能な限り1期のこの授業も履修していることが望ましい。</p> <p>授業中に取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。</p>			
教材	<p>Charles Dickens, Great Expectations. Penguin Classics, 2002. Revised ed. ISBN-13 : 978-0141439563 (第1期の「イギリス文学特論IIa」と同じ教科書。教科書を持っていない人は各自で購入のこと)</p> <p>その他必要な参考書については授業中に適宜紹介、配布する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Part Iの振り返りとディスカッション</li> <li>2. Chapter20, 21: 犯罪都市ロンドン</li> <li>3. Chapter 22, 23: Miss Havishamの過去</li> <li>4. Chapter25, 26: Wemmickの城</li> <li>5. Chapter27, 28: 偽善</li> <li>6. Chapter31, 32: Hamletの意味</li> <li>7. Chapter34, 35: 墮落</li> <li>8. Part IIについてのディスカッション</li> <li>9. Chapter40, 41: 恩人の正体</li> <li>10. Chapter42, 43: 紳士の裏面</li> <li>11. Chapter49, 50: Estellaの秘密</li> <li>12. Chapter53, 54: Orlickとの対決</li> <li>13. Chapter55, 56: Magwitchの死</li> <li>14. Chapter 57, 58: 和解</li> <li>15. Part IIIについてのディスカッション</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス・アイルランド文学
授業コード	M2130	授業科目名	イギリス文学特論IIIA	期間
担当者	松井 かや	授業形態	講義	単位数
授業概要	ジェイムズ・ジョイスの短篇集 <i>Dubliners</i> (1914) と、この作品の出版から100年後に刊行された <i>Dubliners 100</i> (2014) から、いくつかの作品を選んで読む。ジョイスの <i>Dubliners</i> は15の作品で構成されており、 <i>Dubliners 100</i> には15人の現在活躍中のアイルランドの作家たちがオリジナルのそれぞれの作品に触発され、同じタイトルで書いた "new stories" が収められている。まずは20世紀初頭のアイルランドの歴史的・社会的状況を踏まえて <i>Dubliners</i> を読み、その後、 <i>Dubliners 100</i> において現代作家たちがどのようにジョイスの作品に「応答」しているのかを検討し、ジョイスを読むことの今日的な意義を考えたい。各作品に関する批評や書評も取り上げ、 <i>Dubliners</i> を多角的に考察する。			
到達目標	作品の背景や特徴、使用されている小説技法を理解し、作品を批評的に読む視点を身につける。また、作品から注目すべきテーマを抽出し、それについて自分の主張を論理的に展開できるようにする。			
成績評価基準	毎回の授業準備および授業での意見発表：40% 最終レポート：60%			
留意事項	履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）。アイルランドの社会的・歴史的背景、イギリスとの関わり等について、知識を深めること。			
教材	James Joyce, <i>Dubliners</i> (Penguin Classics Deluxe Edition) Thomas Morris ed., <i>Dubliners 100</i>			
授業予定	第 1 回：イントロダクション、アイルランド文学概観 第 2 回：“The Sisters” 前半（この回以降、毎回ディスカッションあり） 第 3 回：“The Sisters” 後半 第 4 回：“Araby” 第 5 回：“Evelyn” 第 6 回：“A Painful Case” 前半 第 7 回：“A Painful Case” 後半 第 8 回：Patrick McCabe, “The Sisters” 第 9 回：John Boyne, “Araby” 第 10 回：Donal Ryan, “Evelyn” 第 11 回：Paul Murray, “A Painful Case” 前半 第 12 回：Paul Murray, “A Painful Case” 後半 第 13 回： <i>Dubliners</i> に関する批評 第 14 回： <i>Dubliners</i> と <i>Dubliners 100</i> に関する書評 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス・アイルランド文学
授業コード	M2135	授業科目名	イギリス文学特論IIIB	期間
担当者	松井 かや	授業形態	講義	単位数
授業概要	20 世紀アイルランドの作家エリザベス・ボウエンの短編 “The Demon Lover”（1941）を精読する。ボウエンは長く英国に暮らした作家であり、この短篇の舞台も第二次大戦中のロンドンである。ここではアングロ・アイリッシュという彼女の出自を踏まえ、アイルランド文学の伝統を彼女がいかに引き継いでいるのかという点にも着目しつつ、作品を読み解いていきたい。さらに、この短篇を収めた短篇集にボウエン自身が寄せた序文と、この短篇に関する2つの批評を精読し、検討する。			
到達目標	難解で知られるエリザベス・ボウエンの作品の精読を通して、英語力を増強し、作品の背景や特徴、使用されている小説技法について理解する。また、作品批評の精読を通してその枠組みや方法を理解し、作品を批評的に読む視点を身につける。			
成績評価基準	毎回の授業準備および授業での意見発表：40% 最終レポート：60%			
留意事項	履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）。			
教材	Elizabeth Bowen, “The Demon Lover” Robert L. Calder, “A More Sinister Troth: Elizabeth Bowen’s ‘The Demon Lover’ as an Allegory” (1994) Terry W. Thompson, “A Face You Do Not Expect’: The Female Other in Elizabeth Bowen’s ‘The Demon Lover’” (2010)  すべて教員が準備して配布する。			
授業予定	第 1 回：イントロダクション 第 2 回：“The Demon Lover” 精読、戦時の女性たち 第 3 回：“The Demon Lover” 精読、二つの大戦 第 4 回：“The Demon Lover” 精読、解釈の可能性 第 5 回：ボウエンの戦時短篇概観 第 6 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、ボウエンの戦時短篇 第 7 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、戦争を記録すること 第 8 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、想像力について 第 9 回：Calder 批評精読：議論の枠組み 第 10 回：Calder 批評精読：寓意 第 11 回：Calder 批評精読：解釈 第 12 回：Thompson 批評精読：ドッペルゲンガー 第 13 回：Thompson 批評精読：第三者の存在 第 14 回：Thompson 批評精読：解釈 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2140	授業科目名	イギリス文学演習A	2022年度第1期
担当者	新野 緑	授業形態	演習	単位数
授業概要	イギリス小説を中心に、修士論文の課題の設定、受講生が選んだ作品やテーマに則した先行研究の洗い出し、さらに文献を批判的に読んで、自身の作品解釈と比較しつつ考察を深めていく方法を学ぶ。また、論文執筆に必要な様式についてのルールを踏まえて、先行研究を活用しつつ自身の考えを論理的に構成する方法を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。</li> <li>2. 論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。</li> <li>3. 文学研究に関する様々なアプローチの方法を理解している。</li> <li>4. 必要な先行研究を的確に探し、それを批判的に評価できる。</li> </ol>			
成績評価基準	授業の積極的参加 20% 口頭発表 20% 期末レポート60%			
留意事項	授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの講読や解釈の準備を余裕を持って十分に行うこと。			
教材	<p>MLA 9 Simplified: Easy Way Guide to MLA Handbook: Updated for the MLA 9th Edition Handbook (Student Citation Styles). Appearance Publishes, 2021. ISBN-13: 979-8505819418（受講者は各自購入のこと）</p> <p>その他、批評理論についての必要文献と主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選んで、プリント等を配布する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業論文についての口頭発表</li> <li>3. 論文作成の方法(1)：テーマの設定と先行研究の調査</li> <li>4. 論文作成の方法(2)：作品分析と文献の収集</li> <li>5. 論文作成の方法(3)：論文の構成（アウトラインの作成）</li> <li>6. 論文作成の方法(4)：論文の様式</li> <li>7. 修士論文の研究課題</li> <li>8. 主要文献の収集</li> <li>9. アプローチの方法(1)：批評理論講読（テキスト分析）</li> <li>10. アプローチの方法(2)：批評理論講読（cultural materialism）</li> <li>11. アプローチの方法(3)：批評理論講読（ジェンダー論）</li> <li>12. 文献の評価(1)：主要文献の講読（作品）</li> <li>13. 文献の評価(2)：主要文献の講読（歴史）</li> <li>14. 文献の評価(3)：主要文献の講読（語り）</li> <li>15. 主要文献の書評(発表)</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2145	授業科目名	イギリス文学演習B	2022年度第2期
担当者	新野 緑	授業形態	演習	単位数
授業概要	1期に引き続き、イギリス小説を中心に、受講生が選んだ修士論文の作品やテーマについて、収集した文献との対話を通して独自の解釈を深め、論文執筆のルールに則って、論理的かつ説得的に論を構築、展開する方法を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。</li> <li>2. 論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。</li> <li>3. 必要な先行研究を批判的に評価して、独自の解釈を効果的に提示できる。</li> <li>4. 自身の解釈を論理的、説得的に構築し、英文でまとめることができる。</li> </ol>			
成績評価基準	授業の積極的参加 30% 口頭発表 20% 期末レポート50%			
留意事項	1期の「イギリス文学演習A」の授業を受講していることが望ましい。 授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの読解や解釈を余裕を持って十分に行うこと。			
教材	教科書 MLA 9 Simplified: Easy Way Guide to MLA Handbook: Updated for the MLA 9th Edition Handbook (Student Citation Styles). Appearance Publishes, 2021. ISBN-13: 979-8505819418 (受講者は各自購入のこと。ただし「イギリス文学演習A」の受講者は同じテキストなので新たに購入する必要はない) その他、主要文献については受講生の選んだテーマに則したのを選び、プリント等を配布する			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1期のレポートのフィードバックとディスカッション</li> <li>2. 参考文献表の作成（仮）</li> <li>3. アウトラインの作成</li> <li>4. 第一回中間発表</li> <li>5. 英語論文の文体</li> <li>6. 引用の方法</li> <li>7. 第2回中間発表</li> <li>8. 分析結果の吟味</li> <li>9. 主要参考文献の評価</li> <li>10. 第3回中間発表</li> <li>11. 序論</li> <li>12. 結論</li> <li>13. 論文全体の見直し</li> <li>14. 英文要旨の書き方</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2150	授業科目名	イギリス文学演習A	期間
担当者	赤松 佳子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、イギリス・ロマン派詩人の代表的な作品を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリー・ディキンソンの形而上的な詩への影響を見ていく。			
到達目標	到達目標1：英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。 到達目標2：修士論文を書く力をつける。			
成績評価基準	発表（40%）、レポート（60%）を総合的に評価する。			
留意事項	本授業を履修する学生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。			
教材	授業で配付。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入ーロマン派の時代と詩人たち</li> <li>2 William Wordsworth の作品講読 1「ルーシー」詩編 (Lucy Poems)</li> <li>3 William Wordsworth の作品講読 2「ルーシー・グレイ」(“Lucy Gray”)</li> <li>4 William Wordsworth の作品講読 3「カッコウに」(“To the Cuckoo”)</li> <li>5 William Wordsworth の作品講読 4 ティンターン修道院の数マイル上流で書い</li> <li>6 William Wordsworth の 作 品 講 読 5「不滅のオード」(“Ode: Intimations of Immortality”)</li> <li>7 John Keats の作品講読 1「ギリシャ壺のオード」(“Ode on a Grecian Urn”)</li> <li>8 John Keats の 作 品 講 読 2「ナイチンゲールに寄せるオード」(“Ode to a Nightingale”)</li> <li>9 John Keats の作品講読 3「秋に」(“To Autumn”)</li> <li>10 John Keats の作品講読 4 バラッド</li> <li>11 John Keats の作品講読 5 ソネット</li> <li>12 William Wordsworth の詩論 1 (詩の主題)</li> <li>13 William Wordsworth の詩論 2 (詩の読者)</li> <li>14 John Keats の手紙</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	イギリス文学
授業コード	M2155	授業科目名	イギリス文学演習B	2022年度第2期
担当者	赤松 佳子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、ロマン派から現代詩へと移行する時期のイギリス詩を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリー・ディキンソンの形而上的な詩への影響を見ていく。			
到達目標	到達目標1：英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。 到達目標2：修士論文を書く力をつける。			
成績評価基準	発表（40%）、レポート（60%）を総合的に評価する。			
留意事項	本授業を履修する学生は、先行論文や文学批評を幅広く読み、批評眼を磨くこと。			
教材	授業で配付。			
授業予定	1 導入—ロマン派から現代詩へ移行する時代と詩人たち 2 Elizabeth Barrett Browning の作品講読 1 ソネット 3 Elizabeth Barrett Browning の作品講読 2 物語詩 4 Elizabeth Barrett Browning の作品講読 3 抒情詩 5 Emily Brontëの作品講読 1 前期の詩 6 Emily Brontë の作品講読 2 後期の詩 7 Christina Rossetti の作品講読 1 「思い出して」（‘Remember’）・「私が死んだら」 （‘When I am dead,’） 8 Christina Rossetti の作品講読 2 「上り坂」（“Up-hill”） 9 Christina Rossetti の作品講読 3 「林檎摘み」（“An Apple-Gathering”）・「誕生日」 （“A Birthday”） 10 19 世紀女性詩人たち 11 T・S・Eliot の作品講読 1 前期の詩 12 T・S・Eliot の作品講読 2 後期の詩 13 W・B・Yeats の作品講読 1 前期の詩 14 W・B・Yeats の作品講読 2 後期の詩 15 まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2210	授業科目名	アメリカ文学特論IA	2022年度第1期
担当者	赤松 佳子	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、北米女性作家の一人、L・M・モンゴメリの最後の作品『ブライス家がつなぐ物語 [仮題]（アンの思い出の日々）』の〈前半〉を取り上げ、カナダ文学を研究する。死後出版となった本作品の前半を精読・分析し、どのように読まれ、批評されてきたかをも考えていく。			
到達目標	カナダ文学の書かれた文化的・社会的な背景を見ながら、作品を読む力を養う。			
成績評価基準	受講態度・授業での担当発表・意見交換 20% 学期末におけるレポート) 60% 課題小レポート 20%			
留意事項	本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。			
教材	Lefebvre, Benjamin, editor. The Blythes Are Quoted. By L. M. Montgomery. Penguin Canada, 2009.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入—作家の生涯と主要作品、カナダ文学史における位置づけ</li> <li>2 詩1とブライス家の会話</li> <li>3 短編 1(a) 設定</li> <li>4 短編 1(b) 人物描写</li> <li>5 短編 1(c) 転機と主題</li> <li>6 詩2とブライス家の会話</li> <li>7 短編 1(a) 設定</li> <li>8 短編 1(b) ユーモア</li> <li>9 短編 1(c) 構造</li> <li>10 詩3とブライス家の会話</li> <li>11 短編 1(a) 設定</li> <li>12 短編 1(b) ゴシップの役割</li> <li>13 短編 1(c) 結末の提示する問題</li> <li>14 評論を読む</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2215	授業科目名	アメリカ文学特論IB	期間
担当者	赤松 佳子	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、北米女性作家の一人、L・M・モンゴメリの最後の作品『ブライス家がつなぐ物語 [仮題]（アンの思い出の日々）』の〈後半〉を取り上げ、カナダ文学を研究する。死後出版となった本作品の前半を精読・分析し、どのように読まれ、批評されてきたかをも考えていく。			
到達目標	カナダ文学の書かれた文化的・社会的な背景を見ながら、作品を読む力を養う。			
成績評価基準	受講態度・授業での担当発表・意見交換 20% 学期末におけるレポート) 60% 課題小レポート 20%			
留意事項	本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。			
教材	Lefebvre, Benjamin, editor. The Blythes Are Quoted. By L. M. Montgomery. Penguin Canada, 2009.			
授業予定	1 導入—作家とその作品の評価 2 詩1とブライス家の会話 3 短編 1(a) 設定 4 短編 1(b) 風景描写 5 短編 1(c) 転機と主題 6 詩2とブライス家の会話 7 短編 1(a) 設定 8 短編 1(b) ユーモア 9 短編 1(c) 構造 10 詩3とブライス家の会話 11 短編 1(a) 設定 12 短編 1(b) アイロニー 13 最後の詩4とブライス家の会話を示す問題 14 評論を読む 15 まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2220	授業科目名	アメリカ文学特論IIA	2022年度第1期
担当者	里内 克巳	授業形態	演習	単位数
授業概要	この授業では、アメリカの作家Mark Twain(1835-1910)が書いた小説の中で最もよく知られた作品である_The Adventures of Tom Sawyer_を取り上げます。ペーパーバック版にして約260頁の分量がある作品ですが、翻訳の助けも適宜借りながら学期中に読み切ります。毎回の授業では、割り当てられた章の内容について受講者全員に質問しつつ確認を行なった後、細部の検討や解釈に関する意見交換へと移ります。トウエインの主要作品・生涯と時代背景についても随時説明していきます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語で書かれた小説を精読＝通読し、文体上の特徴、叙述の進め方、レトリック上の工夫などについて説明できる。</li> <li>●文学者トウエインの主要作品を実人生と関連づけながら説明できる。</li> <li>●読んだ英文の内容や、読むことを通して得た洞察や問題意識を、分かりやすくかつ効果的に伝え、共有することができる。</li> </ul>			
成績評価基準	平常点80点＋学期末レポート20点により評価します。 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したもので、基本的に減点法で評価を行います。学期末レポートについては、授業が半分まで進んだ6月に詳細を通知しますが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定です。			
留意事項	オフィスアワーは設けられていませんが、授業後に相談の時間をとったり、別の日時にオンライン面談をすることができます。質問・相談したいことがあれば、あらかじめ電子メールで知らせてください。 satouchi@lang.osaka-u.ac.jp			
教材	<p>（テキスト） Mark Twain, _The Adventures of Tom Sawyer_(University of California Press, ISBN: 978-0-520-26612-4)</p> <p>（参考書） マーク・トウエイン作、柴田元幸訳『トム・ソーヤーの冒険』（新潮文庫）</p>			
授業予定	第 1 回 インTRODクシヨン 第 2 回 The Adventures of Tom Sawyer① ch. 1-2 第 3 回 The Adventures of Tom Sawyer② ch. 3-4 第 4 回 The Adventures of Tom Sawyer③ ch. 5-6 第 5 回 The Adventures of Tom Sawyer④ ch. 7-8 第 6 回 The Adventures of Tom Sawyer⑤ ch. 9-10 第 7 回 The Adventures of Tom Sawyer⑥ ch. 11-13 第 8 回 The Adventures of Tom Sawyer⑦ ch. 14-16 第 9 回 The Adventures of Tom Sawyer⑧ ch. 17-19 第 10 回 The Adventures of Tom Sawyer⑨ ch. 20-22 第 11 回 The Adventures of Tom Sawyer⑩ ch. 23-25 第 12 回 The Adventures of Tom Sawyer⑪ ch. 26-28 第 13 回 The Adventures of Tom Sawyer⑫ ch. 29-31 第 14 回 The Adventures of Tom Sawyer⑬ ch. 32-34 第 15 回 振り返り（講義）			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2225	授業科目名	アメリカ文学特論IIB	期間
担当者	里内 克巳	授業形態	2) 演習	単位数
授業概要	この授業では、_The Adventures of Tom Sawyer_(1876)の続編であり、マーク・トウェインが書いた小説の中で代表作品と目されている_Adventures of Huckleberry Finn_(1885)を取り上げます。この学期だけですべてを読み切ることはできませんが、しばしば作品中でも最大の山場であるとみなされている第31章まで読むことを目指します。ペーパーバック版にして約210頁程度の分量になりますが、翻訳の助けも随時借りながら読み進めます。毎回の授業では、割り当てられた章の内容について受講者全員に質問しつつ確認を行なった後、細部の検討や解釈に関する意見交換へと移ります。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語で書かれた小説を精読＝通読し、文体上の特徴、叙述の進め方、レトリック上の工夫などについて説明できる。</li> <li>●南北戦争後の19世紀アメリカ文学史の概略や、そのなかでのトウェインの位置について説明できる。</li> <li>●読んだ英文の内容や、読むことを通して得た洞察や問題意識を、分かりやすくかつ効果的に他の人に伝え、共有することができる。</li> </ul>			
成績評価基準	平常点80点＋学期末レポート20点により評価します。 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したもので、基本的に減点法で評価を行います。学期末レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知しますが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定です。			
留意事項	オフィスアワーは設けられていませんが、授業後に相談の時間をとったり、別の日時にオンライン面談をすることができます。質問・相談したいことがあれば、あらかじめ電子メールで知らせてください。 satwain09@wombat.zaq.ne.jp			
教材	<p>(テキスト) Mark Twain _Adventures of Huckleberry Finn_(Penguin Classics) ISBN:978-0-14-3107323</p> <p>(参考書) マーク・トウェイン作、柴田元幸訳、『ハックルベリー・フィンの冒けん』（研究社、ISBN: 978432749201-4）</p>			
授業予定	第 1 回 インTRODクシヨン 第 2 回 Adventures of Huckleberry Finn① ch. 1-2 第 3 回 Adventures of Huckleberry Finn② ch. 3-4 第 4 回 Adventures of Huckleberry Finn③ ch. 5-6 第 5 回 Adventures of Huckleberry Finn④ ch. 7-8 第 6 回 Adventures of Huckleberry Finn⑤ ch. 9-10 第 7 回 Adventures of Huckleberry Finn⑥ ch. 11-12 第 8 回 Adventures of Huckleberry Finn⑦ ch. 13-14 第 9 回 Adventures of Huckleberry Finn⑧ ch. 15-17 第 10 回 Adventures of Huckleberry Finn⑨ ch. 18-20 第 11 回 Adventures of Huckleberry Finn⑩ ch. 21-23 第 12 回 Adventures of Huckleberry Finn⑪ ch. 24-26 第 13 回 Adventures of Huckleberry Finn⑫ ch. 27-29 第 14 回 Adventures of Huckleberry Finn⑬ ch. 30-31 第 15 回 振り返り			

文学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2230	授業科目名	アメリカ文学特論IIIA	2022年度第1期
担当者	David Ramsey	授業形態	講義	単位数
授業概要	This class provides an introduction to theories of race and ethnicity, with practical application of these theories to primary works. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.			
到達目標	The purpose of this course is to familiarize graduate students with the critical theories of race and ethnicity that they need to perform literary research and cultural studies at the graduate level. Students will be able to recognize, explain and apply important theoretical approaches.			
成績評価基準	Active class participation (30%); presentations (20%); final 15-page essay (50%).			
留意事項				
教材	Most materials will be provided; students may need to buy one paperback, as directed.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Race, Ethnicity, and Critical Theory</li> <li>2. Werner Sollors, "Foreword: Theories of Ethnicity" : Race and Ethnicity (1996 ; Theories of Ethnicity xxix-xxxv)</li> <li>3. Pierre Van den Berghe, "Does Race Matter?" (1995: Ethnicity 57-63)</li> <li>4. Analysis and summary of Sollors' and Van den Berghe' s texts</li> <li>5. Application of race/ethnicity theory to primary work (art)</li> <li>6. Fredrick Barth, "Ethnic Groups and Boundaries" (1969: Ethnicity 75-82)</li> <li>7. Joshua Fishman, "Race as Being, Doing, Knowing" (1980: Ethnicity 63-69)</li> <li>8. Analysis and summary of Barth' s and Fishman' s texts</li> <li>9. Application of race/ethnicity theory to primary work (film)</li> <li>10. Tonkin, McDonald and Chapman, "History and Ethnicity" (Ethnicity 18-24)</li> <li>11. Werner Sollors, Beyond Ethnicity (selections)</li> <li>12. Analysis and summary of Sollors' and Tonkin et al' s texts</li> <li>13. Application of race/ethnicity theory to primary work (literature)</li> <li>14. Review of theory and scholarship</li> <li>15. Final presentation, essay preparation</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2235	授業科目名	アメリカ文学特論IIIB	期間
担当者	David Ramsey	授業形態	講義	単位数
授業概要	This class provides an introduction to theories of African American racial and cultural identity. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.			
到達目標	The purpose of this course is to familiarize graduate students with theories of African American racial and cultural identity. These will help students perform literary research and cultural studies at the graduate level. Students will be able to recognize, explain and apply important theoretical approaches.			
成績評価基準	Active class participation (30%); presentations (20%); final 15-page essay (50%).			
留意事項				
教材	Most materials will be provided; students may need to buy one paperback, as directed.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; Winthrop D. Jordan, <i>White Over Black</i> (1968; 3-20)</li> <li>2. Winthrop D. Jordan, <i>White Over Black</i> (1968; 228-59)</li> <li>3. W. E. D. Du Bois, "Double Consciousness" (1897/1903)</li> <li>4. Charles W. Chesnutt, "The Future American" (1900; <i>Theories of Ethnicity</i> 17-33)</li> <li>5. Jean Toomer, "Race Problems and Modern Society" (1929; <i>Theories of Ethnicity</i> 172-185)</li> <li>6. Richard Wright, "Blueprint for Negro Writing" (1937)</li> <li>7. Review and application of theory</li> <li>8. From Jim Crow to Civil Rights: The Black Voice, The Black Aesthetic</li> <li>9. Barbara Christian, "The Race for Theory" (1986/1990; from <i>NCMD</i> 37-49)</li> <li>10. Henry Louis Gates, Jr., "Authority, (White) Power, and the (Black) Critic: It's All Greek to Me" (1986/1990; from <i>NCMD</i> 72-101)</li> <li>11. Henry Louis Gates, Jr. <i>The Signifying Monkey</i> (1988; 2014 ed. 9-16; 184-199)</li> <li>12. Cornel West, <i>Race Matters</i> (1993; 2017 ed.; 1-31)</li> <li>13. Aoi Mori, Toni Morrison and Womanist Discourse (1999; 1-20)</li> <li>14. Review of theory and scholarship</li> <li>15. Final presentation, essay preparation</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2250	授業科目名	アメリカ文学演習A	2022年度第1期
担当者	David Ramsey	授業形態	演習	単位数
授業概要	This advanced class investigates the life, times, and writing of the 20th-century African American poet, Gwendolyn Brooks. Brooks won the Pulitzer Prize for poetry in 1950, and we will situate her work within the historical context of the Jim Crow era and the following Civil Rights era, paying particular attention to the issues of race and gender.			
到達目標	Students will learn about one of the most celebrated African American poets of the 20th century. Students will also learn about the historical context of discrimination during the Jim Crow era and the struggle for equality during the Civil Rights era.			
成績評価基準	Active class participation (30%); presentations (20%); final 15-page essay (50%).			
留意事項				
教材	Gwendolyn Brooks, Blacks (This contains all of Brooks' primary texts that we will read.)			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: history, biography</li> <li>2. Brooks' s use and problematization of European poetic forms</li> <li>3. Brooks' use and problematization of European poetic conventions, tropes</li> <li>4. Racial issues in Brooks' poetry</li> <li>5. Gender issues in Brooks' poetry</li> <li>6. Poem 1: "Bronzeville Mother" / "Ballad Of Emmett Till"</li> <li>7. Historical background, scholarship on poem 1</li> <li>8. Poem 2: "Bronzeville Woman in Red Hat"</li> <li>9. Historical background, scholarship on poem 2</li> <li>10. Poem 3: "Chicago Defender"</li> <li>11. Historical background, scholarship on poem 3</li> <li>12. Poem 4: "Lovers of the Poor"</li> <li>13. Historical background, scholarship on poem 4</li> <li>14. Review of primary and secondary texts</li> <li>15. Final presentation, essay preparation</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	アメリカ文学
授業コード	M2255	授業科目名	アメリカ文学演習B	2022年度第2期
担当者	David Ramsey	授業形態	演習	単位数
授業概要	This advanced graduate course will investigate landmarks of African American literature of the 19th and 20th centuries.			
到達目標	In common cause with Native American literature, some of the most important voices in American literature today come from African Americans. This course offers a correction to the Euro-centric concept that “American literature” is largely the domain of white, usually male, writers. While the autobiography or novel, for example, are European constructs, they have been employed for non-hegemonist ends, such as in the fight against slavery and racial discrimination. We will begin with a brief overview of African American history, focusing on the slave trade. We will then proceed with the most celebrated voice against slavery in America, that of Frederick Douglass. We will proceed through the 19th and 20th centuries, and end with the Nobel laureate Toni Morrison and the BLM movement.			
成績評価基準	Active class participation (30%); presentations (20%); final 15-page essay (50%).			
留意事項				
教材	Some materials will be provided, but students will need to borrow or buy their own copies of the texts indicated below.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to African American history and culture</li> <li>2. African roots, European roots, hybridity in American literature</li> <li>3. Traditional chants and songs, Gospel, oratory</li> <li>4. Racial identity and miscegenation</li> <li>5. Douglass, The Autobiography of Frederick Douglass</li> <li>6. Douglass reception, scholarship</li> <li>7. DuBois, The Soul of Black Folk</li> <li>8. DuBois reception, scholarship</li> <li>9. Larsen, Passing</li> <li>10. Larsen reception, scholarship</li> <li>11. Ellison, Invisible Man</li> <li>12. Ellison reception, scholarship</li> <li>13. Morrison, The Song of Solomon</li> <li>14. Morrison reception, scholarship</li> <li>15. BLM voices, reception and backlash</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2310	授業科目名	英語学言語学特論IA	期間
担当者	木津 弥佳	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	本授業では、中間言語語用論（Interlanguage Pragmatics）や異文化間語用論（Cross-cultural Pragmatics）と呼ばれる分野の基礎を学び、外国語指導における語用論の研究・理論と実践について考察する。			
到達目標	到達目標 1：語用論の基礎的な概念と理論を理解する。 到達目標 2：外国語教育における語用論的指導についての知識を深める。 到達目標 3：関連する文献を正しく理解し、発表・論文作成ができる英語力を身につける。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。			
教材	Ishihara, Noriko and Andrew D. Cohen (2010) Teaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet. Routledge. 石原紀子（編著）2015『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』研究社 * その他の参考文献・資料は授業中に提示・配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語用論の基礎概念：語用論的能力と発話行為</li> <li>2. 語用論の基礎概念：ポライトネス</li> <li>3. 語用論の基礎概念：異文化理解と語用論</li> <li>4. 教員の語用論</li> <li>5. 語用論的言語データの収集</li> <li>6. 語用論的ことばの使い方</li> <li>7. 学習者の語用論</li> <li>8. 第二言語習得理論と語用論的指導</li> <li>9. 語用論的指導の授業見学と指導例</li> <li>10. 語用論的指導に向けた教材の改訂</li> <li>11. 語用論的指導のためのカリキュラム編成</li> <li>12. 学習者の自律と語用論的学び</li> <li>13. 語用論的能力の評価</li> <li>14. 語用論的能力の評価の実践</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2315	授業科目名	英語学言語学特論IB	期間
担当者	木津 弥佳	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	本授業では、第二言語語用論(Second Language Pragmatics)の理論と実践について考察する。前半ではこの分野の基礎的な知識を導入し、後半は様々な種類の研究調査とデータ収集方法について学び、調査研究の実施と研究論文を執筆するための基礎を固める。			
到達目標	到達目標 1：第二言語語用論の理論を正しく理解する。 到達目標 2：当該分野の研究手法やデータ収集方法を研究課題に応じて選ぶことができる。 到達目標 3：関連する文献の内容を深く理解し、発表・論文作成ができる高い英語力を身につける。			
成績評価基準	授業時の議論への参加(20%)、発表(30%)、研究論文(50%)により総合的に評価する。			
留意事項	履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。			
教材	Culpeper, J., A. Mackey and N. Taguchi (2018) Second Language Pragmatics: From Theory to Research. Routledge. 門田修平 (2010) 『SLA 研究入門：第二言語の処理・習得研究のすすめ方』 くろしお出版 * その他の参考文献・資料は授業中に提示・配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. What is Second Language Pragmatics? (第二言語語用論とは?)</li> <li>2. A Brief Historical Overview and Possible Research Questions (これまでの研究の概要と今後の研究の問題点)</li> <li>3. Language Production: Conceptual Background [Speech Act Theory] (言語産出に関する概念的背景 [発話行為理論])</li> <li>4. Language Production: Conceptual Background [Politeness and Social Variable] (言語産出に関する概念的背景 [ポライトネスと社会的言語変異])</li> <li>5. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Production: Ethical Issues (第二言語語用論の言語産出におけるデータ導出法：倫理的問題)</li> <li>6. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Production: Data Collection (第二言語語用論の言語産出におけるデータ導出法：データ収集)</li> <li>7. Language Comprehension and Awareness: Inferencing and Relevance Theory (言語理解と言語意識：推論と関係性理論)</li> <li>8. Language Comprehension and Awareness: Politeness and Metapragmatics (言語理解と言語意識：ポライトネスとメタ語用論)</li> <li>9. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Comprehension: Written Tests (第二言語語用論の理解度を測るデータ導出法：筆記テスト)</li> <li>10. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Comprehension: Metapragmatics (第二言語語用論の理解度を測るデータ導出法：メタ語用論)</li> <li>11. Interaction and Context (インタラクションとコンテキスト)</li> <li>12. Interaction and Activities (インタラクションとアクティビティ)</li> <li>13. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Interaction: Structured Data (第二言語語用論のインタラクションに関するデータ導出法：構造的データ)</li> <li>14. Data Elicitation Methods in L2 Pragmatic Interaction: Conversation Analysis (第二言語語用論のインタラクションに関するデータ導出法：会話分析)</li> <li>15. Summary (まとめ)</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2320	授業科目名	英語学言語学特論IIA	期間
担当者	坂口 真理	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、副詞類について、書かれた英語の文献を読むことによって、分析の基礎となる統語理論と意味理論を学ぶ。英語の副詞の機能的・意味的分析を扱った Greenbaum の古典的文献を批判的に読んでいく。また、日英語比較対象の視点から、彼の副詞の分類が日本語の副詞にも適用できるか考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。</li> <li>2. 英語の副詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。</li> </ol>			
成績評価基準	授業中の発表（30%）とレポート課題（70%）によって評価する。			
留意事項	履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。			
教材	授業で読む文献は、教員が用意する。 Greenbaum, Sidney (1969) Studies in English Adverbial Usage, Longman: London.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の範囲と方法</li> <li>2. 副詞の分類 (conjuncts, disjuncts, and adjuncts) とその基準</li> <li>3. Conjuncts の意味的分類と統語的特徴</li> <li>4. Enumerative conjuncts</li> <li>5. Additive conjuncts (again, also, then, etc.)</li> <li>6. Transitional conjuncts (incidentally, now, etc.)</li> <li>7. Contrastive conjuncts</li> <li>8. Concessive conjuncts (only, else, yet, nevertheless, still, however, etc.)</li> <li>9. Illative conjuncts (so, hence, therefore, etc.)</li> <li>10. Inferential conjuncts (then, else, otherwise)</li> <li>11. Style disjuncts (honestly, frankly/ personally, generally) の統語的特徴</li> <li>12. Attitudinal disjuncts の分類と特徴</li> <li>13. (not) unexpectedly, ideally, predictably, preferably, maybe, likely</li> <li>14. Attitudinal disjuncts と adjuncts との違い</li> <li>15. 日本語との比較対照とまとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2325	授業科目名	英語学言語学特論IIB	期間
担当者	坂口 真理	授業形態	講義	単位数
授業概要	1 期で取り上げた Greenbaum の副詞の文法機能について文献をさらに読み進めていく。彼の分析が各受講者の研究とどのような関わりを持つかについて、議論を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。</li> <li>2. 英語の副詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。</li> <li>3. 研究の対象となる資料を収集し、文献で学んだ理論を使って意味的分析ができるようになる。</li> </ol>			
成績評価基準	授業中の発表（30%）とレポート課題（70%）によって評価する。			
留意事項	履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。			
教材	授業で読む文献は、教員が用意する。 Greenbaum, Sidney (1969) Studies in English Adverbial Usage, Longman: London.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1 期の課題レポートについての受講者による中間発表</li> <li>2. Temporal disjuncts (rarely, usually, conventionally, traditionally, preferably)</li> <li>3. Temporal disjuncts (usually and often)</li> <li>4. Attitudinal disjuncts の位置、区切り方、音調</li> <li>5. Attitudinal disjuncts が関わる構造</li> <li>6. Attitudinal disjuncts の意味分類</li> <li>7. Attitudinal disjuncts と他の文の要素</li> <li>8. 副詞の分類と変形 1) adjuncts, disjuncts, conjuncts</li> <li>9. 副詞の分類と変形 2) 否定文で用いられるか</li> <li>10. 副詞の分類と変形 3) 焦点となりうるか</li> <li>11. 副詞の分類と変形 4) 疑問文の焦点となりうるか</li> <li>12. 日本語の副詞との比較対照 1) 文副詞との比較</li> <li>13. 日本語の副詞との比較対照 2) 様態副詞との比較</li> <li>14. 日本語の副詞との比較対照 3) 法副詞との比較</li> <li>15. Greenbaum の分析の利点と問題点</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2330	授業科目名	英語学言語学特論IIIA	期間
担当者	齋藤 衛	授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>現在追及されている極小主義統語論の背景と概要を学ぶ。1970年代以降の統語論の発展を極小主義統語論に至る過程として捉え直す。また、1990年代からの極小主義理論の展開により明らかにされた新たな研究課題についても理解を深める。前半では、句構造、名詞句の分布、そして移動に関する諸原理に説明を与えるラベル付け理論を中心に議論を進め、後半では、一致や移動の局所性に説明を与えるフェイズ理論をとりあげる。随時、現在の研究課題に対して、日本語研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 極小主義統語論研究の課題とその背景を的確に理解している。</li> <li>2. その課題に対して貢献する独創的な研究が遂行できる。</li> </ol>			
成績評価基準	<p>授業での議論への貢献（30%） 論文（70%）</p>			
留意事項				
教材	<p>プリントを配布する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生成文法：科学としての言語学</li> <li>2. 言語の構造、X' 理論</li> <li>3. 非対格仮説、VP内主語仮説</li> <li>4. 名詞句の分布と格理論</li> <li>5. 最終手段の原理からラベル付け理論へ</li> <li>6. phi 素性一致を欠く言語におけるラベル付け</li> <li>7. 日英語の類型的特徴の説明（I）：自由語順と多重主語</li> <li>8. 日英語の類型的特徴の説明（II）：語彙的複合動詞と名詞修飾節</li> <li>9. 弱主要部としての文法格、theta 規準再考</li> <li>10. 移動と照応形束縛の局所性</li> <li>11. フェイズ理論に基づく説明</li> <li>12. 局所性に見られる言語間変異</li> <li>13. 一致の有無に言及するフェイズの定義</li> <li>14. 制御の移動分析</li> <li>15. 適正束縛効果などに見られる言語間変異</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2335	授業科目名	英語学言語学特論IIIB	期間
担当者	齋藤 衛	授業形態	講義	単位数
授業概要	ヨーロッパを中心に盛んに追及され、大きな成果をあげているカートグラフィー研究をとり上げる。Luigi Rizzi氏、Guglielmo Cinque氏などによる先行研究を概観した上で、日本語を中心とした比較統語論研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。モーダル、補文標識、Wh句の解釈、談話小辞などに焦点をあてて、議論を進める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カートグラフィー研究の課題とその背景を的確に理解している。</li> <li>2. その課題に対して貢献する独創的な研究が遂行できる。</li> </ol>			
成績評価基準	授業での議論への貢献（30%） 論文（70%）			
留意事項				
教材	遠藤善雄、前田雅子著『カートグラフィー』開拓社、2020。ISBN978-4-7589-1405-5.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文周縁部のカートグラフィー</li> <li>2. 副詞句のカートグラフィー</li> <li>3. 補文標識の階層性（I）</li> <li>4. 補文標識の階層性（II）</li> <li>5. 主題の位置</li> <li>6. モーダルの階層性</li> <li>7. 談話小辞の階層性</li> <li>8. 選択制限と意味解釈から描くカートグラフィー</li> <li>9. 補文の意味解釈における「発話」</li> <li>10. 補文の意味解釈における「事象」</li> <li>11. 英語における補文の意味解釈に関する諸問題</li> <li>12. Wh疑問文に見られる言語間変異（I）</li> <li>13. Wh疑問文に見られる言語間変異（I）</li> <li>14. 焦点としてのWh句</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2340	授業科目名	英語学言語学演習A	期間
担当者	坂口 真理	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、英語の副詞類の統語的、意味論的分析に必要な理論を学ぶ。 Jackendoff (1972) と McCawley (1988, 1998) の生成文法の分析を土台に主語指向性について書かれた Wyner (1998) 等を読む。			
到達目標	1. 英語の副詞に関する文献を読み、内容を理解し、意見を述べることができる。 2. 修士論文作成のもととなる資料を収集し、内容を分析し、英文でまとめることができる。			
成績評価基準	授業中の発表（30%）とレポート課題（70%）によって評価する。			
留意事項	履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 英語の言語学の文献を批判的に読めるように、十分予習をすること。			
教材	授業で読む文献は教員が準備する。 ① Jackendoff (1972) Semantic Interpretation in Generative Grammar(第3章) ② McCawley (1988) The Syntactic Phenomena of English Vol.12 (19. Adverbs) ③ Bellert (1977) "On Semantic and Distributional Properties of Sentential Adverbs" ④ Wyner (1998) "Subject-oriented Adverbs are Thematically Dependent"			
授業予定	1. ①を読み進める。 2. 投射規則 3. 主語指向性、受身、サイクル 4. 副詞と助動詞倒置変形 5. 文中に複数ある副詞の語順 6. 前置詞と挿入句への一般化 7. まとめ 8. ②の精読 9. 助動詞の位置と副詞の位置との関係 10. 副詞の統語上の問題点 1) 副詞の位置と意味 11. 副詞の統語上の問題点 2) 副詞と数量詞の意味解釈 12. ①と②の共通点と相違点 13. ③の精読 14. 文副詞の意味と分布についての発表 15. 受講者の発表とまとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2345	授業科目名	英語学言語学演習B	期間
担当者	坂口 真理	授業形態	演習	単位数
授業概要	1 期に引き続き、英語の副詞類の統語的・意味論的分析に必要な理論を学ぶ。 1 期で学んだ統語理論や意味理論をもとに、受講者が収集した資料の分析を進めていく。自分がまとめた考察を発表する機会も設ける。			
到達目標	1. 英語の副詞に関する文献を読み、内容を理解し、意見を述べることができる。 2. 修士論文作成のもととなる資料を収集し、内容を分析し英文でまとめることができる。			
成績評価基準	授業中の発表（30%）とレポート課題（70%）によって評価する。			
留意事項	履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 英語の言語学の文献を批判的に読めるように、十分予習をすること。			
教材	授業で読む文献は教員が準備する。 ① Jackendoff (1972) Semantic Interpretation in Generative Grammar (第3章) ② McCawley (1988) The Syntactic Phenomena of English Vol.12 (19. Adverbs) ③ Bellert (1977) "On Semantic and Distributional Properties of Sentential Adverbs" ④ Wyner (1998) "Subject-oriented Adverbs are Thematically Dependent"			
授業予定	1. 1 期の課題レポートについて受講者が口頭で発表 2. ④の精読と並行して、英語で論文を書いていく。 3. reluctantly のような副詞 (TDAs) に関する先行研究 4. 統語構造の条件 5. 主題役割の条件 6. 表層の主語の主題役割の性質 7. 副詞に関する Event Semantics による分析 8. 主題役割に依存する副詞についての理論 9. ①～④の精読から得られたことを議論し、論文の完成にむけて、論点を整理していく。 10. 副詞の表層の位置 11. 副詞の意味解釈 12. 文副詞の分布 13. 文副詞と主語指向副詞の相違 14. 今期の論文についての受講者による中間発表 15. まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2350	授業科目名	英語学言語学演習A	期間
担当者	齋藤 衛	授業形態	演習	単位数
授業概要	統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、句構造、文法格の認可、多様な複合動詞の形成、省略現象を予定している。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端的な研究論文を正確に理解できる。</li> <li>2. 優れた論文を参考にしつつ、論文執筆の力を身につける。</li> </ol>			
成績評価基準	発表（50%） 論文（50%）			
留意事項				
教材	授業時に指定する。			
授業予定	<統語構造と文法格> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文法格の理論</li> <li>2. 複合動詞文の構造</li> <li>3. 複合動詞文における文法格</li> <li>4. 例外的格付与文</li> <li>5. 格と一致の関係</li> </ol> <統語構造と語形成> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 統語的複合動詞と語彙的複合動詞</li> <li>7. 語彙的複合動詞の統語的派生</li> </ol> <省略現象> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 省略現象の概観</li> <li>9. PF削除分析とLFコピー分析</li> <li>10. N'省略</li> <li>11. VP省略とスルーシング</li> <li>12. 項省略</li> <li>13. 省略現象における言語間変異</li> <li>14. VP省略とスルーシング再考</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2355	授業科目名	英語学言語学演習B	期間
担当者	齋藤 衛	授業形態	演習	単位数
授業概要	統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、制御、空演算子、適正束縛現象、Wh句の不定名詞句分析、Wh句の演算子分析を予定している。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端的な研究論文を正確に理解できる。</li> <li>2. 優れた論文を参考にしつつ、論文執筆の力を身につける。</li> </ol>			
成績評価基準	発表（50%） 論文（50%）			
留意事項				
教材	授業時に指定する。			
授業予定	<制御と空演算子> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PRO分析の問題点</li> <li>2. 制御の移動分析</li> <li>3. 空演算子の移動分析</li> <li>4. 制御の局所性</li> <li>5. コピー形成分析</li> </ol> <適正束縛現象> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 演算子移動とNP移動の非対称性</li> <li>7. 連鎖の解釈メカニズム</li> <li>8. 言語間変異と言語内変異</li> <li>9. コピー形成分析の可能性</li> </ol> <Wh句の解釈> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. Wh句の移動分析</li> <li>11. 変項としての不定名詞句</li> <li>12. Wh句の不定名詞句分析</li> <li>13. 演算子としてのWh句</li> <li>14. 焦点としてのWh句</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2360	授業科目名	英語学言語学演習A	期間
担当者	木津 弥佳	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ修士論文の課題に取り組むために必要な研究方法や分析の仕方、発表・論文のまとめ方を学ぶ。扱うテーマとしては、第二言語としての英語または日本語の習得について、第二言語習得理論を基にした研究課題を選び、関連する先行研究を洗い出し、文献を批判的・客観的に読み、深く理解するような訓練を行う。			
到達目標	到達目標1：第二言語習得研究の課題設定を適切に行うことができる。 到達目標2：必要な方法論を理解し、研究調査を実践することができる。 到達目標3：英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加(20%)、発表(30%)、研究論文(50%)により総合的に評価する。			
留意事項	履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。			
教材	Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文について・研究課題（仮）の設定</li> <li>2. 先行研究：文献の収集</li> <li>3. 先行研究：クリティカルに読む</li> <li>4. 先行研究：今後の課題</li> <li>5. 研究課題の設定</li> <li>6. 研究の方法</li> <li>7. 調査・分析の方法</li> <li>8. 研究調査の実施に向けて：計画を立てる</li> <li>9. 研究調査の実施に向けて：パイロットスタディ</li> <li>10. 調査結果の収集</li> <li>11. 調査結果のまとめ</li> <li>12. 先行研究と本研究の分析</li> <li>13. 先行研究と本研究の残された問題</li> <li>14. 論文の構成</li> <li>15. 論文の作成に向けて</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2365	授業科目名	英語学言語学演習B	期間
担当者	木津 弥佳	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。			
到達目標	到達目標 1：研究調査結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標 2：分析結果を客観的に判断し、建設的に批判することができる。 到達目標 3：深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表・論文作成ができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	原則として、1期の英語学言語学演習（木津担当）を履修しておくこと。			
教材	Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでのまとめと論文内容の検討</li> <li>2. 研究課題・方法・調査のまとめ</li> <li>3. 英語論文の書き方：構文と文体</li> <li>4. 研究結果の分析：量的分析</li> <li>5. 研究結果の分析：質的分析</li> <li>6. 研究課題の確認</li> <li>7. 英語論文の書き方：引用と主張点</li> <li>8. 分析結果に関する議論：量的観点から</li> <li>9. 分析結果に関する議論：質的観点から</li> <li>10. 英語論文の書き方：論理的議論</li> <li>11. 序論</li> <li>12. 結論</li> <li>13. 論文全体の見直し</li> <li>14. 英文要旨の書き方</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2410	授業科目名	国際コミュニケーション特論IA	期間
担当者	小野 真由美	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業は、国境を越える人の移動の加速化によって生じる、国民国家、民族、文化の関係の再編成について、検討する。具体的には、文化人類学および社会学における国際移動に関する議論について、シチズンシップ、トランスナショナリズム、モビリティに焦点をあてて、その理論的展開を把握する。			
到達目標	国際移動に関する文化人類学および社会学における議論を把握し、議論する。			
成績評価基準	授業での発表（50%）、タームペーパー（50%）			
留意事項	特になし。			
教材	Ong, Aihwa. (2006) Flexible Citizenship. Stanford University Press. Vertovec, Steven. (2009) Transnationalism. Routledge. Urry, John (ed.). (2007) Mobilities. Polity Press. Elliot, Anthony. (2010) Mobile Lives. Routledge.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 移動の人類学</li> <li>3. Flexible Citizenship: Introduction</li> <li>4. Flexible Citizenship: Chapter 1</li> <li>5. Flexible Citizenship: Chapter 4</li> <li>6. Transnationalism: Chapter 1</li> <li>7. Transnationalism: Chapter 2</li> <li>8. Transnationalism: Chapter 3</li> <li>9. Mobilities: Chapter 1</li> <li>10. Mobilities: Chapter 2</li> <li>11. Mobilities: Chapter 3</li> <li>12. Mobile Lives: Chapter 1</li> <li>13. Mobile Lives: Chapter 4</li> <li>14. Mobile Lives: Chapter 5</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2415	授業科目名	国際コミュニケーション特論IB	期間
担当者	小野 真由美	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業は、国境を越える人の移動の加速化によって生じる、国民国家、民族、文化の関係の再編成について、検討する。具体的には、文化人類学および社会学における国際移動に関する議論について、シチズンシップ、トランスナショナリズム、モビリティの理論的展開をふまえ、東アジアにおける国際移動、および、移住と観光に関する研究動向について把握する。			
到達目標	国際移動に関する文化人類学および社会学における議論を把握し、議論する。			
成績評価基準	授業での発表（50%）、タームペーパー（50%）			
留意事項	特になし。			
教材	David W. Haines, Keiko Yamanaka, and Shinji Yamashita (eds.). (2012) Wind Over Water: Migration in an East Asian Context. Barghahn Books. Janoschka, Michael and Heiko Haas (eds.) Contested Spatialities, Lifestyle Migration and Residential Tourism. Routledge.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 移住・観光の人類学</li> <li>3. Wind over Water : Introduction</li> <li>4. Wind over Water : Chapter 6</li> <li>5. Wind over Water : Chapter 8</li> <li>6. Wind over Water : Chapter 10</li> <li>7. Wind over Water : Chapter 11</li> <li>8. Wind over Water : Chapter 15</li> <li>9. Contested Spacialities : Introduction</li> <li>10. Contested Spacialities : Chapter 2</li> <li>11. Contested Spacialities : Chapter 3</li> <li>12. Contested Spacialities : Chapter 6</li> <li>13. Contested Spacialities : Chapter 10</li> <li>14. Contested Spacialities : Chapter 12</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2420	授業科目名	国際コミュニケーション特論 IIA	2022年度第1期
担当者	桑山 敬己	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では海外（特に英語圏）における日本の表象について考える。今年度のテーマは「西洋的個人主義 vs. 日本的集団主義」である。このテーマは、19世紀末から20世紀後半までの約一世紀にわたって、英語圏の日本研究でもっとも広く論じられたものの一つである。その源流はPercival Lowell, The Soul of the Far East (1888)にある、という見立てのもとにまずLowellを読み、次に同書に感銘を受けて来日したとされるLafcadio Hearnの作品からJapan: An Interpretation (1904)を読む。続いて日本人論の名作Ruth Benedict, The Chrysanthemum and the Sword (1946)を取り上げ、さらに国内外で日本文化論が盛んであった1960年代・70年代の代表的著作を概観する。本授業は全体的に個人と家族の関係に焦点を当てる。			
到達目標	本授業の第一の目的は、海外（特に英語圏）で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることである。第二の目的は、授業概要に掲げた作品の名訳を参照しながら原文を読むことによって、やや古い文体だが華麗な英語を読む力を向上させることである。			
成績評価基準	期末レポート（70%）と授業中の議論への貢献度（30%）。			
留意事項	授業概要に掲げたLowellとHearnの原著はInternet Archiveというサイトから無料でPDFを入手できる。授業では初版を使う。Benedictはどの本屋でも入手可能。日本語訳は各々以下の通り。ローエル『極東の魂』（川西瑛子訳）、ハーン『神国日本：解明への一試論』（柏倉俊三訳）ほか、ベネディクト『菊と刀』（長谷川松治訳）ほか。			
教材	BENEDICT, Ruth, The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture (1946) HEARN, Lafcadio, Japan: An Interpretation (1904) LOWELL, Percival, The Soul of the Far East (1888) 桑山敬己（編）『日本はどのように語られたか：海外の文化人類学的・民俗学的日本研究』（2016年） 桑山敬己「日本の自画像の系譜：欧米の個人主義 vs. 日本の集団主義」（2016年）CEL (Culture, Energy, & Life) 第114号掲載（ダウンロード可） 注）その他に必要なものは授業中に適宜指示する			
授業予定	第1回 日本研究の内と外（桑山編の序章） 第2回 日本の自画像の系譜（1）：明治・大正・昭和（前期） 第3回 日本の自画像の系譜（2）：昭和（中期） 第4回 Lowell, "Individuality" (Chapter 1) 第5回 Lowell, "Family" (Chapter 2), "Adoption" (Chapter 3) 第6回 Lowell, "Language" (Chapter 4) 第7回 Hearn, "Ancient Cult" (Chapter 3), "The Religion of the Home" (Chapter 4) 第8回 Hearn, "The Japanese Family" (Chapter 5) 第9回 Hearn, "The Communal Cult" (Chapter 6) 第10回 Benedict, "Assignment" (Chapter 1) 第11回 Benedict, "Debtor to the Ages and the World" (Chapter 5) 第12回 Benedict, "Repaying One-Ten-Thousandth" (Chapter 6) 第13回 内外の代表的日本文化論（1）：1960年代・1970年代 第14回 内外の代表的日本文化論（2）：1980年代以降 第15回 まとめ・総合討論			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2425	授業科目名	国際コミュニケーション特論 IIB	期間
担当者	Thomas Fast	授業形態	講義	単位数
授業概要	This course will develop students' understanding of global issues and global citizenship education.			
到達目標	The aim of this course is to provide students with an awareness of problems in the world today and for them to become part of the solution as global citizens.			
成績評価基準	Assessment will include presentations and written work, as well as ongoing assessment of in-class participation.			
留意事項	This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.			
教材	To be decided in line with the students' needs			
授業予定	Second semester will be tailored more to students' individual interests and academic needs to complement their major fields of study, e.g. students planning to become teachers might learn how to teach global citizenship in their lessons.			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	英語学言語学
授業コード	M2430	授業科目名	国際コミュニケーション特論 IIIA	期間
担当者	Thomas Fast	授業形態	講義	単位数
授業概要	This course will develop students' understanding of global issues and global citizenship education.			
到達目標	The aim of this course is to provide students with an awareness of problems in the world today and for them to become part of the solution as global citizens.			
成績評価基準	Assessment will include presentations and written work, as well as ongoing assessment of in-class participation.			
留意事項	This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.			
教材	To be decided in line with the students' needs			
授業予定	Second semester will be tailored more to students' individual interests and academic needs to complement their major fields of study, e.g. students planning to become teachers might learn how to teach global citizenship in their lessons.			

文学研究科 (修士課程)	専攻名(コース名)	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2435	授業科目名	国際コミュニケーション特論 IIIB	期間
担当者	Robert Waring	授業形態	講義	単位数
授業概要	This course will help the student understand the topics of multiculturalism and diversity and the role of culture in modern society and their link to intercultural communication.			
到達目標	By the end of the course the students should be able to: 1. apply and communicate understanding of the importance of diversity and difference in shaping life experiences; 2. demonstrate an understand dynamics of power, privilege, and oppression, and identify practices that advance social, economic, and environmental justice; 3. demonstrate an understanding of how global forces shape the context for contemporary social work practice and identify skills and perspectives to enhance effective practice in cross-cultural and cross-national social work practice.			
成績評価基準	The students will be evaluated on their performance in class and project homework (40%) by reports (30%) and exams (30%).			
留意事項	The class is only in English			
教材	Worksheets or handouts. No set text.			
授業予定	Week 1 : Review of Semester 1 Week 2 : Collectivism vs individualism I - basic concepts Week 3 : Collectivism vs individualism II - historical perspectives Week 4 : Collectivism vs individualism III - current perspectives Week 5 : Project 1: Collectivism vs individualism - planning Week 6 : Project 1: Collectivism vs individualism - development Week 7 : Presentations Week 8 : Review Week 9 : Mid-term Week 10: Cultural awareness, development, integration and assimilation I - basic concepts Week 11: Cultural awareness, development, integration and assimilation II - review Week 12: Cultural awareness, development, integration and assimilation III - theoretical perspectives Week 13: Project 2: Cultural awareness, development, integration and assimilation - planning Week 14: Project 2: Cultural awareness, development, integration and assimilation - development Week 15: Presentations and Review Week 16: Final exam			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2450	授業科目名	国際コミュニケーション演習A	期間
担当者	小野 真由美	授業形態		単位数
授業概要	この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、文化人類学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。質的調査方法および文化人類学のフィールドワーク論を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。			
到達目標	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得する。			
成績評価基準	授業での発表（20%）、タームペーパー（80%）			
留意事項	特になし。			
教材	Robert M. Emerson, Rachel I. Fretz, & Linda L. Shaw. (1995) Writing ethnographic fieldnotes, The University of Chicago Press. 日本文化人類学会（監修）／鏡味治司・関根康正・橋本和也・森山工（編）『フィールドワーカーズ・ハンドブック』（2011年、世界思想社） 藤田結子・北村文（編）『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践』（2013年、新曜社）			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィールドワークと質的調査</li> <li>2. 人類学のフィールドワーク</li> <li>3. 参与観察</li> <li>4. フィールドノートの技法</li> <li>5. 写真観察法</li> <li>6. 民族誌的インタビューの技法</li> <li>7. メディアの活用</li> <li>8. 研究・調査をめぐる倫理的問題</li> <li>9. 研究計画の立案</li> <li>10. 調査地の選定</li> <li>11. 調査対象の選別とアプローチ</li> <li>12. 依頼状・コンセントフォームの作成</li> <li>13. 予備調査の立案・実施</li> <li>14. 研究計画の完成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	国際コミュニケーション
授業コード	M2455	授業科目名	国際コミュニケーション演習B	期間
担当者	小野 真由美	授業形態	演習	単位数
授業概要	この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、文化人類学の手法を用いて研究を遂行するために不可欠となるエスノグラフィー（民族誌）の記述について把握する。調査で収集したデータを分析し、考察・ディスカッションを行う。			
到達目標	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得する。			
成績評価基準	授業での発表（20%）、タームペーパー（80%）			
留意事項	特になし。			
教材	Robert M. Emerson, Rachel I. Fretz, & Linda L. Shaw. (1995) Writing ethnographic fieldnotes, The University of Chicago Press. 日本文化人類学会（監修）／鏡味治司・関根康正・橋本和也・森山工（編）『フィールドワーカーズ・ハンドブック』（2011年、世界思想社） 藤田結子・北村文（編）『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践』（2013年、新曜社）			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エスノグラフィとデータ分析</li> <li>2. 『文化を書く』-エスノグラフィー批判</li> <li>3. 自己再帰性</li> <li>4. ポジショナリティ</li> <li>5. 表象の政治</li> <li>6. フェミニスト・エスノグラフィー</li> <li>7. ネイティブ・エスノグラフィーと当事者研究</li> <li>8. マルチサイトッド・エスノグラフィー</li> <li>9. 民族誌的データの記述と分析：事例 1</li> <li>10. 民族誌的データの記述と分析：事例 2</li> <li>11. 民族誌的データの記述と分析：事例 3</li> <li>12. 考察・ディスカッション 1：先行研究の検討</li> <li>13. 考察・ディスカッション 2：方法論の妥当性</li> <li>14. 考察・ディスカッション 3：民族誌の記述と分析の事例の再検討</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）		専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2520	授業科目名	キリスト教思想特論IA	期間	2022年度第1期
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	<p>日本におけるキリスト教の研究には、欧米のキリスト教史や、社会史・文化史・女性史との密接な学際的視点が必要である。しかし特に、これまで、本格的なアメリカ研究に基礎付けられた日本キリスト教史の研究がなされたとは言い難い。そこで、本講義では、日本におけるキリスト教研究を、アメリカ女性宣教師研究の文脈上に位置付けた研究を行って行きたい。</p> <p>到達目標 フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、その相関性について説明し論じることができる。</p>				
到達目標	<p>フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、その相関性について説明し論じることができる。</p>				
成績評価基準	<p>1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%</p>				
留意事項	<p>人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。</p>				
教材	<p>参考文献や資料はその都度紹介・配付する。</p>				
授業予定	<p>1～5. 日本キリスト教史について 6～10. 欧米キリスト教史について 11～14. 欧米社会史について 15. 総括</p>				

文学研究科（修士課程）		専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2525	授業科目名	キリスト教思想特論IB	期間	2022年度第2期
担当者	高木 孝子	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	日本におけるキリスト教の研究には、欧米のキリスト教史や、社会史・文化史・女性史との密接な学際的視点が必要である。しかし特に、これまで、本格的なアメリカ研究に基礎付けられた日本キリスト教史の研究がなされたとは言い難い。そこで、本講義では、日本におけるキリスト教研究を、アメリカ女性宣教師研究の文脈上に位置付けた研究を行って行きたい。				
到達目標	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究し、その相関性について説明し論じることができる。				
成績評価基準	1. 授業態度 20% 2. 課題達成度 20% 3. 学期末のレポート 60%				
留意事項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。				
教材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。				
授業予定	1～5. 欧米文化史について 6～9. 欧米女性史について 10～14. アメリカ女性宣教師研究について 15. 総括				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2530	授業科目名	キリスト教思想特論IIA	2022年度第1期
担当者	袴田 渉	授業形態	講義	単位数
授業概要	英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。1期では、旧約・新約聖書の内容をテキストと共に学び、イギリスとアメリカ双方の歴史と文化に多大な影響を及ぼしたキリスト教について理解を深める。			
到達目標	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。			
成績評価基準	授業への参加態度（30%）、リアクションペーパー（20%）、期末レポート（50%）			
留意事項	本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。			
教材	毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション キリスト教と英米文学</li> <li>2. キリスト教の聖書について</li> <li>3. 旧約聖書 (1) 天地創造</li> <li>4. 旧約聖書 (2) 二つの創造</li> <li>5. 旧約聖書 (3) アブラハムの物語</li> <li>6. 旧約聖書 (4) イスラエルの誕生</li> <li>7. 旧約聖書 (5) モーセと出エジプト</li> <li>8. 旧約聖書 (6) 十戒</li> <li>9. 新約聖書 (1) 旧約から新約へ</li> <li>10. 新約聖書 (2) 新約聖書の全体像</li> <li>11. 新約聖書 (3) イエスの物語</li> <li>12. 新約聖書 (4) 主の祈り</li> <li>13. 新約聖書 (5) 教会の誕生</li> <li>14. 新約聖書 (6) 黙示録</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2535	授業科目名	キリスト教思想特論IIB	2022年度第2期
担当者	袴田 渉	授業形態	講義	単位数
授業概要	英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。2期では、キリスト教の歴史的展開を概観しつつ、それがイギリスとアメリカにもたらした文化を、映像資料等を用いて学ぶことで、キリスト教の多面的な理解を目指す。			
到達目標	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。			
成績評価基準	授業への参加態度（30%）、リアクションペーパー（20%）、期末レポート（50%）			
留意事項	本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。			
教材	毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 1期の振り返り</li> <li>2. ローマ帝国とキリスト教</li> <li>3. 教義の成立（1） 三位一体論</li> <li>4. 教義の成立（2） キリスト論</li> <li>5. 修道制の成立（1） 独住修道生活</li> <li>6. 修道制の成立（2） 共住修道生活西方の修道制</li> <li>7. 修道制の成立（3） 西方の修道制</li> <li>8. 教会の東西分裂</li> <li>9. キリスト教の文化（1） クリスマス</li> <li>10. ローマ・カトリック教会</li> <li>11. 宗教改革</li> <li>12. 英国の宗教改革</li> <li>13. キリスト教の文化（2） 聖人崇敬</li> <li>14. 英国国教会</li> <li>15. ピルグリム・ファーザーズ</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2540	授業科目名	英語科教育特論A	2022年度第1期
担当者	伊藤 豊美	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。			
到達目標	到達目標 1 英語科教育の背景となる専門知識を修得する。 到達目標 2 実際の教室における高い指導技術を身に付ける。 到達目標 3 英語そのものの高い運用能力を身に付ける。			
成績評価基準	授業時の発表（40%）、レポートの内容（30%）、指導技術の修得状況（30%）により、総合的に評価する。			
留意事項	一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。			
教材	片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 国際社会における英語：国際化と英語教育、国際語としての英語の将来</li> <li>3 世界の英語教育事情：ヨーロッパ諸国、アジア・アフリカ等の外国語教育</li> <li>4 日本の英語教育の史的展望：(1) 江戸末期～大正</li> <li>5 日本の英語教育の史的展望：(2) 昭和～平成</li> <li>6 日本の英語教育の史的展望：(3) 令和～新しい時代に向けて</li> <li>7 英語教授法の変遷 (1) The Grammar Translation Method &amp; Direct Methods</li> <li>8 英語教授法の変遷 (2) The Oral Method</li> <li>9 英語教授法の変遷 (3) The Oral Approach</li> <li>10 英語教授法の変遷 (4) The Cognitive Approach</li> <li>11 英語教授法の変遷 (5) Communicative Language Teaching (CLT)</li> <li>12 英語科教育教材論 (1) 言語材料についての知識 英語の音声、英語の文法、英語の語彙、英語の文章構成</li> <li>13 英語科教育教材論 (2) 言語活動のための教材開発 リスニング教材、スピーキング教材、リーディング教材、ライティング教材</li> <li>14 英語科教育教材論 (3) 異文化理解のための教材開発 英語教育と異文化理解、異文化理解のための教材開発</li> <li>15 英語科教育教材論 (4) 誤答分析からの知見 中間言語、学習者の言語発達過程、誤答の収集と分類</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）		専攻名（コース名）	英語英米文学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M2545	授業科目名	英語科教育特論B	期間	2022年度第2期
担当者	伊藤 豊美	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。				
到達目標	到達目標 1 英語科教育の背景となる専門知識を修得する。 到達目標 2 実際の教室における高い指導技術を身に付ける。 到達目標 3 英語そのものの高い運用能力を身に付ける。				
成績評価基準	授業時の発表（40%）、レポートの内容（30%）、指導技術の修得状況（30%）により、総合的に評価する。				
留意事項	一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。				
教材	片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。				
授業予定	1 英語科教育方法論 (1) コミュニケーションをめぐる考察 コミュニケーションの特質、コミュニケーション能力の定義 2 英語科教育方法論 (2) 4 技能の実践的指導法①リスニング 3 英語科教育方法論 (3) 4 技能の実践的指導法②スピーキング 4 英語科教育方法論 (4) 4 技能の実践的指導法③リーディング 5 英語科教育方法論 (5) 4 技能の実践的指導法④ライティング 6 英語科教育方法論 (6) 異文化理解教育への対応 7 学習指導要領 (1) 歴史的展望-学習指導要領の変遷 8 学習指導要領 (2) 作成過程と内容構成 9 学習指導要領 (3) 中学校における学習指導要領のねらい 10 学習指導要領 (4) 高等学校における学習指導要領のねらい 11 学習指導要領 (5) 学習指導要領と検定教科書 学習指導要領の法的意義、教科書検定のプロセス 12 英語科教育評価論 (1) 英語科教育とテスト 英語教育における測定・評価の意義と目的、評価の種類と方法 13 英語科教育評価論 (2) 各種テスト例と作成上の留意点 14 英語科教育学習者論 学習者の実態と要因 15 英語科教育教師論 英語教員のミニマム・エッセンシャルと研修				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3110	授業科目名	地域社会学特論I	2022年度第1期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、グローバル化をめぐるさまざまな動向を取り上げ、それらを捉えるための手がかりについて解説を加えるとともに、社会の多文化化が生み出す諸問題について考察する。また、地域社会の多文化化に関する論考を取り上げ、輪読を行う。			
到達目標	①地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。 ②日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に論じることができる。			
成績評価基準	授業への取り組み姿勢（報告と討論への参加）：40% 期末レポート：60%			
留意事項				
教材	輪読用文献として、以下を使用する。 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著『地方発 外国人住民との地域づくり-多文化共生の現場から-』晃洋書房、2019年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。			
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：グローバル化とは何か：国境を超えた現象をとらえる 第3回：輪読（序章 日本の地方部における多文化化状況） 第4回：国境を超える人の移動 第5回：輪読（第2章 中山間地域における技能実習生の受け入れ） 第6回：国際移動とジェンダー 第7回：輪読（第4章 農村における外国人住民との共生） 第8回：国際移動をめぐる課題 第9回：輪読（第5章 静岡県焼津市のブラジル人とフィリピン人） 第10回：「国民」とは誰か 第11回：輪読（第7章 地方部における日本語学習支援） 第12回：日本社会と移民 第13回：輪読（第9章 地方在住の外国人住民への医療・福祉対応） 第14回：日本の労働市場と外国人労働者 第15回：輪読（第10章 地方に暮らす外国人のメンタルヘルス）			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3115	授業科目名	地域社会学特論II	2022年度第2期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、地域社会における異質な他者を理解するための方法論を取り上げ、その実践例と成果について解説を加える。また、方法論のなかでも特にライフストーリーの手法に注目し、輪読を通して、異文化理解のうえでそれがどのような強みを持っているのかを考察する。			
到達目標	①地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。 ②日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に論じることができる。			
成績評価基準	授業への取り組み姿勢（報告と討論への参加）：40% 期末レポート：60%			
留意事項				
教材	輪読用文献として、以下を使用する。 谷富夫編『ライフストーリーを学ぶ人のために 新版』世界思想社、2008年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。			
授業予定	第1回：オリエンテーション 第2回：質的調査の考え方 第3回：輪読（第1章 ライフストーリーとは何か） 第4回：フィールドワーク 第5回：輪読（第2章 ライフストーリーの可能性） 第6回：参与観察 第7回：輪読（第3章 沖縄出稼者と定住） 第8回：インタビュー 第9回：輪読（第4章 在日韓国・朝鮮人の「世代間生活史」） 第10回：ワークショップ 第11回：輪読（第6章 文化住宅街の青春） 第12回：ライフストーリー分析 第13回：輪読（第9章 在日コリアンの子どもたち） 第14回：ドキュメント分析 第15回：輪読（第10章 高度医療に見られる生と死）			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3120	授業科目名	家族社会学特論I	2022年度第1期
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族研究の基礎となる理論、分析視角を学習する。 家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する。 並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。			
到達目標	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる。 家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解する。			
成績評価基準	授業への取り組み、口頭発表、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房。			
授業予定	第 1 回 講義概要 オリエンテーション 第 2 回 家族社会学の分析視角 第 3 回 輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』 第 4 回 歴史社会学的アプローチ 第 5 回 人口学的アプローチ 第 6 回 ジェンダー研究的アプローチ 第 7 回 エスノメソドロジック的アプローチ 第 8 回 輪読② マリノウスキー『性・家族・社会』 第 9 回 構造機能論的アプローチ 第 10 回 家族ストレス論的アプローチ 第 11 回 相互作用論的アプローチ 第 12 回 交換論的アプローチ 第 13 回 輪読③ マードック『社会構造』 第 14 回 ライフコース論的アプローチ 第 15 回 ネットワーク論的アプローチ 第 16 回 口述試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3125	授業科目名	家族社会学特論II	2022年度第2期
担当者	山下 美紀	授業形態	講義・演習	単位数
授業概要	この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める。とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する。講義に関連する基本的文献を随時紹介する。			
到達目標	家族社会学研究の基本を理解する。 現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる。			
成績評価基準	授業への取り組み、討論、レポート、口述試験で総合的に評価する。			
留意事項				
教材	参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社。			
授業予定	第 1 回 講義概要 家族社会学研究の基本 第 2 回 日本の家族変動 第 3 回 恋愛と結婚 第 4 回 子育てにみる家族主義の限界 第 5 回 討論① 第 2 回～第 4 回をふまえて 第 6 回 介護の「再家族化」 第 7 回 家族階層と教育機会 第 8 回 生活の共同性と家族主義 第 9 回 討論② 第 6 回～第 8 回をふまえて 第 10 回 「お金」と「愛情」の間 第 11 回 セクシュアル・マイノリティの家族 第 12 回 成人子と親との関係 第 13 回 討論③ 第 10 回～第 12 回をふまえて 第 14 回 家族と政治・法律 第 15 回 討論④・まとめ 第 16 回 口述試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3130	授業科目名	社会集団・組織論特論I	2022年度第1期
担当者	濱西 栄司	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。代表的な理論として、前半では Olson の集合行為論、後半では Zald、McCarthy、McAdam らによる資源動員論をとりあげ、文献の講読を行う。			
到達目標	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解し、もってさまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な知識・技能を修得する。			
成績評価基準	レジュメ作成と発表（50%）、期末レポート（50%）			
留意事項				
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必携テキスト：特になし</li> <li>・参考書：森脇俊雄、『集団・組織』東京大学出版会、2000年</li> <li>・参考資料：適宜、プリントなどを配布する。</li> </ul>			
授業予定	第 1 回 序論—目的合理的行為 第 2 回 集団・組織形成の前提 第 3 回 公共選択アプローチ 第 4 回 集合財とフリーライダー問題 第 5 回 選択的誘因と集団規模、政治的企業家 第 6 回 利益集団論へのインパクト 第 7 回 オルソン批判と現代政治 第 8 回 事例・実験による検証 第 9 回 集合行為問題と民主政治（1）経済発展 第 10 回 集合行為問題と民主政治（2）国家論 第 11 回 組織の維持・存続 第 12 回 離脱・発言・忠誠 第 13 回 組織間関係論（1） 第 14 回 組織間関係論（2）社会学的組織連関論 第 15 回 公共選択アプローチの意義と限界			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3135	授業科目名	社会集団・組織論特論II	2022年度第2期
担当者	濱西 栄司	授業形態	講義	2単位
授業概要	<p>本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。授業では、社会集団・組織論（社会学）における代表的な理論として動員論（資源動員論を核としてフレーミング論や政治的機会構造論などを組み合わせた理論体系）をとりあげ、その他の研究パラダイムと比較検討しつつ、方法論的特徴や背景、可能性、限界等について説明し、その修正策やオルタナティブについて議論する。比較検討するしていく。適宜、関連する歴史社会学／社会史的研究（Durkheim、Weber、Friedman、Touraine、Tilly 他）も紹介する。</p>			
到達目標	<p>理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解し、もってさまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な知識・技能を修得する。</p>			
成績評価基準	レジュメ作成と発表（50%）、期末レポート（50%）			
留意事項				
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必携テキスト：特になし</li> <li>・参考書：『資源動員と組織戦略』（新曜社）、『アラン・トゥーレーヌ』（東信堂）、『問いから始める社会運動論』（有斐閣）</li> <li>・参考資料：適宜、プリントなどを配布する。</li> </ul>			
授業予定	<p>第1回 資源動員論の位置（1）集合行動論との関係  第2回 資源動員論の位置（2）資源動員論の意義  第3回 動員論の理論的展開（1）合理的理論  第4回 動員論の理論的展開（2）崩壊から連帯へ  第5回 動員論の理論的展開（3）功利主義的理論  第6回 動員論の実証（1）ジェンダー  第7回 動員論の実証（2）エスニシティ  第8回 動員論の実証（3）環境問題  第9回 動員論の課題（1）合理性問題  第10回 動員論の課題（2）ミクロとマクロ  第11回 動員論の課題（3）実証可能性  第12回 動員論の課題（4）労働論  第13回 動員論の課題（5）NSM論  第14回 国際的研究の現状（1）理論の分裂  第15回 国際的研究の将来（2）組織から集団へ</p>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3140	授業科目名	社会心理学特論I	2022年度第1期
担当者	土井 隆義	授業形態	講義	2単位
授業概要	社会的格差の拡大や失業率の高さなど、現代青年期をとりまく社会状況は非常に厳しい状況にあります。しかし、その一方で彼らの生活満足度は高く、また幸福感も強まる傾向が見られます。この両者のギャップはどのように理解すればよいのでしょうか。この授業では、その社会心理学的な解明を試みます。			
到達目標	現代日本の青年層に特徴的に見受けられる意識の特徴と、そこから派生する諸問題の社会心理的側面について、後期近代という社会背景から理解することを目指します。			
成績評価基準	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートで評価します。			
留意事項	授業中はぜひ積極的に質問し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。			
教材	とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介します。			
授業予定	第 1 回 プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか～ 第 2 回 青年期の社会的格差（1）～劣化する経済的基盤～ 第 3 回 青年期の社会的格差（2）～社会制度と格差化～ 第 4 回 流動化する現代社会（1）～青年期の幸福と不安～ 第 5 回 流動化する現代社会（2）～人間関係の規制緩和～ 第 6 回 リスク化する人間関係（1）～アノミー化する人間関係～ 第 7 回 リスク化する人間関係（2）～人間関係の新たなジレンマ～ 第 8 回 ポスト近代化の時代（1）～成長社会から成熟社会へ～ 第 9 回 ポスト近代化の時代（2）～フラット化する世界～ 第 10 回 変貌する承認の構図（1）～世代間格差の変容～ 第 11 回 変貌する承認の構図（2）～自由から承認へ～ 第 12 回 青年期の新たな心性（1）～生活圏の内閉化～ 第 13 回 青年期の新たな心性（2）～新しい幸福観の勃興～ 第 14 回 反転する時代精神（1）～生活圏の分断化～ 第 15 回 反転する時代精神（2）～新しい人間観の陥穽～			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3145	授業科目名	社会心理学特論II	期間
担当者	土井 隆義	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の犯罪動向を題材として取り上げ、その増減が示唆する社会心理学的な含意について考察します。また、犯罪を統制する側の社会がどんなロジックを有しているのか、その社会心理学的側面についても考察を行います。			
到達目標	逸脱という社会現象を素材にして、社会心理学的なものの見方・考え方を解説します。「逸脱をなくす」という当為の問題としてではなく、「逸脱をとおして社会を知る」という存在の問題として犯罪現象を扱います。			
成績評価基準	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートで評価します。			
留意事項	授業中はぜひ積極的に質問し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。			
教材	とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介します。			
授業予定	第 1 回 プロローグ～社会的逸脱とはどんな現象なのか～ 第 2 回 逸脱行動と社会統制（1）～社会的逸脱とは何か～ 第 3 回 逸脱行動と社会統制（2）～人格崇拜のアポリア～ 第 4 回 社会統制という変数（1）～社会統制の潜在機能～ 第 5 回 社会統制という変数（2）～認知バイアスの陥穽～ 第 6 回 社会病理と個人病理（1）～社会的属性と選択的統制～ 第 7 回 社会病理と個人病理（2）～社会的リアリティの変容～ 第 8 回 逸脱行動の社会心理的要因（1）～社会的凝集性という変数～ 第 9 回 逸脱行動の社会心理的要因（2）～社会的期待値という変数～ 第 10 回 後期近代の逸脱行動（1）～近代社会のエートス～ 第 11 回 後期近代の逸脱行動（2）～文化的遅滞の構図～ 第 12 回 後期近代の逸脱行動（3）～近代エートスの変容～ 第 13 回 後期近代の社会統制（1）～規律訓練から環境管理へ～ 第 14 回 後期近代の社会統制（2）～セキュリティ社会の陥穽～ 第 15 回 エピローグ～後期近代における逸脱と統制のゆくえ～			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3150	授業科目名	宗教社会学特論I	2022年度第1期
担当者	福田 雄	授業形態	講義	単位数
授業概要	宗教社会学の古典的文献を学習し、社会文化に関する洞察を得るとともに、現代宗教にかんする実証的研究と対比させながら、その現代的意義を確認する。マックス・ヴェーバー、エミール・デュルケームを中心にとりあげる。			
到達目標	宗教社会学の古典的研究における問題関心（近代化と世俗化）を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。 上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。			
成績評価基準	レポート（60%）および授業への取り組み姿勢（40%） 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論内容。			
留意事項				
教材	『マックス・ヴェーバー 宗教社会学論集 第1巻上（北海道大学出版会、デュルケーム『宗教生活の基本形態 上・下』（ちくま学芸文庫、2014年）9. ～12年） 2. ～ 5.			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 「緒言」</li> <li>3. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 I 問題」</li> <li>4. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 II 禁欲主義的プロテスタンティズムの天職倫理」</li> <li>5. 「プロテスタント諸信団と資本主義の精神」</li> <li>6. Parsons, T. 1966 "Introduction" in Max Weber, The Sociology of Religion. Beacon Press</li> <li>7. ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」『宗教社会学論選』</li> <li>8. 「苦難の神義論と災禍をめぐる記念行事」『宗教と社会』24：65-80</li> <li>9. 「序論」</li> <li>10. 「第一部 前提問題」</li> <li>11. 「第二部 基本的信念」</li> <li>12. 「第三部 主要な儀礼的態度」</li> <li>13. ウォーナー、W. L. 「アメリカの神聖な儀式の象徴的分析」『アメリカ人の生活構造』</li> <li>14. 岡崎宏樹「社会学と哲学」『日仏社会学年報』26：69-90</li> <li>15. 振り返りと総括</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3155	授業科目名	宗教社会学特論II	2022年度第2期
担当者	福田 雄	授業形態	講義	2単位
授業概要	宗教社会学の古典的文献の背景にある方法論を学習し、当時の文脈における問題関心に照らし合わせながら批判的検討を行う。さらに現代社会を分析するにあたっての展開の可能性を検討する。			
到達目標	宗教社会学の古典的研究における問題関心とその方法論を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。 上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。			
成績評価基準	レポート（60%）および授業への取り組み姿勢（40%） 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論内容。			
留意事項				
教材	デュルケーム『社会学的方法の基準』（講談社学術文庫、2018年）5. ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）8. ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）9. 盛山和夫『社会学的方法的立場』（東京大学出版会、2013年）6.13. 厚東洋輔『〈社会的なもの〉の歴史』（東京大学出版会、2020年）7.14			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 友枝敏雄「社会学の方法」『社会学の力』</li> <li>3. 菊谷和宏「トクヴィルとデュルケーム」『社会学評論』49(2): 172-187</li> <li>4. 山崎亮「『宗教生活の基本形態』の宗教学的読解」『デュルケーム宗教学思想の研究』</li> <li>5. 『社会学的方法の基準』</li> <li>6. 盛山和夫「社会的事実とは何か」『社会学的方法的立場』</li> <li>7. 厚東洋輔「デュルケームと道徳の「実証科学」」『〈社会的なもの〉の歴史』</li> <li>8. 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』</li> <li>9. 『仕事としての学問 仕事としての政治』</li> <li>10. マイヤー「歴史の理論と方法」『歴史は科学か』</li> <li>11. ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」『歴史は科学か』</li> <li>12. 佐藤俊樹「社会科学とは何か」『社会科学と因果分析』</li> <li>13. 盛山和夫「理念型という方法」『社会学的方法的立場』</li> <li>14. 厚東洋輔「ヴェーバーと合理主義の社会学」『〈社会的なもの〉の歴史』</li> <li>15. 振り返りと総括</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3210	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	山下 美紀	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回 社会学における学術研究について 第2回 研究課題（仮）の設定 第3回 先行研究：文献の収集 第4回 先行研究：批判的検討 第5回 先行研究：今後の課題 第6回 研究課題の設定 第7回 研究の方法 第8回 調査・分析の方法 第9回 調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回 調査の実施について 第11回 調査データの整理 第12回 調査データの分析 第13回 分析結果の考察 第14回 分析結果の考察：先行研究との関係 第15回 研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3215	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	山下 美紀	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	到達目標1：設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 到達目標2：調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 到達目標3：研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成できる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回 社会学における学術研究について 第2回 研究課題の設定 第3回 研究方法・調査論について 第4回 研究論文の構成とルール 第5回 調査の実施計画 第6回 調査の実施について 第7回 調査結果の報告：全体状況 第8回 調査結果の報告：フィールド等 第9回 調査結果の報告とコメント 第10回 調査成果の整理 第11回 調査成果の整理と考察 第12回 研究論文の執筆：概要 第13回 研究論文の執筆：前半 第14回 研究論文の執筆：後半 第15回 まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3217	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題（仮）の設定 第3回：先行研究：文献の収集 第4回：先行研究：批判的検討 第5回：先行研究：今後の課題 第6回：研究課題の設定 第7回：研究の方法 第8回：調査・分析の方法 第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回：調査の実施について 第11回：調査データの整理 第12回：調査データの分析 第13回：分析結果の考察 第14回：分析結果の考察：先行研究との関係 第15回：研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3218	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	二階堂 裕子	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	到達目標1：設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 到達目標2：調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 到達目標3：研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題の設定 第3回：研究方法・調査論について 第4回：研究論文の構成とルール 第5回：調査の実施計画 第6回：調査の実施について 第7回：調査結果の報告：全体状況 第8回：調査結果の報告：フィールド等 第9回：調査結果の報告とコメント 第10回：調査成果の整理 第11回：調査成果の整理と考察 第12回：研究論文の執筆：概要 第13回：研究論文の執筆：前半 第14回：研究論文の執筆：後半 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3220	授業科目名	社会学演習I	2022年度第1期
担当者	濱西 栄司	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。			
到達目標	①社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。 ②先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。 ③必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題（仮）の設定 第3回：先行研究：文献の収集 第4回：先行研究：批判的検討 第5回：先行研究：今後の課題 第6回：研究課題の設定 第7回：研究の方法 第8回：調査・分析の方法 第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる 第10回：調査の実施について 第11回：調査データの整理 第12回：調査データの分析 第13回：分析結果の考察 第14回：分析結果の考察：先行研究との関係 第15回：研究論文の構成、執筆について 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会学
授業コード	M3225	授業科目名	社会学演習II	2022年度第2期
担当者	濱西 栄司	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。			
到達目標	①設定した課題について、適切な調査を行うことができる。 ②調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。 ③研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。			
成績評価基準	議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。			
授業予定	第1回：社会学における学術研究について 第2回：研究課題の設定 第3回：研究方法・調査論について 第4回：研究論文の構成とルール 第5回：調査の実施計画 第6回：調査の実施について 第7回：調査結果の報告：全体状況 第8回：調査結果の報告：フィールド等 第9回：調査結果の報告とコメント 第10回：調査成果の整理 第11回：調査成果の整理と考察 第12回：研究論文の執筆：概要 第13回：研究論文の執筆：前半 第14回：研究論文の執筆：後半 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3310	授業科目名	日本社会史特論I	2022年度第1期
担当者	西尾 和美	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、日本中世を中心に、社会を生きる人びとの営みの前提となった生存環境の中から、地震、飢饉、疫病をテーマとして取り上げ、史料と先行研究の講読・検討により授業を進める。それにより、多角的な視野に立った学識と高等能力を身につける。			
到達目標	到達目標1： 授業で取り上げる諸テーマに関する史料を解読・分析することができる。 到達目標2： 授業で取り上げる諸テーマに関する専門研究を講読・検討できる。 到達目標3： 授業で取り上げる諸テーマにつき、自らの考察を述べるることができる。			
成績評価基準	・事前学習課題（1回目・7回目に提示）2回 各回 20% × 2（到達目標1・2） ・定期試験（期末レポート）60%（到達目標1～3）			
留意事項	本授業を履修する者は、講義が事前学習を前提として、史料と関連の専門文献の検討を中心に進められることを十分留意の上、受講してほしい。			
教材	レジュメ・史料プリントを配付する。講読文献・参考文献は随時、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：「日本中世の生存環境」</li> <li>2. 歴史地震について</li> <li>3. 中世以前の地震</li> <li>4. 中世前期の地震</li> <li>5. 中世後期の地震</li> <li>6. 戦国・織豊期の地震</li> <li>7. 中世以後の歴史地震</li> <li>8. 日本中世の気候と飢饉</li> <li>9. 中世前期の飢饉</li> <li>10. 中世後期の飢饉</li> <li>11. 戦国期の飢饉</li> <li>12. 飢饉と疫病</li> <li>13. 施行</li> <li>14. 施餓鬼</li> <li>15. 総括「日本中世の生存環境」</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3315	授業科目名	日本社会史特論II	2022年度第2期
担当者	西尾 和美	授業形態	講義	単位数
授業概要	本授業では、日本中世社会の人びとがどのような思惟と心性のもとで生きたのかをテーマとして、史料と先行研究の講読・検討により授業を進める。それにより、多角的な視野に立った学識と高等能力を身につける。			
到達目標	到達目標1： 授業で取り上げる諸テーマに関する史料を解読・分析することができる。 到達目標2： 授業で取り上げる諸テーマに関する専門研究を講読・検討することができる。 到達目標3： 授業で取り上げる諸テーマにつき、自らの考察を述べることができる。			
成績評価基準	・事前学習課題（1回目・7回目に提示）2回 各回 20% × 2（到達目標1・2） ・定期試験（期末レポート）60%（到達目標1～3）			
留意事項	本授業を履修する者は、講義が事前学習を前提として、史料と関連の専門文献の検討を中心に進められることを十分留意の上、受講してほしい。			
教材	レジュメ・史料をプリント配付する。講読文献・参考文献は随時、指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論「日本中世の思惟と心性」</li> <li>2. 中世宗教の成立</li> <li>3. 現世安穩・後世善処</li> <li>4. 罪と罰の宗教</li> <li>5. 六道輪廻と極楽</li> <li>6. 出家・遁世</li> <li>7. 中世の人びとの思惟と宗教</li> <li>8. 中世の人びとと「泣き」</li> <li>9. 中世の人びとの「怒り」と暴力</li> <li>10. 中世の人びとの「怨み」</li> <li>11. 身分と言語</li> <li>12. 地域と言語</li> <li>13. 声としぐさ</li> <li>14. 中世の人びとの心性と身分・地域</li> <li>15. 総括「日本中世の思惟と心性」</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3320	授業科目名	日本社会史特論III	2022年度第1期
担当者	久野 洋	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、明治期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の近代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
到達目標	到達目標1 日本社会の近代化の特徴を説明できる。 到達目標2 歴史学における地域史研究の意義を説明できる。			
成績評価基準	授業への取り組み度（出席・発言・発表）と課題レポート等により、総合的に評価する。			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. さまざまな明治維新</li> <li>3. 身分制の解体</li> <li>4. 文明開化と民衆宗教</li> <li>5. 徴兵令と血税一揆</li> <li>6. 自由民権運動と岡山地域</li> <li>7. 地方名望家と殖産興業</li> <li>8. 地方名望家と地方行政</li> <li>9. 地方名望家と明治地方自治制</li> <li>10. 議会制の導入と社会変容</li> <li>11. 災害と地域社会</li> <li>12. 日清・日露戦争と岡山地域</li> <li>13. 地域資料からみえる帝国日本①（行政文書）</li> <li>14. 地域資料からみえる帝国日本②（家文書）</li> <li>15. 総括と展望</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3325	授業科目名	日本社会史特論IV	2022年度第2期
担当者	久野 洋	授業形態	講義	2単位
授業概要	本授業では、大正・昭和戦前期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
到達目標	到達目標1 日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を説明できる。 到達目標2 歴史学における地域史研究の意義を説明できる。			
成績評価基準	授業への取り組み度（出席・発言・発表）と課題レポート等により、総合的に評価する。			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	授業中に適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 都市化と都市住民</li> <li>3. 都市問題と都市騒擾</li> <li>4. 都市民衆騒擾と岡山地域</li> <li>5. 第一次世界大戦のインパクト</li> <li>6. 米騒動と岡山地域</li> <li>7. 労働・農民運動と岡山地域</li> <li>8. 名望家秩序の変貌</li> <li>9. 普選体制への転換</li> <li>10. 恐慌の時代</li> <li>11. 経済更生運動と農村の組織化</li> <li>12. 国防婦人会の成立と展開</li> <li>13. 総力戦体制と国民再組織</li> <li>14. 戦中・戦後の都市住民</li> <li>15. 総括と展望</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3330	授業科目名	アジア社会史特論I	2022年度第1期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	2単位
授業概要	前近代中国における儒学・科挙・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。			
到達目標	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科挙・宗族の概念を用いて説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：儒教とは何か 第 3 回：五経と四書 第 4 回：中国史における官僚 第 5 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晋） 第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 8 回：科挙の導入と理念 第 9 回：科挙がもたらした政治的影響 第 10 回：科挙がもたらした思想的影響 第 11 回：科挙がもたらした社会的影響 第 12 回：科挙の隆盛と宗族の形成 第 13 回：宗族と中国社会 第 14 回：科挙の終焉 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3335	授業科目名	アジア社会史特論II	2022年度第2期
担当者	鈴木 真	授業形態	講義	2単位
授業概要	清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。			
到達目標	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：大清帝国の誕生 第 3 回：旗人と民人 第 4 回：辮髪と科挙 第 5 回：江南社会と「南巡」 第 6 回：大清における思想統制 第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間） 第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間） 第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 10 回：旗人と翻訳科挙 第 11 回：満洲旗人と文学 第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』 第 13 回：科挙と『儒林外史』 第 14 回：官僚と『官場現形記』 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3340	授業科目名	ヨーロッパ社会史特論I	2022年度第1期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	講義・演習	2単位
授業概要	古代ギリシア・ローマ社会について道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
到達目標	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。			
成績評価基準	レポート 70%、報告 30%			
留意事項	ある程度演習形式を取り入れる。			
教材	参考文献等については授業中に配布する。			
授業予定	第 1 回 道德の歴史のための導入 第 2 回 古代ギリシア社会についての概説 第 3 回 古代ギリシアの自己と性；自己 第 4 回 古代ギリシアの自己と性；身体 第 5 回 古代ギリシアの自己と性；女性 第 6 回 古代ギリシアの自己と性；少年愛 第 7 回 古代ギリシアの自己と性；プラトン 第 8 回 古代ギリシアの自己と性；まとめ 第 9 回 古代ローマ社会についての概説 第 10 回 古代ローマの自己と性；自己 第 11 回 古代ローマの自己と性；身体 第 12 回 古代ローマの自己と性；女性 第 13 回 古代ローマの自己と性；少年愛 第 14 回 古代ローマの自己と性；ストア派 第 15 回 古代ローマの自己と性；まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3345	授業科目名	ヨーロッパ社会史特論II	2022年度第2期
担当者	轟木 広太郎	授業形態		2単位
授業概要	古代末期から中世にかけてのキリスト教的な道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
到達目標	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。			
成績評価基準	レポート20%、報告80%			
留意事項	ある程度演習形式を取り入れる。			
教材	参考文献等については授業中に配布する。			
授業予定	第 1 回 道德の歴史のための導入 第 2 回 初期キリスト教の自己と性；司牧 第 3 回 初期キリスト教の自己と性；生殖 第 4 回 初期キリスト教の自己と性；身体 第 5 回 初期キリスト教の自己と性；洗礼 第 6 回 初期キリスト教の自己と性；贖罪 第 7 回 初期キリスト教の自己と性；修道生活 第 8 回 初期キリスト教の自己と性；処女 第 9 回 初期キリスト教の自己と性；結婚 第 10 回 初期キリスト教の自己と性；アウグスティヌス 第 11 回 中世の自己と性；贖罪の変遷 第 12 回 中世の自己と性；結婚 第 13 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（事件） 第 14 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（史料） 第 15 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（導き）			

文学研究科（博士前期課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3350	授業科目名	日本民俗学特論I	2022年度第1期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。			
到達目標	民俗学の立脚点を理解するとともに、とくに民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解できるようになることを目指す。あわせて、民俗学の論文の読解力の向上を目指す。			
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。			
留意事項	一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。			
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民俗学的認識の誕生</li> <li>2. 柳田國男の仕事</li> <li>3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉</li> <li>4. フォークロリズムをめぐる議論</li> <li>5. 民俗宗教とは</li> <li>6. ムラと村落祭祀</li> <li>7. 村組と地縁集団の祭祀</li> <li>8. 宮座と当屋制</li> <li>9. 同族と同族祭祀</li> <li>10. 先祖祭祀</li> <li>11. 年中行事の構造</li> <li>12. 人の一生と靈魂観</li> <li>13. 祭儀と祝祭</li> <li>14. 神がかりとシャーマニズム</li> <li>15. 〈俗信〉という概念</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3355	授業科目名	日本民俗学特論II	2022年度第2期
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義	2単位
授業概要	<p>遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。</p>			
到達目標	<p>日本の社会における種々の遍歴の実態を知るとともに、民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることが理解できることを目指す。</p>			
成績評価基準	<p>期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。</p>			
留意事項	<p>一部、演習形式もとりいれ、文献の講読と発表を義務づける。</p>			
教材	<p>必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。</p>			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 漂泊・遍歴の諸相</li> <li>2. 巡礼という回路</li> <li>3. 巡礼類型論</li> <li>4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼</li> <li>5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗</li> <li>6. 社会的弱者の巡礼</li> <li>7. ハンセン病と巡礼</li> <li>8. 乞食巡礼の民俗</li> <li>9. もの乞いの思想</li> <li>10. 六十六部日本廻国</li> <li>11. 持経者の遍歴と如法経信仰</li> <li>12. 六十六部縁起</li> <li>13. 王権の神話・儀礼と遍歴</li> <li>14. 職業的廻国者集団の活動</li> <li>15. 遍歴と定住の交渉</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3360	授業科目名	考古学特論I	2022年度第1期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	講義	2単位
授業概要	縄文、弥生、古墳時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
到達目標	縄文から古墳時代の考古学事例を通して、日本の古代社会成立のプロセスとその要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：縄文時代の起源とその展開 第 3 回：縄文海進の影響について 第 4 回：三内丸山遺跡の衣食住 第 5 回：縄文時代関連の論文講読 第 6 回：弥生時代の起源とその展開 第 7 回：高地性集落と環濠集落の出現 第 8 回：纏向遺跡の集落構造 第 9 回：弥生時代関連の論文講読 第 10 回：古墳の起源とその展開 第 11 回：前方後円墳とは何か 第 12 回：造山古墳の考古学的位置付け 第 13 回：古代吉備と古代出雲の関係について 第 14 回：古墳時代関連の論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3365	授業科目名	考古学特論II	2022年度第2期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	単位数	2単位
授業概要	西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
到達目標	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、都市国家成立のプロセスとその要因について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：西アジアにおける農耕の起源 第 3 回：西アジアにおける牧畜の起源 第 4 回：ギョベックリテペ遺跡のインパクト 第 5 回：新石器時代関連の論文講読 第 6 回：西アジアにおける都市の発生 第 7 回：西アジアにおける交易の複雑化 第 8 回：ウルク遺跡、テル・ブラク遺跡の特徴 第 9 回：都市の起源に関する論文講読 第 10 回：都市国家成立の背景 第 11 回：農耕生産力・鉱物資源の考古学的評価 第 12 回：キュルテペ遺跡の発掘成果①銅石器時代 第 13 回：キュルテペ遺跡の発掘成果②青銅器時代 第 14 回：キュルテペ遺跡に関する論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3410	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	演習	2単位
授業概要	日本の縄文時代、弥生時代の著名な遺跡を取り上げ、各遺跡の特徴を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
到達目標	縄文時代、弥生時代の考古学事例を通して、日本の先史時代の特徴について説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：縄文時代：三内丸山遺跡の発掘調査 第 3 回：三内丸山遺跡の集落構造 第 4 回：三内丸山遺跡出土の巨大木造建築群 第 5 回：論文講読 第 6 回：弥生時代：吉野ヶ里遺跡の発掘調査 第 7 回：吉野ヶ里遺跡の環濠 第 8 回：吉野ヶ里遺跡の墳丘墓 第 9 回：論文講読 第 10 回：弥生時代：纏向遺跡の発掘調査 第 11 回：纏向遺跡の集落構造 第 12 回：纏向遺跡の掘立柱建築群 第 13 回：箸墓古墳の存在 第 14 回：論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3415	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	紺谷 亮一	授業形態	演習	2単位
授業概要	西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
到達目標	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、メガサイトおよびメガシティの発生についてその背景を説明できる。			
成績評価基準	口頭発表 50%、課題レポート 50%			
留意事項	一部、演習形式も取り入れる。			
教材	講義中に指示する。			
授業予定	第 1 回：講義概要 第 2 回：新石器時代：ギョベックリテペ遺跡の発掘調査 第 3 回：ギョベックリテペの集落構造 第 4 回：ギョベックリテペ出土の石製彫刻 第 5 回：論文講読 第 6 回：銅石器時代：アルスランテペ遺跡の発掘調査 第 7 回：アルスランテペ遺跡の公共建築群 第 8 回：アルスランテペ出土の「石棺王墓」 第 9 回：論文講読 第 10 回：青銅器時代：キュルテペ遺跡の発掘調査 第 11 回：キュルテペ遺跡の公共建築群 第 12 回：キュルテペ遺跡の石製偶像 第 13 回：キュルテペ遺跡の先史時代 第 14 回：論文講読 第 15 回：まとめ			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3420	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	西尾 和美	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3425	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	西尾 和美	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3430	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	鈴木 真	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3435	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	鈴木 真	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（20%）、発表（30%）、研究論文（50%）により総合的に評価する。			
留意事項	特になし。			
教材	各クラスの授業で指示する。 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3440	授業科目名	社会史演習I	2022年度第1期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
到達目標	到達目標1：歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。 到達目標2：研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。 到達目標3：先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（50%）、発表（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	社会史
授業コード	M3445	授業科目名	社会史演習II	2022年度第2期
担当者	轟木 広太郎	授業形態	演習	単位数
授業概要	本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。			
到達目標	到達目標1：実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。 到達目標2：分析結果を客観的・批判的に検討することができる。 到達目標3：上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			
成績評価基準	授業時の議論への参加（50%）、発表（50%）により総合的に評価する。			
留意事項				
教材	受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。			
授業予定	第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし			

文学研究科		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3510	授業科目名	社会言語学特論I	期間	2022年度第1期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。「社会言語学特論I」では、教材として参照する先行研究を精読し、得られた知見を把握するとともに、データの収集・蓄積に関する検討を経て収集と分析に着手する。</p>				
到達目標	<p>到達目標1：先行研究を理解し説明できる。          到達目標2：研究が計画できる。          到達目標3：研究が実行できる。          到達目標4：分析に着手できる。</p>				
成績評価基準	<p>授業活動内容：50%          研究レポート：50%</p>				
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>				
教材	<p>尾崎喜光・杉尾瞭子（2015）「校歌の歌詞に関する言語学的研究-倉敷市の公立学校の場合-」（『清心語文』第17号）</p>				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス          第2回：文献の精読と解説（1）-第1章、第2章-          第3回：文献の精読と解説（2）-第3章-          第4回：文献の精読と解説（3）-第4章第1節-          第5回：文献の精読と解説（4）-第4章第2節、第5章-          第6回：研究計画の検討（1）-調査対象等の検討-          第7回：研究計画の検討（2）-修正案の作成-          第8回：研究計画の検討（3）-確定をめざす-          第9回：予備的調査の結果報告と検討          第10回：データベースの枠組みに関する提案と検討（1）          第11回：データベースの枠組みに関する提案と検討（2）-確定をめざす-          第12回：修正計画による予備的調査結果報告と検討          第13回：本調査着手の結果報告と検討（1）          第14回：本調査の結果報告と検討（1）          第15回：本調査の結果報告と検討（2）</p>				

文学研究科		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3515	授業科目名	社会言語学特論II	期間	2022年度第2期
担当者	尾崎 喜光	授業形態	講義・演習	単位数	2単位
授業概要	<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。「社会言語学特論II」では、データの収集・蓄積に関する再検討を経てさらにデータを収集し、最終的な分析を行なう。</p>				
到達目標	<p>到達目標1：先行研究を理解し説明できる。          到達目標2：研究が計画できる。          到達目標3：研究が実行できる。          到達目標4：分析に着手できる。</p>				
成績評価基準	<p>授業活動内容：50%          研究レポート：50%</p>				
留意事項	<p>PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。</p>				
教材	<p>なし。</p>				
授業予定	<p>第1回：ガイダンス          第2回：研究の微修正の有無に関する検討          第3回：本調査の結果報告と検討（1）-校種別分析-          第4回：本調査の結果報告と検討（2）-校歌制定年別分析-          第5回：本調査の結果報告と検討（3）-学校設立年別分析-          第6回：本調査の結果報告と検討（4）-地域別分析-          第7回：分析資料（図表）の作成に関する解説          第8回：本調査の結果報告と検討（5）-校種別再分析-          第9回：本調査の結果報告と検討（6）-校歌制定年別再分析-          第10回：本調査の結果報告と検討（7）-学校設立年別再分析-          第11回：本調査の結果報告と検討（8）-地域別再分析-          第12回：総合分析の報告と検討          第13回：総合分析の報告と再検討          第14回：総合分析の報告と検討-レポート作成をめざして-          第15回：総合分析の報告と再検討-レポート作成をめざして-</p>				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3520	授業科目名	社会文学特論I	2022年度第1期
担当者	綾目 広治	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	大正期から戦前昭和期に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。			
到達目標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。			
成績評価基準	演習での発表。			
留意事項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学研究方法論</li> <li>2. 大正期の批評</li> <li>3. 昭和初期の批評</li> <li>4. 昭和十年代の批評</li> <li>5. 批評理論</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3525	授業科目名	社会文学特論II	2022年度第2期
担当者	綾目 広治	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	第I期に続き、日本近代文学の中での代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのかを考察し、さらに広くは現代の社会思想史における観点からの考察もしていく。したがって、この講義は社会的な観点からの現代文学史であり、日本における現代社会思想史についての授業でもある。			
到達目標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。			
成績評価基準	演習での発表。			
留意事項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読むこと。			
教材	適宜指示する。			
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、戦後期の批評</li> <li>2、1960年代までの批評</li> <li>3、1980年代までの批評</li> <li>4、2000年代までの批評</li> <li>5、現代の批評</li> </ol>			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3530	授業科目名	社会文学特論III	2022年度第1期
担当者	広瀬 佳司	授業形態	講義	単位数
授業概要	日本におけるユダヤ人の歴史を紐解き、日本とユダヤ世界の関係を考察する。20世紀のアメリカのユダヤ文化をめぐる諸問題を明らかにしていく。アメリカ社会と東欧社会の対比も見る。			
到達目標	日本語・英語の文献も読み国際的な視野を広げる。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断する。レポート1回（70%） 発表内容 30%			
留意事項	前期は日本とユダヤ人の関係を深く考える。 日本におけるユダヤ人の歴史とホロコーストの歴史も考察する。			
教材	小辻節三「東京からエルサレムへ」 広瀬佳司『ユダヤ世界に魅せられて』			
授業予定	第1回 授業全体の概要 第2回 日本人とユダヤ人 第3回 日本におけるユダヤ人の歴史 第4回 日本におけるユダヤ教会 第5回 アメリカ映画「シンドラーのリスト」とホロコースト 第6回 アメリカ映画「屋根の上のバイオリン弾き」と日本での受容 第7回 杉原千畝とユダヤ人救助 第8回 小辻節三とユダヤ人救助（1） 第9回 小辻節三とユダヤ人救助（2） 第10回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（1） 第11回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（2） 第12回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（3） 第13回 小辻節三の「東京からエルサレムへ」を読む（4） 第14回 アメリカ社会におけるユダヤ人問題 第15回 ホロコーストを考える 第16回 定期試験			

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3535	授業科目名	社会文学特論IV	2022年度第2期
担当者	広瀬 佳司	授業形態	講義	単位数
授業概要	ポーランド生まれの米国ノーベル賞作家であるアイザック・シンガーのユダヤ民話や小説を通して日本民話との類似点と相違点を比較考察する。			
到達目標	文学作品の書かれた文化的。社会的な背景を見ながら作品を読む力を養う。			
成績評価基準	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断する。レポート1回（70%） 発表内容 30%			
留意事項	主には日本語の翻訳を用いますが、原文の英語も読みますのでしっかりと予習をすること。			
教材	広瀬佳司『ユダヤ世界に魅せられて』、他プリント。			
授業予定	第 1 回 授業全体の概要と作家の背景 第 2 回 ユダヤ教とアイザック・シンガー 第 3 回 アイザック・シンガーの描く民話 第 4 回 アイザック・シンガーとその息子 第 5 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」(1) 第 6 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」(2) 第 7 回 アイザック・シンガー短編「馬鹿者ギンペル」(3) 第 8 回 アイザック・シンガーとイディッシュ語作家 第 9 回 東欧・ロシアの戦前に用いられた死語となりつつあるイディッシュ語の意味(1) 第 10 回 東欧・ロシアの戦前に用いられた死語となりつつあるイディッシュ語の意味(2) 第 11 回 アメリカ社会におけるイディッシュ語 第 12 回 アメリカ英語とイディッシュ語 第 13 回 ハリウッド英語にイディッシュ語がいかに用いられているか(1) 第 14 回 ハリウッド英語にイディッシュ語がいかに用いられているか(2) 第 15 回 まとめ			

文学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3550	授業科目名	社会倫理学特論I	期間	2022年度第1期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、いわゆる「生命倫理」を起点としつつ、その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を、カトリックの社会教説のうちに探っていく。				
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。				
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	受講者と相談の上決定する。				
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアをめぐる倫理的問い 第 2 回：生命倫理の問題圏 第 3 回：統治される生と死 第 4 回：出生前診断と人工妊娠中絶 第 5 回：人工生殖技術の諸問題 第 6 回：クローン技術の諸問題 第 7 回：参加者の発表と討論 第 8 回：反出生主義とは何か 第 9 回：生の否定の思想史 第 10 回：生殖技術と反出生主義 第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理 第 12 回：終末期ケアの諸問題 第 13 回：生と死の尊厳をめぐって 第 14 回：参加者の発表と討論 第 15 回：総括				

文学研究科 (修士課程)		専攻名(コース名)	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3555	授業科目名	社会倫理学特論II	期間	2022年度第2期
担当者	崎川 修	授業形態	講義	単位数	2単位
授業概要	「いのち」のケアをめぐる社会倫理的な問題を、それらの問題の構造的契機である「生の統治」と、その非人間性に注目しつつ、カトリックの社会教説のうちに、より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。				
到達目標	生命倫理の諸問題についての知識を、その構造的契機や社会背景と結び付けて理解すること、またこれらの課題への応答を可能にする統合的な人間理解に到達すること。				
成績評価基準	授業時の発表、レポートの内容および授業態度などを総合して評価する。				
留意事項	特になし。				
教材	『回勅 ラウダート・シ』教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2016他、受講者と相談の上決定する。				
授業予定	第 1 回：「いのち」のケアの射程 第 2 回：カトリック社会教説における「いのち」 第 3 回：回勅「フマーネ・ヴィテ」（教皇パウロ 6 世） 第 4 回：回勅「いのちの福音」（教皇ヨハネ・パウロ 2 世） 第 5 回：回勅「ラウダート・シ」（教皇フランシスコ） 第 6 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章） 第 7 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章） 第 8 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章） 第 9 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部） 第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章） 第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章） 第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章） 第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部） 第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」 第 15 回：総括				

文学研究科（修士課程）		専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3570	授業科目名	社会・地理歴史科教育特論I	期間	2022年度第1期
担当者	森 泰三	授業形態	講義（演習を含む）	単位数	2単位
授業概要	アクティブラーニングをはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要なフィールドワークの指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育のあり方について、演習を交え地理学的視野から考察する。				
到達目標	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術であるフィールドワークや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、中学校や高等学校において積極的にアクティブラーニングを導入した授業が展開できる能力を習得する。また、地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。				
成績評価基準	授業時の発表（40％）・レポートの内容（40％）・指導技術の習得状況（20％）により評価する。				
留意事項	授業時間外に学外でフィールドワークを行う。				
教材	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。				
授業予定	第1回 社会科・地理歴史科指導法の現状と課題 第2回 アクティブラーニングの指導法と特徴 第3回 地域調査方法論-巡検学習・地域調査の特徴と課題- 第4回 巡検学習の実際（1）地形・農業 第5回 巡検学習の実際（2）都市・観光 第6回 巡検学習の実際（3）交通・消費活動 第7回 巡検学習の実際（4）先史時代・古代・中世の遺構 第8回 巡検学習の実際（5）近世の遺構 第9回 巡検学習の実際（6）近代-産業遺産を中心に 第10回 巡検学習の学習指導案作成 第11回 地域調査の実践（1）商店街の調査 第12回 商店街調査結果の分析・発表 第13回 地域調査の実践（2）農村地域の調査 第14回 農村地域調査結果の分析・発表 第15回 地域調査の学習指導案作成				

文学研究科（修士課程）	専攻名（コース名）	社会文化学専攻	研究分野	専門関連科目
授業コード	M3575	授業科目名	社会・地理歴史科教育特論II	2022年度第2期
担当者	森 泰三	授業形態	講義（演習を含む）	単位数
授業概要	ICT（特に地理情報システム）の活用をはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要な地理情報システムを活用した指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育と今日的課題について、演習を交え地理学的視野から考察する。			
到達目標	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術である地理情報システムや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、それらを活用した中学校や高等学校における授業が展開できる能力を習得する。また、地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。			
成績評価基準	授業時の発表（40％）・レポートの内容（40％）・指導技術の習得状況（20％）により評価する。			
留意事項	コンピュータや地図などを使用した演習を実施する。			
教材	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。			
授業予定	第1回 ICTを活用した社会科・地理歴史科教育 第2回 地理情報システム概念と実践方法 第3回 WebGISによる地図作成と分析、指導方法 第4回 地理院地図を活用した地形と防災 第5回 MANDARAを活用した統計地図作成と考察 第6回 アドレスマッチングと立地分析 第7回 歴史地理学と社会科教育（1）城下町の立地、伊能図 第8回 歴史地理学と社会科指導（2）新旧地形図と地域変容、地名と歴史 第9回 社会科教育と地理学（1）学校教育と地域 第10回 社会科教育と地理学（2）地域形成と学校の役割 第11回 社会科教育と地理学（3）人口分布と人口増減、少子高齢化 第12回 社会科教育と地理学（4）大都市圏の構造変容 第13回 社会科教育と地理学（5）地方活性化とまちづくり 第14回 社会科教育と地理学（6）観光の開発と保全 第15回 社会科教育と地域の諸課題			